

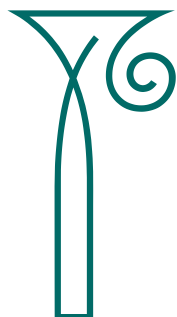
東京都庭園美術館

TOKYO METROPOLITAN TEIEN ART MUSEUM

2024

ANNUAL REPORT

年報



ごあいさつ

開館40周年の節目を迎えた2023年度、当館では年間を通じてさまざまな記念事業を展開しつつ、ユニークな環境特性を活用した新たな可能性に挑戦する端緒としました。2024年度は、さまざまな記念事業を通して培った経験を元に、より充実した美術館活動に取り組んだ一年となりました。

年度内に開催した「開館40周年記念 旧朝香宮邸を読み解く A to Z」「生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界」「建物公開2024 あかり、とるとき」「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」「戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見」の5本の見応えある展覧会に加え、鑑賞体験をより深めるための美術館講座や各種ワークショップなど多彩なプログラムも意欲的に展開しました。

また、来館するすべての人がフラットに、安心して楽しめる環境づくりを目指した「フラットデー」の継続実施や、アクセシビリティ向上を目的とした各種取り組みを通して、「誰にでも開かれた美術館」の実現に向け、職員一人ひとりが創意工夫を凝らしました。

回遊性の向上と庭園利用の活性化に向けた施設整備計画「グランドデザイン」の本格始動とともに、庭園マルシェやJR目黒駅開業140周年を記念したコラボイベントなど地域との連携事業も意欲的に展開し、新たな魅力の創出を図ったことも本年度の特徴となりました。

当館が活動の軸としている「装飾美術」は、日常のあらゆる場面に美術的なアプローチを施すことによって、生活に潤いと豊かさをもたらすことを理念としています。鑑賞を目的とした芸術作品とは異なり、生活の中で実際に体験し、応用し、そこからさらに新たな価値を創造することこそが装飾美術の本質であり、これからの美術館は単に展覧会を鑑賞する場としてだけでなく、あらゆる人々が集い、交流し、自ら発信する機能をも兼ね備えた、双方向的な存在であるべきだと考えています。

2024年度、当館は新たな可能性に向けた第一歩を記しました。

ここに一年間の活動の成果をまとめた年報を上梓しましたことをご報告させていただくとともに、本年報を通してみなさまに当館の活動をご理解いただく一助としつつ、さらなる充実へと繋げる契機となるよう励んで参ります。

2025年4月
東京都庭園美術館

基本方針

- 1 | 歴史的建造物である本館の保存とその公開
- 2 | 装飾芸術に基づく新たな価値を
今日の社会に活かす展覧会・各種事業の実施
- 3 | 「歴史的建造物」、「装飾芸術」、「庭園」を
三本柱とする文化的都市空間の形成
- 4 | あらゆる鑑賞者に開かれた美術館の実現

東京都庭園美術館は、本館が1933年に建築されたアール・デコ様式の歴史的建造物であることから、1983年の設立以来、その「保存」と「活用」を運営方針としてきました。

保存の面では、開館を期に本館の修復作業に着手し、また毎年、アール・デコ様式の調査研究を兼ねた「建物公開展」を開催してきました。その成果のひとつとして、本館は2015年に、国の重要文化財「旧朝香宮邸」に指定されています。

活用の面では、アール・デコという言葉が、「装飾芸術」（建築、デザイン、工芸、家具、美術等に表れる装飾性）を意味するフランス語に由来することから、これまで国内外の美術作品を、主として装飾芸術の観点から取り上げる展覧会を企画してきました。

2014年の新館改築を機に、館の運営方針には、「新たな価値の創造」が加えられました。これによって庭園美術館の展覧会事業には、今日の視点で装飾芸術を創造する芸術家の作品を展示することが加わりました。

このほかに東京の文化の魅力の創造と発信に寄与するために、装飾芸術の価値を今日の社会に活かすという視点から、庭園の活用事業をはじめとして、さまざまな教育普及事業にも取り組んでいきます。

以上の経緯により、庭園美術館は、重要文化財である「旧朝香宮邸」の保存と公開を基盤に、装飾芸術の力によって、東京という都市のこれからの課題である多文化共生、環境問題などに対応し、すべての都民の心を豊かにする場となることを目指していきます。

目次

基本方針	2
2024年度の東京都庭園美術館	4

各事業報告

建物・庭園公開事業	1 建物公開2024 あかり、ともるとき	5
	2 正門横スペース(旧門衛所)コラボレーション展示	12
	3 庭園公開	16
企画展示事業	1 開館40周年記念 旧朝香宮邸を読み解く A to Z	24
	2 生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界	27
	3 そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵	39
	4 戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見	49
ラーニングプログラム	1 普及事業	66
	2 学校連携事業(スクールプログラム)	68
	3 旧朝香宮邸資料公開室(ウェルカムルーム)の運営	70
	4 アクセスプログラム	71
アクセシビリティ向上への取り組み		75
地域連携		78
東京都庭園美術館コンサート		82
庭園能		83
美術資料の活用		84
文化財の保護・活用		90
広報事業		91
紀要の発行		93
美術館維持管理		94
収益事業	1 ミュージアムショップの運営	95
	2 カフェ・レストランの運営	96
	3 ユニークベニュー事業	97
	4 その他収益事業	98

2024年度の実績

入館者数、広報・宣伝、収益事業収入	99
-------------------	----

資料

組織図	100
展覧会実績一覧	101
施設配置図	105

2024年度の東京都庭園美術館

5月1日	旧朝香宮邸保存活用計画検討委員会開催(8/27,2/14)
5月10日	外部評価委員会開催
7月19日	サマーナイトミュージアム実施(7/26,8/2,9,23,30)
9月4日	東京都庭園美術館ウェルカムゾーン及び東屋等整備に係る検討委員会を開催 (10/17,11/26,12/24,1/30,3/6)
9月30日	自衛消防訓練実施
10月1日	「都民の日」に伴う庭園及び展覧会無料公開
11月22日	秋(紅葉)の夜間開館(11/23,29,30,12/6,7)
1月17日	美術資料収蔵委員会開催
3月1日	Welcome Youth 2025(4/6まで 入場者数622人)
3月21日	春(桜)の夜間開館(3/22,28,29)
3月24日	自衛消防訓練実施

各事業報告／建物・庭園公開事業

1 建物公開2024 あかり、ともしるとき

Looking at Architecture 2024 In the Glow of Lights

会期	2024年9月14日(土)～11月10日(日)[50日間]
主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館
年間協賛	戸田建設株式会社、ブルームバークL.P.、 Van Cleef & Arpels
担当	吉田奈緒子、齊藤音夢
観覧料	一般1,000円／ 大学生(専修・各種専門学校含む)800円／ 中学生・高校生500円／65歳以上500円／ 小学生以下無料
出品点数	約103点
広報印刷物	ポスター(B1、B2)チラシ(A4)、平日特典券
デザイン	林琢真デザイン事務所
来館者数	55,302人(一日平均1,106人)



旧朝香宮邸の魅力を伝える、年に一度の建物公開展として開催した。旧朝香宮邸の照明器具に着目し、これまでの調査研究で培った情報や見どころをパネルで解説したほか、本展において撮り下ろした照明写真を用いてスライドショーや照明配置マップを会場内に設置し、普段あまりフィーチャーされない箇所の照明も紹介する機会とした。ウインターガーデンの特別公開、窓のカーテンを開けた開放的な室内空間、宮邸時代の家具による再現展示等、建物公開展では恒例である要素に加え、朝香宮家の居室とされた2階5部屋の壁面を造作にて再現した。竣工時に使用されたザルブラ社の壁紙の残余分や美術館開館前に撮影された部屋の写真を参考に柄や色を再現し、邸宅として使われていた頃の趣をより鮮明に伝えた。

自然光が包み込む日の移ろいが感じられる本館に対して、新館の展示室ではあかりが灯る様をしっかりと味わえるよう作品を配置し、会期中の時季に合わせた展示空間を意識した。修復後初公開となった当館所蔵のシャンデリアを中心に構成した新館の展示は、旧朝香宮邸と同時代のランプがとり囲むようにレイアウトし、展覧会名のごとくあかりの世界に浸っていただける空間をイメージした。また、平日に来場された方への特典として、各曜日で異なるデザインのチケット型印刷物を配布した。



The “Looking at Architecture” exhibition is held once a year to showcase the architectural beauty of the Teien Art Museum’s main building, completed in 1933 as the residence of Prince Asaka. Each year, the museum chooses a theme that allows visitors to appreciate the architecture from a different perspective. This year’s exhibition focuses on the lighting fixtures that are one of the highlights of the building.

During their stay in Europe in the 1920s, Prince Asaka and Princess Nobuko became enthralled with the beauty of Art Deco. Upon their return to Japan, they incorporated the essence of Art Deco throughout their new residence in Shirokane, constructed using state-of-the-art technology and the finest materials. The French decorative artist Henri Rapin was commissioned to design the decorations in the main rooms, while engineers and artisans from the Construction Bureau of the Imperial Household Ministry managed the overall design, resulting in a fusion of French and Japanese design. The building is now used as an art museum, but has only undergone minor alterations since its completion and has been designated as a National Important Cultural Property due to its well-preserved original features.

The lighting fixtures on the ceilings and walls are particularly impressive features of the rooms in the former residence of Prince Asaka. Many of the lighting fixtures were custom manufactured with carefully chosen materials and detailing, enhancing the residence’s elegance and distinctiveness. This exhibition sheds light on the museum’s architectural beauty through explanations of each room’s lighting fixtures and historical documents, as well as the display of lamps from the same era as the building. Window curtains will be opened to let natural light into the spaces, and visitors can enjoy a recreation of the former residence with furniture and other furnishings from the same period. We hope visitors will appreciate memorable autumn moments in the soft glow of lights.

建物公開2024 あかり、ともるとき Looking at Architecture 2024 In the Glow of Lights

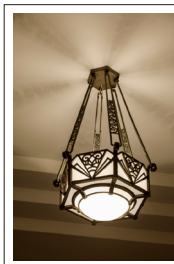
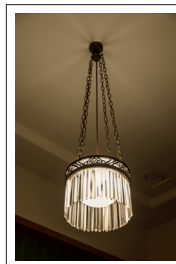
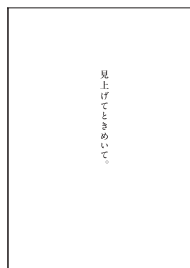
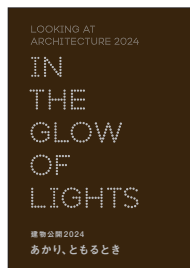
その他印刷物等

作品リスト

判型・ページ数 B4二つ折り／仕上がりサイズB5 4ページ
編集 齊藤音夢
デザイン・制作 林琢真デザイン事務所

ミニフォトブック

判型・ページ数 A6 16ページ
企画・編集 吉田奈緒子
アートディレクション 林琢真
(林琢真デザイン事務所)
デザイン 蒲原早奈美
(林琢真デザイン事務所)
写真 高橋マナミ



3Dオンラインビューイング

内容 展覧会会場の3VDR
撮影・制作 合同会社ワンダーストック
URL www.teien-art-museum.ne.jp/museum/floor_map
公開期間 2025年3月～当面の間



ショート動画

タイトル 「建物公開2024 あかり、ともるとき展 会場ムービー」
企画 東京都庭園美術館
編集・制作 黒目写真館
URL www.youtube.com/shorts/7z6QeB0hCvk
公開期間 2024年10月16日(木)～当面の間



主要関連記事

「アートに会いに」『大人のおしゃれ手帖』11月号(担当学芸員寄稿記事)

『美術の窓』2024年11月号

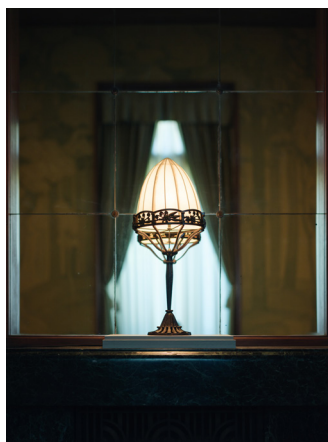
スフマート(Web)2024年10月2日 <https://sfumart.com/column/23662/>

アートテラー・とにへの【ここにしかない美術室】2024年10月18日 <https://ameblo.jp/artony/entry-12867447407.html>

Living東京(Web)2024年10月23日 https://mrs.living.jp/tokyo/town_gourmet/reporter/5916200

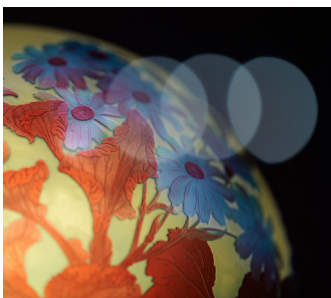
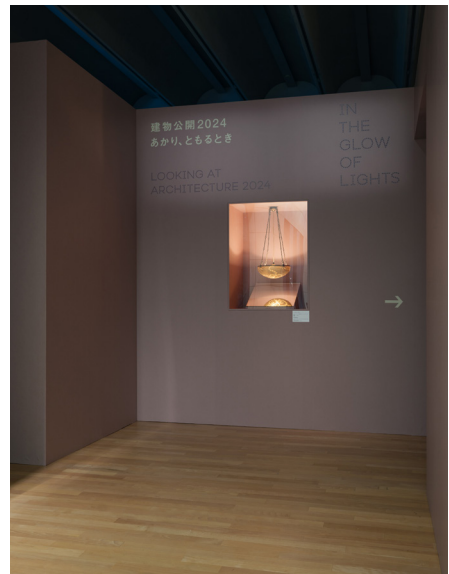
建物公開2024 あかり、ともるとき Looking at Architecture 2024 In the Glow of Lights

会場風景



建物公開2024 あかり、ともるとき

Looking at Architecture 2024 In the Glow of Lights



建物公開2024 あかり、ともるとき Looking at Architecture 2024 In the Glow of Lights

関連事業

ワークショップ たてものの文様で作るあかり

旧朝香宮邸の窓や天井、床、ラジエーターカバーなど、建物の各所に潜む文様や意匠を切り紙で表現し、ランタンに仕立てた。文様の型紙や切っていく色紙を自分で選び、オリジナルのランタン作品を製作する過程で、旧朝香宮邸や建物の装飾に対する想い等の会話も弾んでいたようだった。作品完成後は会場の照明を落とし、色とりどりに灯るあかりの世界を参加者全員で楽しんだ。

日時	2024年10月13日(日) ①10:30～13:00 ②14:30～17:00
会場	新館ギャラリー2
講師	下中菜穂 (造形作家、もんきり、伝統的切り紙、歳時風俗研究)
対象	カッターやはさみが使える年齢の方 (小学校高学年以上推奨)
定員	各回30名
参加者数	54人(①30人、②24人)
参加費	無料(入館料別途)
申込方法	館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



ギャラリートーク 建物公開2024 あかり、ともるとき

学芸員と共に展示室を巡りながら、本館の照明や展示作品を鑑賞し、解説や見どころをツアー形式で紹介した。

日時	①2024年10月17日(木)16:00～16:30 テーマ:本館の照明について ②2024年10月31日(木)16:00～16:30 テーマ:本展の見どころについて
会場	本館、新館 展示室
講師	①高橋さおり ②吉田奈緒子
定員	各日10名程度
参加者数	①26人 ②32人
参加費	無料(入場料別途)
申込方法	当日受付、先着順



ガーデンコンサート

「建物公開2024 あかり、ともるとき」展の関連事業として、庭園の賑わい事業であるガーデンコンサートを実施。展覧会に合わせて曲目を選定、東京文化会館の協力により東京音楽コンクール入賞実績のある若手演奏家を中心にしたグループによる公演会を行った。

日時	2024年9月21日(土)11:00～11:45
会場	芝庭
演奏	河内桂海(トランペット)、武田力(トランペット)、 長澤照平(チューバ)、藤島裕也(トロンボーン)、 吉田智就(ホルン)
参加者数	246人
参加費	無料(入館料別途)



建物公開2024 あかり、ともるとき Looking at Architecture 2024 In the Glow of Lights

主要作品リスト ＊展示場所、作品名作者・制作者、年代、素材の順に記載
●：朝香宮家旧蔵作品／○：2023年度新規収蔵作品

作品リスト

本館1階／第一応接室

第一応接室家具(小椅子、長椅子、三角飾棚) ●
設計：宮内省内匠寮工務課
1933年頃
木材、布、金属、ガラス

小客室

テーブル・ランプ
レイモン・シュブ
1922年頃
布、錬鉄

大広間

蓋付壺 ラバンNo.21
アンリ・ラバン 製造：セーヴル製陶所
1925年
磁器

大客室

大客室家具(安楽椅子、テーブル) ●
1920-30年代
木材、布、金属、ガラス

花台

不詳
1925年頃
ガラス、鍛鉄

テーブル・ランプ ○
ドーム／傘、ルイ・カトナ／スタンド
1925年頃
ガラス、鍛鉄

大食堂

サイドボード
レイモン・シュブ
1920-30年代
鍛鉄、オニキス、ガラス

鉢 ○
フランソワ＝エミール・デコルシュモン
1925年頃
ガラス(パート・ド・ヴェール)

椅子

レイモン・シュブ
1920-30年代
鍛鉄、木材、金、布

メニュー《ぶどう(シャスラ)(マスカット)》 ○
ルネ・ラリック
1924年
ガラス

喫煙室

ポスター《現代装飾美術・産業美術国際博覧会》
シャルル・ルーボ
1925年
紙、リトグラフ

ポスター《現代装飾美術・産業美術国際博覧会》
アントワーン・ブールデル
1925年
紙、リトグラフ

射手

ジャン・デュバ
1931年
紙、バステル

ルレ

エドゥアール・ベネディクトゥス
1930年
紙、ボショワール

エルテ ロマン・ド・ティルトフ 原画展
ウォーレン・アール・コックス・アートギャラリー
1929年
紙、印刷

花瓶

デザイン：アンリ・ラバン
絵付け：カミュー・タロー 窯：リモージュ
1925年頃
陶磁器

皿《牡鹿》

アドリアン＝オーギュスト・ルデュク
製造：セーヴル製陶所
デザイン：1931年 制作：1934年
磁器

本館2階／二階広間

**サント＝ヴィクトワール山麓
二人の子どものいるプロヴァンス地方の風景**
アンリ・ラバン
1920-30年代
カンヴァス、油彩

フロア・ランプ

エドガー・プラント／スタンド、シュナイダー兄弟／傘
1925年
鍛鉄、ガラス

若宮寝室

若宮寝室壁紙 テッコー737-50 ●
ザルブラ社
紙

合の間

クローゼット
1920-30年代
木材、金属

若宮居間

若宮居間壁紙 テッコーRA27D ●
ザルブラ社
紙

花瓶

ジャン・マヨドン
1940年頃
磁器、エナメル絵付

書庫

20世紀現代装飾美術・産業美術百科事典
ガーランド出版社／発行
1925年
紙、印刷

『アール・エ・デコラシオン』
アルベール・レヴィ／編
1923-29年
紙、印刷、装丁

書斎

書斎家具(机、椅子、電話台、絨毯) ●
アンリ・ラバン
1933年頃
木材、ガラス、革、ウール

ベンギン

テオドル・マドセン
製造：ロイヤル・コペンハーゲン
1902年頃
陶磁器

花瓶《オラン》

ルネ・ラリック
1927年
ガラス

平鉢《金魚》

ルネ・ラリック
1921年
ガラス

花瓶 オペールNo.8

器形デザイン：フェリックス・オペール
製造：セーヴル製陶所
1927年
磁器

殿下居間

テキスタイル「メトロポリス」 ●
エドゥアール・ベネディクトゥス
1933年
ジャガード織、麻、綿、レーヨン

キリン

ウォルター・ロタン
1939年(1968年制作)
ブロンズ

殿下寝室

殿下寝室壁紙 テッコー757-9 ●
ザルブラ社
紙

電灯式燭台《三つ枝のロワトレ》

ルネ・ラリック
1931年
ガラス

デザイン画「電灯式燭台《三つ枝のロワトレ》」

ルネ・ラリック
1931年頃
紙、鉛筆

朝香宮鳩彦王、朝香宮鳩彦王妃允子肖像 ●○
1925年頃
写真(ゼラチンシルバープリント)

建物公開2024 あかり、ともるとき

Looking at Architecture 2024 In the Glow of Lights

妃殿下寝室

妃殿下寝室壁紙 テッコーRA35B ●

ザルブラ社
紙

妃殿下寝室家具(クローゼット) ●

1933年頃
木材、金属、鏡

朝香宮鳩彦王妃允子肖像 ●

マニエール兄弟
1924年
紙(写真)、パステル

朝香宮鳩彦王妃允子像 ●

横江嘉純
1930年代
大理石

ブレスレット ●

バンスラン
1924年
ダイヤモンド、ブラチナ

妃殿下居間

妃殿下居間壁紙 テッコー31380 ●

ザルブラ社
紙

グラジオラス ●

朝香宮鳩彦王妃允子
1923-25年
紙、水彩

花瓶《インコ》

ルネ・ラリック
1919年
ガラス

『アル・エ・デコラシオン』

アルベール・レヴィ／編
1923-29年
紙、印刷、装丁

『イリュストラシオン』

1933年5月
紙、印刷

ボンボニエール ●

1920-40年代
銀ほか

姫宮寝室

コーヒー・セット

絵付け:アンヌ＝マリー・フォンテーヌ
製造:セーヴル製陶所
1921年
磁器

姫宮居間

椅子

デザイン:アンドレ・グルー 絵:マリー・ローランサン
製作:アドルフ・シャノー ファブリック:ボーヴェ製作所
1924年
黒檀、鼈甲、ファブリック(ボーヴェ製作所)、真鍮

テーブル・ランプ ゴーヴネNo.14 A

ジャン＝パティスト・ゴーヴネ 製造:セーヴル製陶所
デザイン:1935年 制作:1937年
磁器

ウインターガーデン

スチールパイプ家具(椅子、テーブル) 複製品

スチール、布、合板

新館／ギャラリー1

ペンダント・ライト

デザイン:アンリ・ラバン
装飾・製作:ジャン＝パティスト・ゴーヴネ
1927年
陶磁器、ブロンズ製金具

《ロイ・フラー》

フランソワ＝ラウル・ラルシュ
1900年頃
ブロンズ
梶光夫所蔵

《ロイ・フラー》

カール・バークグライン
1900年頃
ブロンズ
梶光夫所蔵

《アイリスと女性》

アレクサンドル・クレルジェ
1900年頃
ブロンズ
梶光夫所蔵

ランプ《水浴》

アマリック・ワルター
1930年頃
ガラス(バート・ド・ヴェール)、真鍮、大理石
みらい美術館所蔵

茸型金箔封入ランプ

ドーム
1920年頃
ガラス
みらい美術館所蔵

テーブル・ランプ

ドーム&ムシェ
1920年頃
鍛鉄、ガラス
みらい美術館所蔵

ヴァリアシオン ○

エドゥアール・ベネディクトゥス
1924年頃
紙、ボショワール

シャンデリア

レイモン・シュブ
1920-30年代
鍛鉄、オニキス

テーブル

レイモン・シュブ
1920-30年代
鍛鉄、オニキス

肘掛け椅子

レイモン・シュブ
1920-30年代
鍛鉄、木材、金、布

ルミナリー

エディシオン・ダール・シャルル・モロー
1926年
紙
個人蔵

ノルマンディー案内ガイドブック

1935年
紙
ギャラリー・グリシーヌ所蔵

テーブル・ランプ《ノルマンディー》

ルネ・ラリック
1935年
ガラス
ギャラリー・グリシーヌ所蔵

『イリュストラシオン』

1935年6月
紙、印刷

四季

マックス・アングラン
1920-30年代
カンヴァス、油彩

マーガレット文ランプ

ガレ
1910-30年代
ガラス
ベル・デ・ベル・フランス所蔵

タネツケバナ文ランプ

ドーム
1900-10年代
ガラス
ベル・デ・ベル・フランス所蔵

シャンピニオンランプ

ドーム
1920-30年代
ガラス
ベル・デ・ベル・フランス所蔵

花畑文ランプ

ガブリエル・アルジールソー
1920年代
ガラス
ベル・デ・ベル・フランス所蔵

テーブル・ランプ

ドーム
1900年頃
ガラス
梶光夫所蔵

pilgrim ○

さわひらき
2022年
シングル・チャンネル・ビデオ(上映時間7分23秒)

パフェウム・ランプ

ロブジェ社
1920年頃
ガラス、鉄
梶光夫所蔵

バラ文ヴェイユーズ(常夜灯)

ガブリエル・アルジールソー
1920年代
ガラス、鉄
梶光夫所蔵

水生植物文ヴェイユーズ(常夜灯)

ガブリエル・アルジールソー
1920年代
ガラス、鉄
ベル・デ・ベル・フランス所蔵

2 正門横スペース（旧門衛所）コラボレーション展示

正門横ミュージアムショップ内のカフェスペースにおいて、本館・新館の展覧会とは一味違った幅広い展示活動を、ショップの受託者である株式会社フェルミエと美術館のコラボレーション展示として実施した。

土地と風土とチーズと！

ナチュラルチーズは、生乳のみを原料に土地の風土、すなわち「ランドスケープ」が作り出すものである。チーズの起源や製造過程、製造に用いる古い道具とともに、それを生み出す風景などの写真や絵画を展示し、土地と風土と食べ物との関係を通して、自然環境との向き合い方を考えた。

期間 2024年4月2日(火)～14日(日) [12日間]
主催 株式会社フェルミエ
観覧料 無料

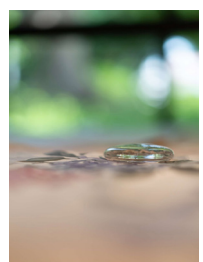
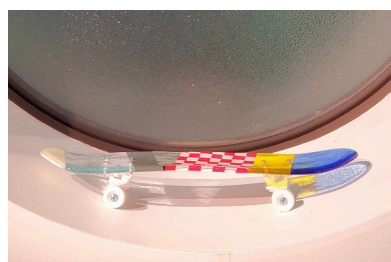
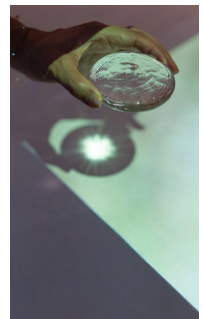
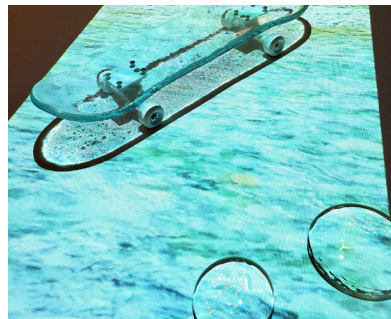
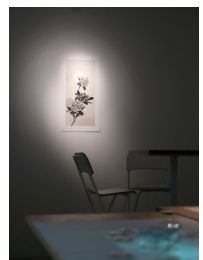


Presently

山や空、草花、そこに差し込む光や水の表現を、水墨画とガラス作品のコラボレーションで構成した。紫陽花や雨露といった季節感のあるモチーフを会場に散りばめ、自然との調和が感じられる展示空間を瑞々しさを満たした。また、開催が間近に迫っていたパリオリンピックに合わせ、スケートボードを象ったガラス作品も展示した。

一部、ガラスの作品は手に取ることが可能で、ガラスをかざすことにより、いつもとは違う特別な観賞体験や、動画にて投影された作品の世界観をさらにお楽しみいただける趣向を凝らした。

期間 2024年6月4日(火)～7月15日(月・祝) [37日間]
主催 株式会社フェルミエ
観覧料 無料
来場者数 1,967人

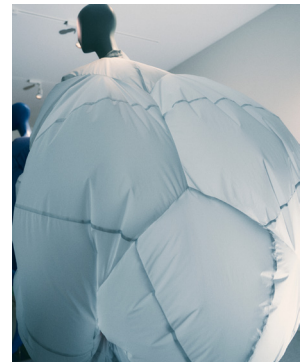


ランドスケープをつくる ANREALAGE collaboration with Kazuyo Sejima “CELL”

ファッションブランドのANREALAGEは、2003年にデザイナーの森永邦彦によって設立された。時期によって作風が変化しても、「神は細部にやどる」という森永の信念は一貫しており、ブランド名の由来ともなった日常のあらゆる境界線を越境するという哲学を追求し続けてきた。

本展では、「小さな空間」を意味するCELLと名付けられたシリーズを展示した。衣服に取り付けられたファンから風が送られると、たちまち衣服は凹凸のついた様々な球体に変化する。まさに衣服と空間という境界を自在に行き来する本シリーズについて、実際の衣服とともに、パターンを記したパネル等で紹介した。

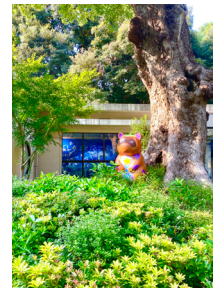
期間 2024年7月19日(金)～9月1日(日)[39日間]
 主催 東京都庭園美術館、株式会社フェルミエ
 監修 妹島和世(東京都庭園美術館館長)
 観覧料 無料
 来場者数 2,512人



ランドスケープをつくる 庭園の周波数 Frequency of the Garden

アーティスト、大宮エリーの自伝的VR映像作品《周波数》。本作では、生きにくさを感じていた主人公が、世界に存在する全てのものに固有の周波数があることを知り、成長していくストーリーが描かれている。VRによって、鑑賞者は作品の世界の中に実際に入り込んだかのような臨場感を味わう。また、会場前のウェルカムゾーンには、大宮による動物のオブジェが展示され、庭園と会場を繋ぎ、鑑賞者を大宮の世界へと誘う役割を果たした。

期間 2024年9月7日(土)～16日(月・祝)[9日間]
 主催 東京都庭園美術館、株式会社フェルミエ
 監修 妹島和世(東京都庭園美術館館長)
 観覧料 無料
 来場者数 507人



ランドスケープをつくる 日本の名作住宅

日本大学理工学部建築学科の学生たちが製作した、日本の近代住宅の模型を展示した。近代以降、生活様式の変化や、第二次世界大戦敗戦後の復興、そして核家族化の進行などの要因により、日本の住宅建築の様相は大きな変化を遂げた。本展で紹介されたのは、その変化の時代の中で実際に建設された、名作と呼ばれる9つの住宅模型である。模型はいずれも1:20スケールで製作されており、建物の詳細や構造が緻密に再現されている。間近にこのような模型を見ることが、そこに住む人々の生活にあわせて建築家たちが造り出した住空間を鑑賞者に体感してもらうことを意図した展示とした。

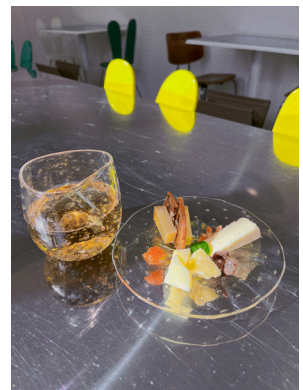
期間 2024年9月26日(木)～11月10日(日)[40日間]
 主催 東京都庭園美術館、株式会社フェルミエ
 監修 妹島和世(東京都庭園美術館館長)
 企画 日本大学理工学部建築学科
 観覧料 無料
 来場者数 7,381人



ランドスケープをつくる そこに光が降りてくる カフェ・プロジェクト 光のカフェ

2024年11月30日(土)～2025年2月16日(日)に庭園美術館の本館および新館で開催した「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」展との連動企画として、正門横スペースにおいてカフェ・プロジェクトを実施した。本スペースのカフェ機能はそのままに、青木と三嶋の作品を展示した空間で飲食を楽しめる場としたほか、三嶋によるグラスとプレートを使った限定メニューを提供した。限定メニューは、両作家がセレクトしたチーズプレートで、より身近に「そこに光が降りてくる」展の世界観を感じていただける企画とした。

期間 2024年11月29日(金)～2025年1月13日(月・祝)
 [33日間]
 主催 東京都庭園美術館、株式会社フェルミエ
 監修 妹島和世(東京都庭園美術館館長)
 協力 公益財団法人 大林財団
 観覧料 無料
 来場者数 2,188人



ランドスケープをつくる 3D Maze Art

ニューヨーク在住のKen Augushiは、様々な立体迷路のデザインや制作に取り組んできたアーティストである。Augushiは、インスピレーションを受けた動物や植物、自然の風景を、独自の感性に基づいて、立体迷路のデザインに落とし込んでいく。

本展では、カエルやテントウムシ、サイや鳥などの生き物をモチーフにした作品のほか、水墨画家の花塚美早とのコラボレーションによって生まれた《桜図 Cherry blossom》など、多様な立体迷路29件を紹介した。そのほか、実際に触れて迷路を体験することができるコーナーも設け、楽しみながらAugushiによる立体迷路の世界を堪能できる展示とした。

期間 2025年1月21日(火)～2月24日(月・祝)[31日間]
主催 東京都庭園美術館、株式会社フェルミエ
観覧料 無料
来場者数 2,220人



ランドスケープをつくる TORORO LAND

漫画家・イラストレーターの友沢ミミヨと、画家の友沢こたおによる親子アートユニット・とろろ園。本展のために制作された新作5点を含む全7点の作品が展示された。実在するのか、しないのか、どこか白昼夢のような存在である「とろろ園 (TORORO LAND)」にいる人々を描いた彼らの作品によって、独自の世界観による「ランドスケープ」が展開された。会期中には、本展コラボメニューとして「TOROTOROプレート」と名付けられたチーズプレートも販売され、カフェと展示のコラボレーションが行われた。

期間 2025年3月4日(火)～3月30日(日)[24日間]
主催 東京都庭園美術館、株式会社フェルミエ
観覧料 無料
来場者数 1,367人



3 庭園公開

植栽の管理に力を入れ、丁寧に庭園を視察し健全な状態を維持した。また、特に日本庭園および西洋庭園の樹高10メートル以上の樹木について剪定を行った。その他、本館横のヒマラヤスギ5本を剪定し安全性の向上を図った。

2024年度も「庭園パスポート」を販売し、芝庭、日本庭園、西洋庭園それぞれ趣の異なる庭園と茶室を楽しんでいただいた。

庭園公開日数 305日
庭園のみ入場者数 73,619人

庭園パスポート
販売数 400枚
入園者数 4,319人



庭園の四季シリーズ「ガーデンツアー（手話通訳あり）」

2023年度より実施している「庭園の四季シリーズ」のガーデンツアーを2024年度も実施した。実際に当館へ訪れて庭園の魅力を再発見していただく内容とした。紅葉が美しくなり始めて彩りにあふれた庭園の草花を一つひとつ丁寧に解説しながら、邸宅のエピソードを交えて参加者に伝え、特別感を創出した。

日時 2024年12月5日（木）
午前の回 10:30～11:30
午後の回 14:00～15:00（手話通訳あり）
会場 庭園
定員 各回20名（応募多数は抽選）
参加者数 午前の回 18人
午後の回 22人（手話使用者5人）
参加費 無料（入場料別途）



茶室活用

庭園公開事業の一環として、日本庭園内の茶室「光華」(重要文化財)の活用を行い、茶室建築及び茶の湯文化の普及に資した。

茶会等事業

茶会体験

①「重文わかる茶会」

お茶そのものにもっと親しみを持ってもらうために、実技や解説を交えた茶会体験「重文わかる茶会」を継続的に実施している。内容は、茶会に関する基礎知識を立礼席で説明したのち、露地の蹲(つくばい)の使い方の実技、広間にてお菓子の食べ方の実技を行った。最後に小間で講師から薄茶とお菓子が振舞われた。また、第5席はプレス関係者の招待席とし、一般席と同じ内容、進进行を体験してもらい、質疑等も行った。

日時 2024年5月18日(土)
第1席10:30～ 第2席12:30～ 第3席14:00～
第4席15:30～ プレス席 17:00～
会場 茶室「光華」立礼席、広間、小間
講師 沼尻宗真(茶道家・陶芸家)、
海老澤宗香(茶道家)どちらも裏千家
定員 各回8名×4回(応募多数は抽選)
参加者数 一般公募33人(4席)、プレス席8人
参加費 1,000円(入館料別途)
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



②「こども茶会ーおもいやりの心」

本事業は4回目の実施となる。対象は小学4年生～6年生とその保護者。2時間のプログラムで、前半はこどもと保護者は別々になり、こどもたちには模擬茶会を通して、茶会のこと、道具の名前や使い方、お菓子の食べ方、抹茶の飲み方のレクチャーを受けた後、茶筌で抹茶を点てるという実技を行った。その間、保護者には別室で茶会や茶室に関するレクチャーを行った。その後、こどもたちと合流し、こどもが掛軸や花、道具のこと、お菓子の食べ方を保護者に説明し、抹茶を点て、飲み方を伝えて保護者に振舞うという内容とした。

日時 2024年11月23日(土・祝)
午前の部 10:30～12:30
午後の部 13:30～15:30
会場 茶室「光華」広間
講師 目黒とうりあん茶道教室
船越宗英、河田宗愛、どちらも裏千家
定員 各回5組(応募多数は抽選)
参加者数 一般公募 午前の部7組14人、
午後の部4組8人 計11組22人
参加費 1組2,000円(入館料別途)
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



トークイベント「近代茶室「光華」の魅力ー数寄屋大工の眼、建築史家の眼」

こちらは4回目の実施となる。建築史家と数寄屋建築のプロの眼と担当学芸員も加わって、茶室「光華」の建築的な魅力を掘り起こそうという趣旨で実施している。茶室立礼席で「光華」の歴史や立礼席の展開について事前説明をしたあと、今回も数寄屋大工棟梁に鉋掛けと光付けの実演、説明をしてもらい、その後広間、小間に移動して解説や質疑応答を行った。

日時 2024年10月26日(土)
①10:30～12:30 ②13:30～15:30
会場 茶室「光華」立礼席、広間、小間
講師 小沢朝江(東海大学建築都市学部建築学科教授)
芹澤毅(せりざわたけし工務店、数寄屋大工棟梁)
定員 各回10名×2回(応募多数は抽選)
参加者数 一般公募 ①9人 ②8人 計17人
参加費 無料(入館料別途)
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



呈茶会

2018年度以来、地元港区華道茶道連盟を亭主とし、「春の呈茶」「秋の呈茶」を実施している。主菓子と抹茶を提供するオーソドックスな茶会で、初心者でも気軽に参加できるよう平易な茶会としている。呈茶のあとは、参加者を小間に案内し、学芸員による「光華」の解説を行った。

①春の呈茶

日時 2024年4月27日(土)
第1席10:30～ 第2席12:30～
第3席14:00～ 第4席15:30～
会場 茶室「光華」広間
亭主 港区華道茶道連盟 磯崎宗翠(表千家)
定員 各回12名×4回(応募多数は抽選)
参加者数 一般公募 47人
参加費 700円
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



②秋の呈茶

日時 2024年10月19日(土)
第1席10:30～ 第2席11:45～ 第3席13:30～
第4席14:45～ 第5席 16:00～
会場 茶室「光華」広間
亭主 港区華道茶道連盟 米田宗加(茶道速水流)
定員 各回12名×5回(応募多数は抽選)
参加者数 一般公募 60人
参加費 700円
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



特別茶会

エアコンのない茶室は夏と冬環境が厳しく、行事は春秋に行うことが通例であるが、季節感を強く感じる事がむしろ難しい都心にあって、その風情を十分に感じていただくため、夏と冬に特別茶会を行った。

①夏の特別茶会「ガラスの清寂」

過去3年間、たいへん好評であった夏の特別茶会「ガラスの清寂」を2024年度も実施。ガラス作家青木美歌制作の茶器、花入れ、水指のほか茶碗、茶杓、蓋置、菓子皿等もガラス製とした。またルネ・ラリックのサラダボウルを茶碗に見立てて使用した。菓子は、特注の錦玉仕立てとした。広間の軒にはすだれ、ガラスの風鈴を掛けるなど、涼感と日本の夏の風情を味わたる室礼とし、抹茶は冷茶仕立てとした。

日時	2024年8月24日(土)
	第1席10:30～ 第2席12:30～ 第3席14:00～ 第4席15:30～
会場	茶室「光華」広間
亭主	傳田妙京(武者小路千家教授)
定員	各回10名×4回(応募多数は抽選)
参加者数	一般公募36人
参加費	1,000円
申込方法	館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



②冬の特別茶会「陽だまりのひととき」

真冬に受験シーズン、年度末という厳しい日々を過ごしている中、禅語「梅花和雪香」の掛軸を趣向として、励ましと心温まるひとときを共有できる茶会とした。また、第2席は当館の茶会としては初めて手話通訳を付け、またフリップを使うなど聴覚に障害のある方への配慮を行い、楽しんでいただくことができた。

日時	2025年2月8日(土)
	第1席10:30～ 第2席12:30～ 第3席14:30～ 第4席16:00～
会場	茶室「光華」広間・小間
亭主	鈴木宗雪 (テーブル茶道協会 雪月花 主宰、裏千家)
手話通訳	瀬戸口裕子
定員	第1・3・4席10名、 第2席8名(応募多数は抽選)
参加者数	一般公募36人
参加費	1,000円
申込方法	館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



光華茶会

当館の日本庭園の原設計者である木津宗泉、「光華」の設計者である中川砂村はともに武者小路千家の茶人であり、また当館の敷地は江戸時代、讃岐松平家の下屋敷であったが、その茶頭は武者小路千家であった。この縁から、耐震補強工事後の茶室開きのご亭主を武者小路千家家元後嗣千宗屋氏にお勤めいただき、以来、武者小路千家との茶会を「光華茶会」と名付け、その歴史性を継承している。2023年度からは、他分野とのコラボ茶会を「光華茶会スペシャル」と称して実施しており、茶会参加者の裾野を広げることを目指している。

光華茶会スペシャル「創造の愉悦」

2024年度は和菓子教室もとせを主宰している安田由佳子氏を招き、和菓子作りのワークショップと茶会を組み合わせた。和菓子作りは茶室「光華」の名前にちなみ、錦玉の「光」と練り切りの「華」の2種類を制作し、続いて茶会は武者小路千家の傳田妙京氏が亭主となり、制作した菓子を食してもらい、抹茶と煎茶を供した。茶席の掛軸は、2023年度の講師で書家の根本知氏の作品を掛け、全体は「水」を趣向とした道具と室礼とした。



日時	2024年6月29日(土) ①10:30～12:30 ②13:30～15:30
会場	茶室「光華」立礼席、広間
講師	安田由佳子(和菓子教室もとせ主宰) 傳田妙京(武者小路千家教授)
定員	各回8名×2回(応募多数は抽選)
参加者数	一般公募 ①9人 ②9人 計18人
参加費	2,000円(入館料別途)
申込方法	館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制

茶会「朝香宮家と茶の湯－允子妃を偲んで－」

茶室「光華」に関しては関連資料が極めて少なく、建築に至る経緯等は調査中である。ただ、朝香宮允子妃と長女紀久子女王、次女湛子女王が江戸千家の茶の稽古をしていたことや、茶室開きに江戸千家の式守蝸牛が代点を行ったことはわかっている。一方で茶室完成時に、允子妃はすでに逝去していた。そこで江戸千家宗家蓮華菴を亭主に招き、稽古しながらも茶室の完成を見ることのできなかった允子妃を偲ぶとともに、当時の茶室開きを彷彿させる茶会を行った。



日時	2025年3月22日(土) 第1席10:30～ 第2席11:45～ 第3席13:30～ 第4席14:45～ 第5席 16:00～
会場	茶室「光華」広間
亭主	川上閑雪(江戸千家宗家蓮華菴家元)
定員	各席12名(応募多数は抽選)
参加者数	一般公募65人
参加費	1,000円
申込方法	館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制

一般公開、特別公開

一般公開

文化財建築の普及のため、通常開館日は立礼席まで立入りできるよう一般公開している。その中で広間には茶席の道具を配し、茶室の雰囲気を感じてもらえるようにしている。配する道具は掛軸、花入れ、香合、茶碗、釜、茶筌、茶入れ、水指、建水等を展示し、季節に応じて展示替えを行っている。また季節に合わせて炉と風炉を入れ替えている。

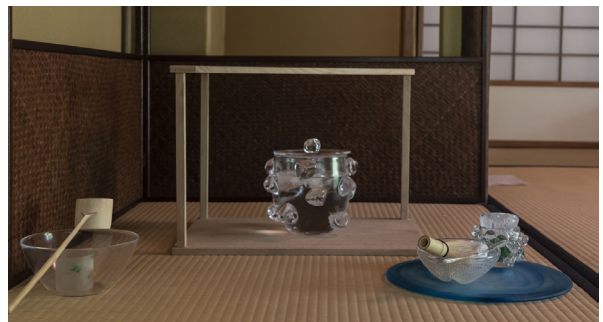
茶室入室者：88,711人（茶会、茶会体験等参加者を除く、2025年3月31日まで）

特別公開

①夏の特別公開

夏の特別茶会の趣向である日本の夏の風情を感じていただくため、ガラスの茶道具等の室礼による特別公開を行った。

日時 2024年7月23日（火）～8月25日（日）
10:00～16:30
会場 茶室「光華」広間
入室者数 5,352人



②秋の特別公開

茶室広間からの日本庭園の紅葉を楽しんでいただくため、恒例行事として行っている。

日時 2024年11月24日（日）～12月8日（日）
10:00～16:30
会場 茶室「光華」広間
入室者数 6,363人



光華倶楽部(茶会と大使館訪問)

「光華倶楽部」とは、高校茶道部と各国大使館やその下部組織を対象とし、高校茶道部が大使館員等を招いて「光華」で茶会を催し、その後大使館が高校茶道部の訪問を受け入れるという事業である。2023年度に続き、2024年度も4組4回の交流茶会(訪問は3回)を実施した。

ポーランド共和国大使館&神田女学園中学校高等学校

茶会 2024年10月27日(日)14:00～15:00 大使館参加者9人

大使館訪問 2024年11月21日(木)16:15～17:00 参加生徒9人



駐日欧州連合代表部&東京都立三田高等学校

茶会 2024年11月16日(土)

①13:30～14:30 代表部参加者10人

②15:00～16:00 代表部参加者10人

代表部訪問 2025年1月30日(木)16:00～17:45 参加生徒18人



リスト・ハンガリー文化センター&中央大学杉並高等学校

茶会 2024年12月14日(土)14:00～15:30

文化センター参加者8人

文化センター訪問

2025年1月21日(火)15:00～17:00 参加生徒6人



タイ王国大使館&東京都立小山台高等学校

茶会 2025年3月25日(火) 14:00～15:00 大使館参加者7人



企画展示事業

1 開館40周年記念 旧朝香宮邸を読み解く A to Z

Commemorating the Museum's 40th Anniversary
The A to Z Guide to the Former Residence of Prince Asaka

会期	2024年2月17日(土)～5月12日(日)[74日間] 2024年度:2024年4月2日(火)～5月12日(日) [36日間]
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館
協力	ギャラリー小柳
年間協賛	戸田建設株式会社、ブルームバークL.P.、 Van Cleef & Arpels
担当	吉田奈緒子、森千花
観覧料	一般1,400円／ 大学生(専修・各種専門学校含む)1,120円／ 中学生・高校生700円／65歳以上700円／ 小学生以下無料
出品点数	現代作家の作品9点 その他、朝香宮邸及び朝香宮家関連資料を展示
広報印刷物	ポスター(B1、B2)チラシ(A4)
デザイン	株式会社ライブアートブックス 芝野健太
来館者数	58,072人(一日平均784人) 2023年度 24,206人(一日平均637人) 2024年度 33,866人(一日平均941人)



開館40周年を記念する展覧会として開催した、旧朝香宮邸を建築・歴史・室内装飾・エピソード等様々な角度から丁寧に読み解く企画。アルファベットのAからZの頭文字で26個のキーワードを各室に設定し、それぞれの見どころや着眼点、注目すべきポイントを造作の展示台やその上に設置したカードを使って解説した。キーワードの解説カードは手に取って持ち帰ることが可能で、散りばめられたキーワードを辿りながら館内を巡り、旧朝香宮邸のエッセンスを自宅に帰っても追憶できるよう考えた。建築や室内空間と対話することを重要な機会と捉え、壁面にパネルを掲示しない、初公開の箇所を含むオリジナルの寄木床を公開する等、可能な限り建物を素の状態で見せることに努め、重要文化財かつ美術館として活用している現状への理解を求めた。また、陶作品を群で見せる伊藤公象(1932-2024)と、木彫刻を思いがけない場所に設置する須田悦弘(1969-)をゲストアーティストを迎え、館内および庭園にて展開した現代作家の作品を通して視点を誘導し、新たな見え方を探った。新館では、キーワードを記した本館の立体マップ設けて振り返るとともにおさらいと位置付け、旧朝香宮邸誕生の背景にある要素を朝香宮家資料、宮邸時代の建具や資材等のパーツ展示によって紹介した。 ※詳細は、2023年度年報を参照

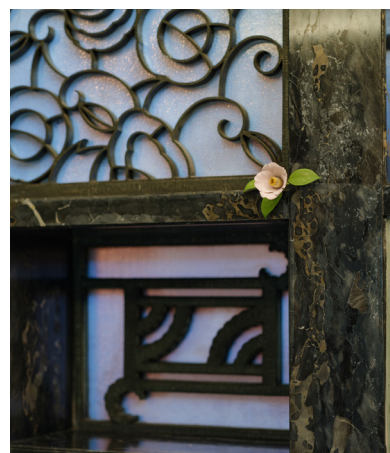
The former residence of Prince Asaka: This building, completed in 1933, has served as the main building of the Tokyo Metropolitan Teien Art Museum since its opening in 1983, welcoming a great many visitors over the years. To commemorate the museum's fortieth anniversary, we are holding an exhibition that analyzes and interprets anew the former residence of Prince Asaka. The architectural techniques, the people who were engaged in its construction, the interior designs and materials, anecdotes about the residence — we invite you to collect the keywords, from A to Z, scattered over the former residence and, through those many discoveries, deepen your understanding of its historical and art historical significance. We are daring to present the former Prince Asaka residence in its original state, as much as possible. Whether you've visited our museum before or not, we hope you will enjoy this opportunity to become better acquainted with it.

※Please refer to the annual report 2023 for details.

開館40周年記念 旧朝香宮邸を読み解くA to Z

Commemorating the Museum's 40th Anniversary The A to Z Guide to the Former Residence of Prince Asaka

会場風景



開館40周年記念 旧朝香宮邸を読み解くA to Z

Commemorating the Museum's 40th Anniversary The A to Z Guide to the Former Residence of Prince Asaka

関連事業

ギャラリートーク「築90年・旧朝香宮邸 修理のA to Z」

竣工から90年を迎えた旧朝香宮邸は、美術館として活用している40年の間に確認できるだけでも大小約80件の修理を行っている。その内容は、より一層の公開活用を目的としたものや、今後も良い状態で保存していく為の維持管理を目的としたもの等さまざまである。このトークでは、両方の事例を紹介し、重要文化財を保存しながら美術館として活用していくことの意義やエピソード等を説明した。

日時	①2024年4月11日(木) 「パーゴラの保存修理について」 ②2024年4月25日(木) 「姫宮バルコニーの復元工事について」 各日11:00～11:40
会場	本館ウェルカムルーム、 小食堂前テラス、姫宮居間バルコニー
講師	高橋さおり
対象	一般
定員	各回10名程度
参加者数	①24人 ②22人
参加費	無料(入館料別途)
申込方法	当日受付、先着順



2 生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界

Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World

会期	2024年6月1日(土)～8月25日(日)[74日間]
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館、産経新聞社
監修	岡部昌幸(帝京大学名誉教授・ 群馬県立近代美術館特別館長)
特別協力	夢二郷土美術館
協力	竹久夢二学会
協賛	JR東日本
年間協賛	戸田建設株式会社、ブルームバーグL.P.、 Van Cleef & Arpels
担当	鶴三慧、西美弥子
観覧料	一般1,400円／ 大学生(専修・各種専門学校含む)1,120円／ 中学生・高校生700円／65歳以上700円／ 小学生以下無料
出品点数	約180点
広報印刷物	ポスター(B1, B2)チラシ(デザイン4種／ A3二つ折り／仕上がりサイズA4)
デザイン	ABEKINO DESIGN
来館者数	59,448人(一日平均803人)
巡回情報	夢二郷土美術館、あべのハルカス美術館、 富山県水墨美術館、大分県立美術館



大正浪漫の象徴であり、「夢二式美人」で一世を風靡した竹久夢二(1884-1934)は、明治から昭和前期にいたる日本近代芸術・文化の円熟した魅力をもっとも醸し出した芸術家であり、絵画だけでなく雑誌や楽譜、本の装幀、日用品のデザインと多岐にわたるジャンルで活躍した。本展は、夢二の生誕140年を記念して、夢二郷土美術館が所蔵する作品を中心に最新の研究に基づく新たな視点から選んだ作品や資料約180点により、夢二の生涯をたどるものである。

長らく所在不明となっていた竹久夢二の中期の油彩画の代表作となる《アマリリス》や、夢二の最期を看取った富士見高原療養所の所長であり、友人であった正木不如丘に遺したスケッチを初公開するなど大きな話題となった。

展示は、夢二と同時代に建てられた旧朝香宮邸の中で、各室の特性を活かしながら作品を配置し、作品と建築が引き立てあうような空間を目指した。一方、新館では現代的なホワイトキューブの空間を活かし、一つひとつの作品と向き合えるよう構成した。

会期中に夏休み期間を含むことから、子ども向けの鑑賞ガイドを作成・配布し、多くの来館者に手に取っていただくことができた。

また、会期中は関連プログラムとして、監修者や学芸員の講演会のほか、木版画摺り体験のワークショップを実施。さらに、竹久夢二美術館との相互割引や、きものでの来館者への割引を適用する「ドレスコード割引」の実施、お洒落なフォトスポットコーナーの設置など、各方面での充実を図った。

Takehisa Yumeji, the painter who epitomizes Taisho Romanticism, was also a poet. Born in Okayama Prefecture in 1884, Yumeji received no formal art training but, entirely self-taught, developed his own painting style. His lyrical paintings of beautiful women, known as Yumeji style beauties, earned great popularity. He was also a pioneer as a graphic designer, designing book and magazine covers as well as clothing and everyday objects in his pursuit of beauty in daily life. Yumeji's works are continuously fascinating many today, ninety years after his death.

This exhibition commemorates the one hundred fortieth anniversary of Yumeji's birth and traces his life from a new perspective, based on the most recent research. The exhibition introduces about 180 works, including the recently discovered Amaryllis, a masterpiece from the mid-Taisho period, and Nude Woman on the West Coast, which he painted while in the United States, and sketchbooks and drawings that were left to a friend who had cared for him during his illness. Works from the Yumeji Art Museum collection are the focus of the exhibition.

Takehisa Yumeji was a key figure during first half of the twentieth century, when values were changing dramatically in many ways throughout the world. Please enjoy the enchantment Yumeji's work generates to the full.

生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界
Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World

展示構成:

- 1章 清新な写生と「夢二のアール・ヌーヴォー」
 - 1-1: アール・ヌーヴォー時代からの出発
 - 1-2: 出版美術の革命
- 2章 大正浪漫の源泉―異郷、異国への夢
 - 2-1: 京都―1912-1918年
 - 2-2: 新しい洋画の誕生
 - 2-3: エキゾチシズム―江戸趣味と南蛮趣味
- 3章 日本のペル・エポック―「夢二の時代」の芸術文化
 - 3-1: 大正浪漫の立役者
 - 3-2: 哀愁と旅情
 - 3-3: 挿絵―多様な画材と新しい表現
 - 3-4: 「どんたく図案社」と関東大震災
- 4章 アール・デコの魅惑と新しい日本画―1924-1931年
 - 4-1: 少年山荘
 - 4-2: アール・デコの紹介者
 - 4-3: 日本画家としての成熟
- 5章 夢二の新世界―アメリカとヨーロッパでの活動―1931-1934年
 - 5-1: 出発前夜
 - 5-2: 外遊と夢二の最期

Exhibition composition:

- Chapter1 Refreshing Sketches and Yumeji’s Art Nouveau
- Chapter2 Wellsprings of Taisho Romanticism:
Dreams of the Exotic
- Chapter3 Japan’s Belle Epoque:
The Arts in the “Yumeji Era”
- Chapter4 The Allure of Art Deco and Innovation in Nihonga:
1924-1931
- Chapter5 Yumeji in a New World:
Activities in the US and Europe, 1931-1934

展覧会カタログ

『生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界』

所収テキスト	岡部昌幸「孤高と独創の芸術家―竹久夢二がもたらした新しい日本近代美術と浪漫主義の世界」、高橋世織「《手》の復権 ―夢二・フラハティ・ヴェンダース」、小嶋光信「夢二芸術の原点は『郷土・岡山』」
編集	河野朋子、清家梓、千葉航輔、平向加奈(産経新聞社)
編集協力	鴻村大地(帝京大学大学院文学研究科 日本史・文化財学専攻)
デザイン	竹田麻衣子、斎藤茜(Lim)
発行	産経新聞社
発行日	2024年6月1日
販売価格	2,900円(税込)



その他印刷物等

作品リスト

判型・ページ数	A3二つ折り／仕上がりサイズA4
編集	東京都庭園美術館
デザイン・制作	ABEKINO DESIGN

生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界 Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World

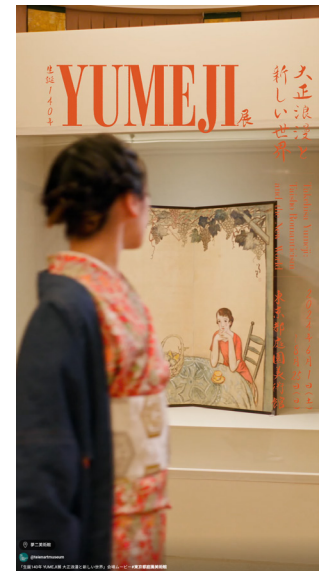
ジュニアガイド

判型・ページ数 展開210×1036mm／仕上がりサイズA5
編集 大谷郁、大木香奈、鶴三慧
デザイン・制作 栗谷川舞(スタビーデザイン)



ショート動画

タイトル 「生誕140年 YUMEJI展
大正浪漫と新しい世界 会場ムービー」
企画 東京都庭園美術館
編集・制作 黒目写真館
URL <https://www.instagram.com/reel/C9PCgMgO7VD/>
<https://www.instagram.com/reel/C-ZjkCavRK5/>
動画の公開期間 2024年7月10日～当面の間



主要関連記事

「美へのまなざし 夢二のモナリザ『アマリリス』」『産経新聞』2024年6月8日
「美の履歴書 西海岸の裸婦」『朝日新聞』(夕刊)2024年6月25日
「特集 大正のマルチアーティスト 愛され夢二の一生」『芸術新潮』2024年7月号
NHK『Eテレ 日曜美術館アートシーン』2024年6月30日放送
テレビ朝日『グッド!モーニング』2024年7月2日、3日

割引

竹久夢二美術館との相互割引

展覧会観覧料が通常価格より100円引き
竹久夢二美術館から当館への来館者数 58人
当館から竹久夢二美術館への来館者数 115人

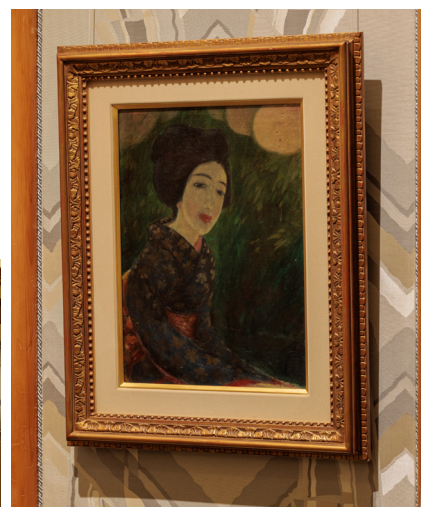
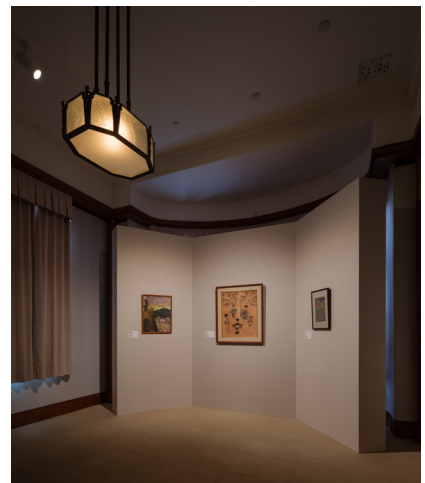
ドレスコード割引

展覧会観覧料が通常価格より100円引き
利用者 931名

※近隣施設との相互割引は、地域連携(P.78)を参照

生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界
Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World

会場風景



生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界
Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World



生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界
Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World

関連事業

講演会「夢二郷土美術館コレクションの魅力ー夢二の原点 ふるさと岡山ー」

夢二郷土美術館・館長代理の小嶋ひろみ氏による講演会を行った。夢二郷土美術館は、竹久夢二の作品を専門に収蔵した最初の美術館として1966年に開館し、肉筆画を中心に、著作やデザイン画など3,000点余りを所蔵し、随一のコレクションを誇る。本講演会では、夢二の故郷である岡山にあるコレクションの話を中心に、本展で初巡回となる油彩画《アマリリス》や外遊スケッチ、夢二芸術の原点と現代につながる夢二の魅力を紹介した。

日時 2024年6月1日(土)14:00～15:30
会場 新館ギャラリー2
講師 小嶋ひろみ(夢二郷土美術館館長代理)
参加者数 86人
参加費 無料(入館料別途)
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制

講演会「現代に夢二が問いかけるもの ー美と生活、「芸術家」と人生、西洋と日本、夢とロマン」

本展の監修者である岡部昌幸氏による講演会。竹久夢二が油彩画《アマリリス》を制作した背景や、作品の所在が分からなくなるまでの間の経緯について、また、同時期の洋画家たちの作品と比較しながら、日本近代美術史における夢二の功績について語った。

日時 2024年7月6日(土)14:00～15:30
会場 新館ギャラリー2
講師 岡部昌幸(帝京大学名誉教授・群馬県立近代美術館特別館長)
参加者数 88人
参加費 無料(入館料別途)
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制

ガーデンコンサート

本展の関連事業として、ガーデンコンサートを実施した。展覧会に合わせて曲目を選定し、東京文化会館の協力により東京音楽コンクール入賞実績のある若手演奏家を中心にしたグループによる公演会を行った。

日時 2024年6月8日(土)14:00～14:45
会場 芝庭
演奏 東川暁洋(トロンボーン)、濱口勝治(トランペット)、
只友佑季(トランペット)、岸上穰(ホルン)、
四條由紀子(チューバ)
参加者数 300人
参加費 無料(入館料別途)



生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界
Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World

ワークショップ

木版画摺り体験 第1弾「庭園美術館の文様で和綴じ本づくり」

日用品のデザインを多く手がけた竹久夢二にちなみ、多色摺り木版画の摺りを体験と、日本の伝統的な製本技術である和綴じ本を作るワークショップを実施した。講師の丁寧な説明のもと、旧朝香宮邸内の装飾がデザインされた版木を使った摺り体験を行い、オリジナルの和綴じ本を制作した。

日時	2024年8月4日(日)13:30～16:30
会場	新館ギャラリー2
講師	佐竹宏樹(版画家)
対象	中学生以上
定員	20名
参加者数	18人
参加費	1,500円(入館料別途)
申込方法	館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



木版画摺り体験 第2弾「親子で体験!オリジナルのレターセットを作ろう」

夏休み期間での開催ということもあり、小学生でも楽しめる木版画の摺り体験と、オリジナルのレターセットを作るワークショップを実施した。木版画の技法についてわかりやすく説明したのち、旧朝香宮邸内に施された文様をモチーフにしたオリジナルの版木を用いて、親子で協力しながら木版画摺りを行い、世界にひとつしかない自分だけのレターセットを作った。

日時	2024年8月11日(日) ①10:30～12:00 ②13:30～15:00
会場	新館ギャラリー2
講師	佐竹宏樹(版画家)
対象	小学3～6年生の子供とその保護者のペア 2名1組
定員	各回10組20名
参加者数	16組32人
参加費	500円(入館料別途)
申込方法	館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界
Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World

作品リスト

1	童子 Children 大正初期 絹本着色
2	故郷の秋 Autumn in Hometown 1909(明治42)年 水彩、紙
3	稲荷山 Inariyama-Mountain 明治末期—大正初期 紙本着色
4	林檎 Apple 1914(大正3)年 絹本着色
5	月の出 Moonrise 1906(明治39)年 鉛筆・水彩、紙
6	桃と少女 Peach and Girl 明治末期—大正初期 ペン、紙
7	子供に乳を飲ませる女 Woman Feeding Her Baby 明治末期 鉛筆、紙
8	猫「画集 太陽のめぐみ」(『昼夜帯』所収)原画 Cats Original Painting for The Blessing of the Sun from Chuyaobi 1913(大正2)年 墨、紙
9	踊り子二人 Two Dancers 1913(大正2)年頃 墨、紙
10	大川端 Okawa Riverside 明治末期—大正初期 紙本淡彩
11	農婦 Farmer 大正前期 絹本淡彩
12	美人水彩 Beauty 大正前期 絹本着色
13	蔵書票「踊る女」原画 Original Painting of the Ex Libris: Dancing Woman 大正期 鉛筆・水彩、紙

14	蔵書票「鳥居」原画 Original Painting of the Ex Libris: Shrine Gate 大正期 鉛筆・水彩、紙
15	月刊夢ニエハガキ第21集「四季の花」 Monthly Yumeji Picture Postcards ser. 21: Flowers of Four Seasons 1913(大正2)年 紙
16	月刊夢ニエハガキ 第48集「芸者の一日」 Monthly Yumeji Picture Postcards ser. 48: A Day of Geishas 1915(大正4)年 紙
17	月刊夢ニエハガキ 第80集「ROMAZI」 Monthly Yumeji Picture Postcards ser. 80: Roman Letters 1918(大正7)年 紙
18	月刊夢ニエハガキ 第85集「クレオパトラ、アントニーの唄(二)」 Monthly Yumeji Picture Postcards ser. 85: Song of Cleopatra and Antony 2 1918(大正7)年 紙
19	封筒「どくだみ」 Envelope: Houttuynia Cordata 大正期 木版、紙
20	封筒「つりがね草」 Envelope: Campanula 大正期 木版、紙
21	封筒「菜の花」 Envelope: Canola Flower 大正期 木版、紙
22	封筒「ウメ」 Envelope: Red Plum Tree 大正期 木版、紙
23	封筒「風景」 Envelope: Landscape 大正期 木版、紙
24	封筒「ビワ」 Envelope: Loquat 大正期 木版、紙
25	封筒「寺町」 Envelope: Teramachi 大正期 木版、紙

26	封筒「山」 Envelope: Mountain 大正後期 木版、紙
27	封筒「柳」 Envelope: Willow 大正後期 木版、紙
28	千代紙「桜草」(みなとや版) Chiyogami Paper: Primroses (Minatoya edition) 大正前期 木版、紙
29	千代紙「蔓草」(みなとや版) Chiyogami Paper: Vine (Minatoya edition) 大正前期 木版、紙
30	千代紙「椿」(みなとや版) Chiyogami Paper: Camellia (Minatoya edition) 大正前期 木版、紙
31	千代紙「きのこ」(みなとや版) Chiyogami Paper: Mushrooms (Minatoya edition) 大正前期 木版、紙
32	半襟「椿」「馬蹄」 Decorative Collars for Kimono: Camellia, Horseshoe 大正前期 描絵、絹
33	帯「いちご」 Kimono Sash Belt: Strawberries 大正前期 油彩、絹
34	得度の日 『桜さく国 紅桃の巻』(cat.no.46)付録 The Day of Entering the Buddhist Priesthood, the Appendix for Land of Blossoming Cherries: Red Peach 1912(明治45)年 木版、紙
35	緑の丘 雑誌『女子文壇』第7巻第7号より Green Hill, the Magazine, Women's Literary World, vol. 7 no. 7 1911(明治44)年 木版、紙
36	『夢二画集 春の巻』 The Yumeji Collection of Work: Spring 1909(明治42)年 初版
37	『夢二画集 夏の巻』 The Yumeji Collection of Work: Summer 1910(明治43)年 再版 / 1910(明治43)年 初版
38	『夢二画集 秋の巻』 The Yumeji Collection of Work: Autumn 1910(明治43)年 初版

*作品番号は、本展図録のキャプションに掲載されている番号と一致します。
*所蔵先のうち記載のない作品は全て(公財)両備文化振興財団 夢二郷土美術館蔵です。
*原則として、シリーズのタイトルは「」で、掲載媒体名は『』で記しています。
*刊行物は著者のある場合は冒頭に記載していますが、特に記載のないものは原則竹久夢二が携わりました。

生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界

Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World

39
『夢二画集 冬の巻』
The Yumeji Collection of Work: Winter
1910(明治43)年 初版

40
『夢二画集 花の巻』
The Yumeji Collection of Work: Flower
1910(明治43)年 再版 / 1910(明治43)年 初版

41
『夢二画集 旅の巻』
The Yumeji Collection of Work: Travel
1910(明治43)年 再版 / 1910(明治43)年 初版

42
『夢二画集 野に山に』
The Yumeji Collection of Work: In the Fields
1911(明治44)年 初版

43
『絵ものがたり 京人形』
A Pictorial Story: Kyoto-Style Doll
1911(明治44)年 初版

44
『桜さく国 白風の巻』
Land of Blossoming Cherries: White Wind
1911(明治44)年 初版

45
『桜さく島 春のかはたれ』
Island of Blossoming Cherries: Spring Twilight
1912(明治45)年 初版

46
『桜さく国 紅桃の巻』
Land of Blossoming Cherries: Red Peach
1912(明治45)年 初版

47
『桜さく島 見知らぬ世界』
Island of Blossoming Cherries: Unknown World
1912(明治45)年 初版

48
『どんたく』
Dontaku
1913(大正2)年 初版

49
『夢二エデホン』
Yumeji Drawing Copybook
1914(大正3)年 初版

50
『縮刷 夢二画集』
Collection of Yumeji's Works
1914(大正3)年 初版

51
『絵入歌集』
Illustrated Song Book
1915(大正4)年 初版

52
『三味線草』
Shamisen-gusa:
Series of Illustrated Books of Kouta Songs
1916(大正5)年 6版 / 1915(大正4)年 初版

53
『山へよする』
Into the Mountains
1919(大正8)年 初版

54
『歌時計』
Singing Clock
1919(大正8)年 初版

55
『青い小径』
Green Path
1921(大正10)年 再版 / 1921(大正10)年 初版

56
『童謡 風』
Book of Children Songs: Kite
1926(大正15)年 初版

57
加茂川
Kamogawa-River
1914(大正3)年頃
絹本着色

58
生ける屍
Zhivoy Trup
大正中期
絹本着色

59
京都白河道 「画集 太陽のめぐみ」(『昼夜帯』所収)原画
Kyoto Shirakawa Street, Original Painting for
The Blessing of the Sun from Chuyaobi
1913(大正2)年
墨、紙

60
竹久夢二書、野長瀬晩花画 画帖『小唄と絵』
Album of Paintings: Kouta Songs and
Painting, Written by TAKEHISA Yumeji,
Painted by NONAGASE Banka
大正中期
紙本淡彩

61
初恋
First Love
1912(大正元)年
油彩、カンヴァス

62
埋れた春
Uzumoreta Haru
1914(大正3)年
油彩、カンヴァス

63
家の見える風景
Landscape with the View of the Houses
大正前期
油彩、板

64
鄙乙女
A Girl in Countryside
大正期
油彩、カンヴァス

65
女
Woman
1918(大正7)年
油彩、カンヴァス

66
青いきもの
Blue Kimono
1920(大正9)年
油彩、カンヴァス

67
スキトピー
Sweet Pea
昭和初期
油彩、布

68
男 第一回夢二作品展覧会ポスター
Man, Poster of the First Art Exhibition of Yumeji
1912(大正元)年
水彩、紙

69
風景 第一回夢二作品展覧会ポスター
Landscape,
Poster of the First Art Exhibition of Yumeji
1912(大正元)年
水彩、紙

70-1
アマリス
Amaryllis
1919(大正8)年頃
油彩、カンヴァス

70-2
絵葉書「あまりゝす」
Postcard: Amaryllis
1919(大正8)年頃
紙

71
一力
Ichiriki
1915(大正4)年
絹本着色

74
切支丹波天連渡来之図
Christian Monk Came from Overseas
大正中期
絹本淡彩

75
落日
Sunset
大正初期
絹本着色

76
南の島
Tropical Island
大正中期
絹本墨画淡彩

77
子守唄 雑誌『大正婦人』第1巻第4号 挿絵原画
Lullaby, Original Painting of the Illustraiton for the
Magazine, Ladies in Taisho Period, vol. 1 no. 4
1913(大正2)年
ペン、紙

79
一座の花形(みなとや版)
Top Star of the Troupe (Minatoya edition)
1916(大正5)年頃
木版、紙
22.4 × 19.2 cm

80
梅川忠兵衛(みなとや版)
Umegawa and Chube (Minatoya edition)
1914-15(大正3-4)年
木版、紙

81
宝船(やなぎや版)
Treasure Boat (Yanagiya edition)
1920(大正9)年
木版、紙

82
みちゆき
Elopes (Kabuki)
1922(大正11)年頃
絹本着色

83
春潮 『セノオ楽譜』No. 100 原画
Spring Tide, Original Painting for Senow Music
Scores, No. 100
1918(大正7)年
ペン・水彩、紙
31.7 × 24.7 cm

84
深い河 『セノオ楽譜』No. 255 原画
Deep River, Original Painting for Senow Music
Scores, No. 255
1923(大正12)年
ペン・水彩、紙

生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界

Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World

85	86	120
初恋之歌 『セノオ楽譜』No. 15 First Love from Senow Music Scores, No. 15 1918(大正7)年 3版 / 1916(大正5)年 初版	喜歌劇「小公子」喇叭を皆響せよ 『セノオ楽譜』No. 164 Little Lord Fauntleroy from Senow Music Scores, No. 164 1920(大正9)年 初版	震災スケッチ「神保町より九段を望む」 Earthquake Disaster Sketch: Kudan View from Jimbocho 1923(大正12)年 ペン、紙
86	87	121
88	87	雑誌「文章倶楽部」第8巻第10号 Magazine Designed by TAKEHISA Yumeji: Bunshoclub, vol. 8, no. 10 1923(大正12)年10月6日発行
89	87	122
90	87	雑誌「婦人世界」第18巻第10号 Magazine Designed by TAKEHISA Yumeji: Fujinsekai, vol. 18, no. 10 1923(大正12)年10月7日発行
91	87	123
92	87	日記 Diary 1923(大正12)年頃 鉛筆・ペン、紙
93	87	124
94	87	絵葉書「東京大地震惨況 第二輯」 Postcards: Great Tokyo Earthquake Disaster 1923(大正12)年頃 紙
95	87	125-1,2,3,4
96	87	少年山荘スケッチ (竹久不二彦による) Sketches: Shonensanso, Drawn by TAKEHISA Fujihiko 1979(昭和54)年 水彩、紙
97	87	126
98	87	遺品・筆 TAKEHISA Yumeji's Painting Brushes
99	87	127
100	87	遺品・絵の具 TAKEHISA Yumeji's Painting Materials
101	87	128
102	87	遺品・パイプ TAKEHISA Yumeji's Pipe
103	87	129
104	87	遺品・万年筆 TAKEHISA Yumeji's Fountain Pen
105	87	130
106	87	SPRING 雑誌「少女画報」第13巻第1号 SPRING, the Magazine, Syojogaho, vol. 13, no. 1 1924(大正13)年 木版、紙
107	87	131
108	87	132
109	87	133
110	87	133
111	87	勇敢な恋人 雑誌「婦人グラフ」第1巻第4号 挿絵 Brave Lover, the Illustration of the Magazine, The Ladies' Graphic, vol. 1, no. 4 1924(大正13)年 木版、紙
112	87	133
113	87	勇敢な恋人 雑誌「婦人グラフ」第1巻第4号 挿絵 Brave Lover, the Illustration of the Magazine, The Ladies' Graphic, vol. 1, no. 4 1924(大正13)年 木版、紙
114	87	133
115	87	133
116	87	133
117	87	133
118	87	133
119	87	133
120	87	133

生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界

Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World

- 134
紅いソファー 雑誌『婦人グラフ』第1巻第4号
「戀三題」挿絵原画
Red Sofa, Original Painting of the Illustration
"Koisandai" for the Magazine,
The Ladies' Graphic, vol. 1, no. 4
1924(大正13)年頃
ペン・水彩、紙
- 135
化粧の秋 雑誌『婦人グラフ』第1巻第6号 表紙
Makeup in Autumn, the Cover for the Magazine,
The Ladies' Graphic, vol. 1, no. 6
1924(大正13)年
木版、紙
- 136
春の眼 雑誌『婦人グラフ』第1巻第6号 挿絵
Eye of Spring, the Illustration for the Magazine,
The Ladies' Graphic, vol. 1, no. 6
1924(大正13)年
木版、紙
22.7 × 10.7 cm
- 137
寝椅子 雑誌『婦人グラフ』第1巻第7号 挿絵
Sofa, the Illustration for the Magazine,
The Ladies' Graphic, vol. 1, no. 7
1924(大正13)年
木版、紙
- 138
秋のしらべ 雑誌『婦人グラフ』第1巻第7号 表紙
Melody of Autumn, the Cover for the Magazine,
The Ladies' Graphic, vol. 1, no. 7
1924(大正13)年
木版、紙
- 139
雪の風 雑誌『婦人グラフ』第1巻第8号 表紙
Wind of Snow, the Cover for the Magazine,
The Ladies' Graphic, vol. 1, no. 8
1924(大正13)年
木版、紙
- 140
霜葉散る 雑誌『婦人グラフ』第3巻第10号 口絵
Scattered Frozen Leaves, the Frontispiece
for the Magazine, The Ladies' Graphic,
vol. 3, no. 10
1926(大正15)年
木版、紙
- 141
山・山・山 雑誌『婦人グラフ』第4巻第2号 口絵
Mountain, Mountain, Mountain, the Frontispiece
for the Magazine, The Ladies' Graphic, vol. 4, no. 2
1927(昭和2)年
木版、紙
- 142
絵葉書「草津温泉小唄」
Postcards: Kusatsu Hot Spring Kouta Song
制作年不明
紙
- 143
曠野の娘
A Girl in Field
1924-25(大正13-14)年頃
絹本着色
- 144
晩春 雑誌『グラフィック』第1巻第1号 口絵原画
Late Spring, Original Painting of the Frontispiece
for the Magazine, Graphic, vol. 1, no. 1
1926(大正15)年
鉛筆・ペン・水彩、紙
- 145
早春
Early Spring
大正後期
絹本着色

- 146
夢見る女
Dreaming Woman
大正後期
紙本着色
- 147
大徳寺
Daitokuji-Temple
1929(昭和4)年
紙本墨画淡彩
- 148
蛙
Frog
昭和初期
絹本着色
- 149
帰らぬ娘たち
Girls Who Don't Return Home
昭和初期
紙本着色
- 150
トランプをする娘
Girl Who Plays Cards
昭和初期
紙本着色
- 151
星まつ里
Hoshi Matsuri (Star Festival)
昭和初期
絹本着色
- 152
湖畔舞妓図
Maiko at the Lakeside
昭和初期
紙本着色
- 153
榛名の雪
Snow on Mt. Haruna
昭和初期
紙本淡彩
- 154
雪だるま
Snowman
昭和初期
紙本着色
- 155
鴨川夜景
Night View at Kamogawa-River
1929(昭和4)年
油彩、板
- 157
人形(男)
Doll (Man), Handmade by TAKEHISA Yumeji
昭和初期
布、針金、紙ほか
- 158
自画像
Self Portrait
昭和初期
紙本墨画淡彩
- 159
立田姫
Tatsutahime
1931(昭和6)年
紙本着色
- 161
ガダループへの道
Path to Guadalupe
1932(昭和7)年
油彩、カンヴァス
和歌山県立近代美術館蔵

- 162
海岸
Seashore
1932(昭和7)年
油彩、板
- 164
西海岸の裸婦
Nude on the West Coast
1931-32(昭和6-7)年
油彩、カンヴァス
- 165
滞米淡彩スケッチ
Sketch in America
1931(昭和6)年
鉛筆・水彩、紙
- 166
外遊スケッチ「この花は」
Sketch in Overseas: This flower...
1932(昭和7)年
墨・水彩、紙
- 167
外遊スケッチ「カウボーイ」
Sketch in Overseas: Cowboy
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆・墨・水彩、紙
- 168
外遊スケッチ「少女」
Sketch in Overseas: Girl
1933(昭和8)年
鉛筆、紙
- 169
外遊スケッチ「女とばら」
Sketch in Overseas: Woman and a Rose
1933(昭和8)年
鉛筆、紙
- 170
ベルリンの公園
Park in Berlin
1933(昭和8)年
ペン・水彩、紙
- 171
滞米日記
Diary in America
1931(昭和6)年
鉛筆、紙
- 172
ベルリン日記1
Diary in Berlin 1
1932-33(昭和7-8)年
鉛筆、紙
- 173
ベルリン日記2
Diary in Berlin 2
1932-33(昭和7-8)年
鉛筆、紙
- 174
ベルリン日記3
Diary in Berlin 3
1932-33(昭和7-8)年
鉛筆、紙
- 175
ベルリン日記4
Diary in Berlin 4
1932-33(昭和7-8)年
鉛筆、紙
- 176
《うつ伏せの裸婦》(1-26)
Nude Lying Face Down (1-26)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界

Takehisa Yumeji: Taisho Romanticism and the New World

177
《街の看板など》(1-35)
Street Signs, etc. (1-35)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

178
《ポイント・ロボスにて、8月11日》(1-44)
At Point Lobos, 11 August (1-44)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

179
《本を読むものの姿の外国人女性》(1-72)
Foreign Woman in Kimono Reading a Book (1-72)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

180
《傘をさす婦人》(1-159)
Lady with an Umbrella (1-159)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

181
《女性像》(1-76)
Woman Figure (1-76)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

182
《三味線をひく女》(1-106)
Woman Playing the Shamisen (1-106)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

183
《犬を散歩させる女性》(1-144)
Woman Walking Her Dog (1-144)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

184
《ウィンドーショッピング》(1-148)
Window-Shopping (1-148)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

185
《横たわる裸婦》(1-200)
Reclining Nude (1-200)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

186
《横向きの一頭の牛》(1-243)
A Cow Facing Sideways (1-243)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

187
《腰布をまとったモデル》(1-216)
Model Clad in Loin Cloth (1-216)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

188
《絵文字》(1-254)
Pictograph (1-254)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

189
《アリゾナ、アパッチ族の絵文字》(1-269)
Arizona, Pictograph of Apache (1-269)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

190
《インスブルック、1932年11月6日》(2-12)
Innsbruck, 6 November 1932 (2-12)
1932-33(昭和7-8)年
鉛筆、紙

191
《水辺のベンチに座る人》(2-5)
People Sitting on Benches by the Water (2-5)
1931-32(昭和6-7)年
鉛筆、紙

192
《街並み(窓にマリア像)》(2-3)
Townscape (Mary Statue in the Window) (2-3)
1932-33(昭和7-8)年
鉛筆、紙

193
《赤いワンピースの婦人》(2-21)
Lady in Red Dress (2-21)
1932-33(昭和7-8)年
鉛筆・色鉛筆、紙

194
《ベルリンのアレクサンダー広場にて、6月24日》(2-6)
At Alexanderplatz in Berlin, 24 June (2-6)
1932-33(昭和7-8)年
鉛筆・色鉛筆、紙

195
不如丘・夢二合作色紙
Shikishi Written by Fujokyu and Yumeji
昭和初期
絹本墨画

196
大野芳郎氏宛葉書(帰国挨拶)
(お手紙を拝見してなつかしく)
Postcard from TAKEHISA Yumeji to OHNO Yoshiro
[Announcement of Return Home]
1933(昭和8)年
ペン、ハガキ

197
大野芳郎氏宛葉書(結構な茶を頂き感謝します)
Postcard from TAKEHISA Yumeji to OHNO Yoshiro
[Thank you for the Wonderful Tea]
1934(昭和9)年
ペン、ハガキ

198
大野芳郎氏宛葉書(入院通知)
Postcard from TAKEHISA Yumeji to OHNO Yoshiro
[Hospitalization Notice]
1934(昭和9)年
ハガキ

199
大野芳郎氏宛葉書(葬儀通知)
Postcard to OHNO Yoshiro [Funeral Notice]
1934(昭和9)年
ハガキ

202
日本の夜
Night in Japan
1932-33(昭和7-8)年頃
紙本着色

3 そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵

Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima

会期	2024年11月30日(土)～2025年2月16日(日) [61日間]
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館
協賛	株式会社資生堂
年間協賛	戸田建設株式会社、ブルームバーグL.P.、 Van Cleef & Arpels
青木野枝 展示協力	
	ANOMALY
三嶋りつ恵 展示協力	
	ShugoArts
展示監修	青木淳(建築家)
担当	森千花、方波見瑠璃子
観覧料	一般1,400円／ 大学生(専修・各種専門学校含む)1,120円／ 中学生・高校生700円／65歳以上700円／ 小学生以下無料
出品点数	立体作品72点ほか資料
広報印刷物	ポスター(B1、B2)チラシ(A3二つ折り)
デザイン	菊地敦己事務所
来館者数	54,186人(一日平均888人)



本展は、現代美術の第一線で活躍を続ける青木野枝と三嶋りつ恵が、当館の各所に作品を配置し、アール・デコ空間を新たな視点で再解釈する企画である。鉄とガラスという異なる素材を主軸に扱う二人は、事前に何度も会場を訪れ、新作を多数準備した上で、作品と建築が響き合う特別なインスタレーションを生み出した。

青木は、朝香宮邸の歴史に心を寄せ、鉄に加えて赤いガラスや石炭、石炭といった素材を用いることで、この場に積み重ねられた時間の層を可視化した。鉄が描きだす線が幾重にも重なり合い、空間と共鳴することで新たなリズムが生まれ、確かな生命感と広がりをもたらした。新館では、本展のために制作した大規模インスタレーションを発表し、空間全体を作品化することで、鑑賞者をその世界へと引き込んだ。三嶋は、邸内に漂う時間が堆積した空気感や光の変化を捉え、そこに多様なフォルムのガラス作品を配置することで、かつての華やぎを彷彿とさせる光のグラデーションを作り出した。屋外では、小さなガラス作品を樹木に結びつけ、自然光の揺らぎを可視化する取り組みも行った。

本展では作品が生み出される背景を伝える資料も準備し、作品に対する深い理解を促す展示を試みた。作家へのインタビューや制作過程を記録した映像資料、ドローイングや制作に用いる道具やパーツ、作家自身が撮影した光にまつわる写真も併せて紹介し、作家の言葉や世界観に直に触れる機会を設けた。

当館は自然光が入る構造を持つため、天候や時間帯による作品の変化に注目する来館者も多く見受けられた。時間を変えて再訪する人の姿もあり、作品に映り込む光や陰影の変化に関心を寄せる声が多く聞かれた。作品を媒介にしてこの空間に「降りてくる光」に目を向け建物の特性を発見する契機となったと言える。

本展は、歴史的建築と現代美術作品が、相互に深く響き合う貴重な機会となり、青木と三嶋の作品は美術館という場に新たな視点をもたらした。建築家の青木淳氏の展示監修のもと、庭園美術館という空間の本質に向き合い、作品と建物の関係性を際立たせる展示が実現した。

そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵
Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima

In this exhibition, Noe Aoki and Ritsue Mishima, two artists who continue to be active at the forefront of contemporary art, presented their work throughout the museum, shedding light on its Art Deco interior from a new perspective.

Aoki has opened up new horizons of expressions with her sculptures that draw lines in space using iron, while Mishima captures the energy of the space and transforms it into light through her colorless, transparent glass works.

The materials of “iron” and “glass,” which the two artists respectively use in the production of their work, are not only blessings of nature that have been passed down through the ages, but are also employed extensively in the decoration of the Former Residence of Prince Asaka, which serves as the venue for the exhibition, including its chandeliers, reliefs, and the tympanums above the doors. The artists visited the site on many occasions and engaged in a repeated dialogue with the building’s 1930s decorative interior to bring together a remarkably unique, once-in-a-lifetime installation plan.

Noe Aoki and Ritsue Mishima, who both use fire in their creations, breathe life into materials through blazing, luminous flames. The forms they produce, imbued with this primitive power, evoke the energy and cycles of nature, bringing wonderment and awareness to those who view them, and enveloping the world around us in a new light.

展覧会図録【記録集】

所収テキスト	青木野枝、三嶋りつ恵(展覧会に寄せる言葉)、 青木淳「旧朝香宮邸で絡み合う、緊張の世界と 融和の世界」、森千花「そこに光が降りてくると き 朝香宮邸をめぐる青木野枝と三嶋りつ恵の 試み」
編集	方波見瑠璃子、森千花
デザイン	菊地敦己事務所
発行	東京都庭園美術館
発行数	1,200部
発行日	2025年2月6日
販売価格	2,500円(税込)



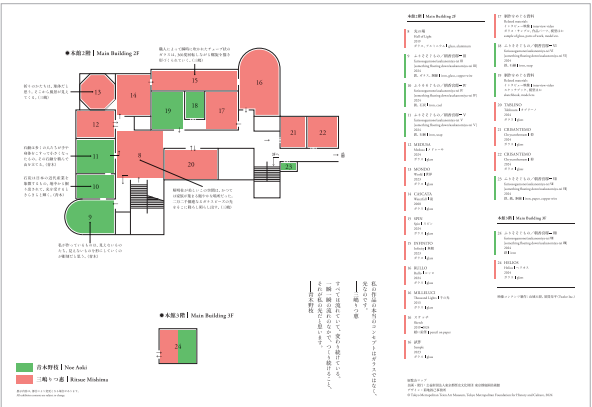
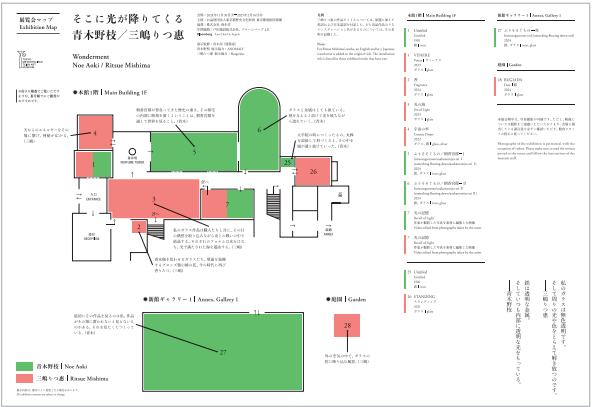
その他印刷物等

展覧会マップ

作品名と展示場所が対応するように示し、作家による作品コメントを添えたマップ。

判型・ページ数 A3両面

デザイン 菊地敦己事務所



そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵
Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima

三嶋りつ恵によるこどもワークシート

三嶋りつ恵自身が手描きした9点のスケッチを手がかりに、それに該当する作品を探すワークシート。

判型 A4
対象 小学生



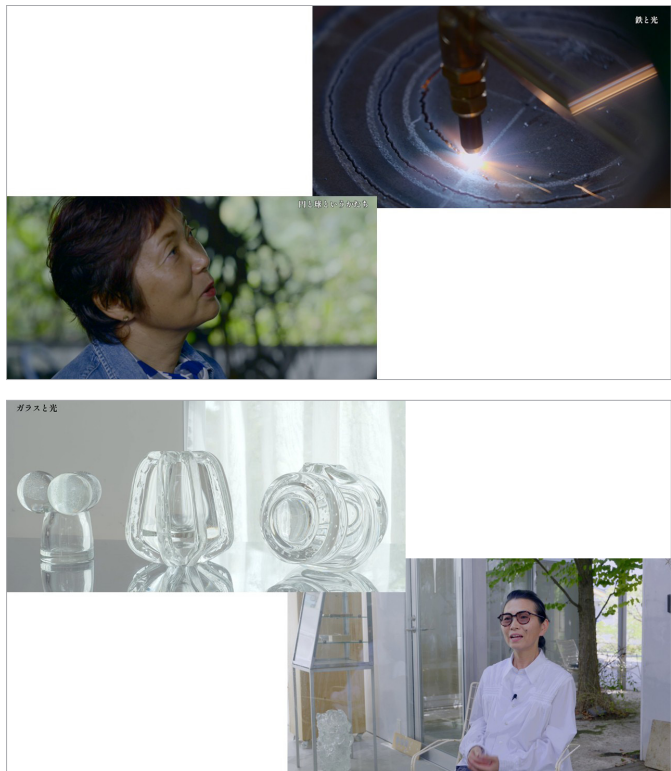
青木野枝・三嶋りつ恵 | インタビュー映像

内容 青木野枝、三嶋りつ恵のインタビューおよび制作映像。展示室で上映したコンテンツを会期中限定でYouTubeでも公開。

撮影 山城大督、須賀亮平 (Twelve Inc.)

編集 山城大督 (Twelve Inc.)

公開期間 2024年11月30日～2025年2月16日
(会期中限定)



そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵

Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima

アーカイブ特別映像

青木野枝・三嶋りつ恵 | インタビュー&展示風景

内容 青木野枝、三嶋りつ恵のインタビューおよび制作映像。展示室で上映した映像に会場風景を加えて再編集し、展覧会の記録映像として閉幕後にYouTubeで公開。

撮影 山城大督、須賀亮平 (Twelve Inc.)

編集 山城大督 (Twelve Inc.)

公開期間 2025年2月20日ー

URL 青木野枝

[https://youtu.be/B6pbr7K1Kk8?](https://youtu.be/B6pbr7K1Kk8?si=il3EBPtMsogrQkW8)

[si=il3EBPtMsogrQkW8](https://youtu.be/B6pbr7K1Kk8?si=il3EBPtMsogrQkW8)

三嶋りつ恵

[https://youtu.be/yLLJJyeU4KQ?](https://youtu.be/yLLJJyeU4KQ?si=2paRnA1xL2M7FLOC)

[si=2paRnA1xL2M7FLOC](https://youtu.be/yLLJJyeU4KQ?si=2paRnA1xL2M7FLOC)



主要関連記事

小松やしほ「鉄とガラス 時をつなぐ光 青木野枝さん・三嶋りつ恵さん2人展」『毎日新聞』(夕刊)2025年1月20日

田中糸れ奈「鉄とガラスと旧宮邸 光の対話 青木野枝／三嶋りつ恵展」『朝日新聞』(夕刊)2025年1月28日

今岡竜弥「鉄、ガラスの美×旧朝香宮邸」『読売新聞』(夕刊)2025年2月8日

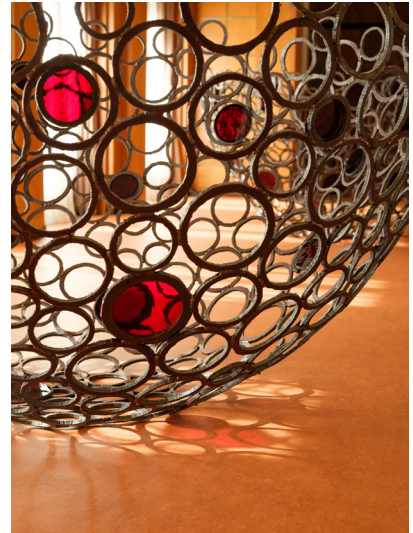
小田原のどか「鉄とガラスから放たれる光 「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」」『芸術新潮』2025年2月号、p.110

青木淳「アートがあれば「そこに光が降りてくる」過去と今との交差」『山陰中央新報デジタル』2025年3月2日

「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」展 『NHK日曜美術館アートシーン』2025年1月26日

そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵
Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima

会場風景



そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵

Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima



そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵
Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima

関連事業

青木野枝・三嶋りつ恵による アーティストトーク

出品作家二人が登壇し、展示作品や展覧会について語り合った。

日時 2025年2月15日(土)14:00～15:30
登壇者 青木野枝、三嶋りつ恵
進行 森千花
会場 新館ギャラリー2
参加者数 81人
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



哲学対話「ともに考える、対話する ― 光ってなんだろう？」

作品を見て感じたことや考えたことを対話をしながら深めていくプログラム。当日は2つのグループに分かれて指定された1つの作品を鑑賞した後に参加者全員で問いを出し合い、時間をかけて対話を深めた。異なる価値観を持つ参加者が自分のペースで発話し、他者の言葉にもじっくりと耳を傾けることで、作品の鑑賞を契機に多角的な視点を共有することができた。

日時 2024年12月22日(日)14:00～16:30
会場 新館ギャラリー2
企画 NPO法人 こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ
ファシリテーター 井尻貴子、ふなやままい
対象 中学生以上どなたでも
定員 20名
参加者数 14人
参加費 無料(入館料別途)
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵
Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima

ギャラリートーク 「朝香宮邸をめぐる光、そして鉄とガラス」

担当学芸員が展示室を巡りながら、出品作品や展覧会エピソードについて語るツアー。

作家から提供された鉄とガラスのパーツに直接触れて鑑賞できる機会も設けた。

日時 2025年1月23日(木)、2月6日(木)
各日11:00～12:00
講師 森千花
参加者数 合計61人
参加費 無料(入館料別途)
申込方法 当日先着順



建物トーク「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」展

本展の出品作品の主な素材である鉄とガラスに注目し、旧朝香宮邸内の鉄とガラスの種類や修理について当館学芸員がスライドを用いて紹介した。

日時 2025年1月9日(木)15:00～15:40
会場 本館1階 ウェルカムルーム
講師 高橋さおり
定員 15名程度
参加者数 9人
参加費 無料(入館料別途)
申込方法 当日先着順



建物ツアー「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」展

旧朝香宮邸内の鉄とガラスの種類や修理について、当館学芸員がツアー形式で館内を歩きながら紹介した。

日時 2025年2月6日(木)16:00～16:40
会場 本館
講師 高橋さおり
定員 10名
参加者数 10人
参加費 無料(入館料別途)
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



その他、教育普及事業として以下の関連プログラムを実施した。(p.69-70,74参照)

- ・先生のための特別研修会(2024年12月6日)
- ・さわ会ーさわっておしゃべり鑑賞会「触れて、感じて、対話する」(2025年2月1日)

そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵
Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima

作品リスト

■青木野枝 Noe Aoki

【作品 Works】

Untitled

Untitled
1981年
h.210 cm, φ45 cm / h.217 cm, φ29 cm / h.220 cm,
φ30 cm / 3点
鉄|iron

ふりそそぐもの／朝香宮Ⅰ

Furisosogu mono/asakanomiya-tei I
[something floating down/asakanomiya-tei I]
2024年
各h.120 cm, φ240 cm / 2点
鉄、ガラス|iron, glass

ふりそそぐもの／朝香宮Ⅱ

furisosogu mono/asakanomiya-tei II
[something floating down/asakanomiya-tei II]
2024年
h.240 cm, φ240 cm
鉄、ガラス|iron, glass

ふりそそぐもの／朝香宮Ⅲ

furisosogu mono/asakanomiya-tei III
[something floating down/asakanomiya-tei III]
2024年
各h.306 cm, φ62.5~106 cm / 6点
鉄、ガラス、銅線|iron, glass, copper wire

ふりそそぐもの／朝香宮Ⅳ

furisosogu mono/asakanomiya-tei IV
[something floating down/asakanomiya-tei IV]
2024年
128 x 95 x 115 cm
鉄、石炭|iron, coal

ふりそそぐもの／朝香宮Ⅴ

furisosogu mono/asakanomiya-tei V
[something floating down/asakanomiya-tei V]
2024年
各173 x 54 x 51 cm / 6点
鉄、石鹸|iron, soap

ふりそそぐもの／朝香宮Ⅵ

furisosogu mono/asakanomiya-tei VI
[something floating down/asakanomiya-tei VI]
2024年
60 x 110 x 30 cm
鉄、石鹸|iron, soap

ふりそそぐもの／朝香宮Ⅶ

furisosogu mono/asakanomiya-tei VII
[something floating down/asakanomiya-tei VII]
2024年
h.80 cm, φ44.5 cm
鉄、紙、銅線|iron, paper, copper wire

ふりそそぐもの／朝香宮Ⅷ

furisosogu mono/asakanomiya-tei VIII
[something floating down/asakanomiya-tei VIII]
2024年
41.5 x 90 x 100 cm
鉄|iron

Untitled

Untitled
1981年
h.222 cm, φ32 cm
鉄|iron

ふりそそぐもの—赤

furisosogu mono-Red
[something floating down-Red]
2024年
280 x 2379.1 x 1003.2 cm
鉄、ガラス|iron, glass

【資料 Materials】

スケッチブック

sketchbook
1987-2024年
48冊

作家の写真を編集した映像——光の記憶

Video edited using the artist's photos
——Recall of Light
2024年
映像(5分)|video (5 minutes)
写真提供: 青木野枝
映像編集: 山城大督(Twelve Inc.)

作家インタビュー映像

Artist interview
2024年
映像(7分)|video (7 minutes)
撮影日・場所: 2024年10月15日 作家スタジオにて(埼玉)
撮影: 山城大督、須賀亮平(Twelve Inc.)
編集: 山城大督(Twelve Inc.)

作家による展示風景の映像

Noe Aoki Installing the Work
2024年
映像(60秒)|video (60 seconds)
撮影日・場所: 2024年11月25日 東京都庭園美術館
撮影・編集: 山城大督(Twelve Inc.)

そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵
Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima

■三嶋りつ恵 Ritsue Mishima

【作品 Works】

VENERE

Venus| ヴィーナス
2023年
35 x 22 x 22 cm
ガラス|glass
UESHIMA MUSEUM COLLECTION

香

Fragrance
2024年
ガラス|glass

光の海

Sea of Light
2024年
ガラス|glass
RING
CIRCLE
NIDO DI LUCE
CELLULA
TRIONFO
WHITE CRYSTAL
CYCLE
PAGODA
DRYADE
WATER ABSTRACT
JOMON
DEA
DHARMA
FONDO DI LUCE
INTRECCIO
LIGHTFALL
VORTICE
ASCENSION
DEA
ABISSO
BABEL
CRYSTAL FRUIT
TRE GOLE
NERVATURA
GALASSIA
TRE LUCI
STELLA
LACRIME DI LUCE
CYCLE
ELICA
CRYSTAL
CRISTALLINA
RIVERBERO
MILLELUCI
CRONOS (Collection of ShugoArts)
PIETRA LUNGA (Collection of ShugoArts)

宇宙の雫

Cosmic Drops
2022年
h.386.5 cm, φ9.5cm
ガラス、銀|glass, silver

光の場

Hall of Light
2019年
232 x 230 x 199 cm
ガラス、アルミニウム|glass, aluminium

MEDUSA

Medusa|メドゥーサ
2024年
40 x 40 x 40 cm
ガラス|glass

MONDO

World|世界
2023年
26.5 x 16 x 16 cm
ガラス|glass

CASCATA

Waterfall|滝
2008年
70 x 23.5 x 23 cm
ガラス|glass
Collection of ShugoArts

SPIN

Spin|スピン
2024年
51.5 x 39.5 x 36.5 cm
ガラス|glass

INFINITO

Infinity|無限
2023年
50.5 x 43.5 x 38cm
ガラス|glass

RULLO

Rullo|ルッロ
2024年
φ32 cm
ガラス|glass

MILLELUCI

Thousand Lights|千の光
2013年
24.5 x 29 x 32 cm
ガラス|glass

TABLINO

Tablinum|タブリーノ
2024年
ガラス|glass
VENTO
CELLULA
ARCA DI LUCE (Collection of ShugoArts)

CRISANTEMO

Chrysanthemum|菊
2024年
各5.3 x 6.5 cm /103点
ガラス|glass

CRISANTEMO

Chrysanthemum|菊
2024年
各5.3 x 6.5 cm / 99点
ガラス|glass

HELIOS I

HeliosI|ヘリオス I
2024年
57 x 31 x 17 cm
ガラス|glass

HELIOS II

Helios II|ヘリオス II
2024年
56 x 29.5 x 17 cm
ガラス|glass

STANDING

スタンディング
2021年
67 x 37 x 31 cm
ガラス|glass

RUGIADA

Dew|露
2024年
16.4 x φ2.8 cm / 16.5 xφ 2.8 cm / 12.3 x φ2.2 cm / 3点
ガラス|glass

【資料 Materials】

スケッチ

Sketch
2019-2024年
18点
紙に鉛筆|pencil on paper

ガラス・サンプル、作品パーツ、模型ほか
sample of glass, parts of work, model etc.
2014-2023年

作家の写真を編集した映像——光の記憶

Video edited using the artist's photos
——Recall of Light
2024年
映像(5分)|video (5 minutes)
写真提供: 三嶋りつ恵
映像編集: 山城大督(Twelve Inc.)

作家インタビュー映像

Artist interview
2024年
映像(7分)|video (7 minutes)
撮影日・場所: 2024年8月26日 作家アトリエ、自宅にて
(京都)
撮影: 山城大督、須賀亮平(Twelve Inc.)
編集: 山城大督(Twelve Inc.)

作家による展示風景の映像

Ritsue Mishima Installing the Work
2024年
映像(60秒)|video (60 seconds)
撮影日・場所: 2024年11月25日 東京都庭園美術館
撮影・編集: 山城大督(Twelve Inc.)

4 戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見

Back to Modern: Graphic Design from West Germany

会期	2025年3月8日(土)～5月18日(日)[62日間] 2024年度 2025年3月8日(土)～3月31日(月) [20日間]
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館
特別協力	A5コレクション デュッセルドルフ
後援	ドイツ連邦共和国大使館、 ゲーテ・インスティトゥート
企画協力	株式会社キュレイターズ
年間協賛	戸田建設株式会社、ブルームバーグL.P.、 Van Cleef & Arpels
担当	西美弥子、鶴三慧
観覧料	一般1,400円／ 大学生(専修・各種専門学校含む)1,120円／ 中学生・高校生700円／65歳以上700円／ 小学生以下無料
出品点数	376点
広報印刷物	ポスター(B1、B2)チラシ(A4)
デザイン	クリ・ラボ 栗原幸治
来館者数	2024年度 16,340人(一日平均817人)
巡回情報	西宮市大谷記念美術館



第二次世界大戦敗戦により、1945年にドイツは東西に分断され、1990年に再統一されるまで、ドイツ民主共和国(東ドイツ)とドイツ連邦共和国(西ドイツ)という二つの国が存在した。本展では、このうち西ドイツにおいて制作されたグラフィックデザインについて注目し、その様相を探った。

本展の導入部として示されたのは、芸術展「ドクメンタ」や1972年のミュンヘンオリンピックなど、再びドイツが国際社会に復帰するため、威信をかけて開催された文化・スポーツにおけるイベントにおいてグラフィックデザインが果たした役割についてである。また、商業と密接な関係にあるグラフィックデザインが、ルフトハンザなど西ドイツを代表する企業において、そのコーポレート・イメージを作り上げた功績について注目し、いかにグラフィックデザインが西ドイツの経済発展に寄与していたかについても紹介した。その後、幾何学的抽象、イラストレーション、写真、タイポグラフィという、グラフィックデザインを構成する重要な4つの要素を軸に、映画、商品、展覧会などの告知ポスターや、書籍、冊子、レコードジャケットなど多様な資料を分類して展示した。

本展では、旧朝香宮邸の特性を活かしながら、じっくりと作品を向き合える空間とした本館に対し、新館ではアシンメトリーな形の壁に、リズムカルに作品を展示することで、緩急のある展示空間づくりを意識した。また、本展に出展されたデザイナーおよびデザイングループは87件と多いうえ、日本では知名度が低い人物も含まれているため、章解説や作品解説とともに、デザイナーについての解説がつけられ、鑑賞者がより西ドイツのグラフィックデザインに親しめるよう努めた。さらには、主に小学生高学年からを対象としたジュニアガイドを作成し、当時の歴史的背景やグラフィックデザイン、デザイナーについて解説をすることで、子供にも楽しみながら鑑賞してもらえるようにした。

西ドイツのグラフィックデザインは、戦時中に否定されたモダニズムを再び復活させ、さらに当時の最新技術によって可能となった技法などを用いながらつくられた。新時代を切り開くデザイナーたちの若い感性の発露がみられるデザインは、戦禍が深く残っていた当時の西ドイツを活気づけ、再び世界市場へと押し上げた力をもっていたことを現代に伝えるものであった。展覧会告知用にオリジナルのしおりとコースターを制作し、都内の書店やシアター、カフェ、インテリアショップなどで配布した。持参した来館者には割引を適用するなど集客に寄与した。

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見

Back to Modern: Graphic Design from West Germany

The modernist design philosophy and innovative art education methods of the Bauhaus, established in Germany in 1919, had an enormous global influence until the school's closure in 1933. After World War II ended in 1945, Germany was partitioned into East and West. In West Germany, the Ulm School of Design (1953-1968) was founded with the goal of carrying on the legacy and principles of the Bauhaus. Despite closing just 15 years later, the school significantly advanced design theory and practice, and left an enduring impact on design education.

By the late 1950s West Germany ranked second globally in GNP (Gross National Product), an achievement known as the "economic miracle," and graphic design, inextricably related to commerce, is cited as a factor in this success. Graphic design was also instrumental in defining the visual identity of major national events, including the 1972 Munich Olympics, the international sailing festival Kiel Week (Kieler Woche), and the contemporary art exhibition Documenta, held once every four or five years in Kassel.

This exhibition features a variety of works from the A5 Collection Düsseldorf, formed by the Düsseldorf-based graphic designer Jens Müller and Katharina Sussek. There is a particular focus on posters, selected from the perspectives of geometric abstraction, illustration, photography, and typography, which are accompanied by an array of works including booklets and magazines. We invite you to explore the world of West German graphic design, which, while rooted in the educational principles of the Bauhaus and the Ulm School of Design, ventured into new creative territory in the postwar era.

展示構成:

序章 西ドイツへようこそ

幾何学的抽象

タイポグラフィ

イラストレーション

写真

Exhibition composition:

Welcome to West Germany

Geometric Abstraction

Typography

Illustration

Photography

展覧会カタログ

所収テキスト イェンス・ミュラー(ビスタ グラフィックデザイナー、ドルトムント応用科学・芸術大学教授)、「モダニズム再発見:戦後西ドイツのグラフィックデザイン」、下村朝香(西宮市大谷記念美術館学芸員)「西ドイツと日本、デザインの歩みーオリンピックのビジュアル表現をめぐって」、杉田佳穂(ミサワバウハウスコレクション学芸員)「イメージの力 ヘルベルト・パイアーのデザイン」

編集 下村朝香

編集協力 東京都庭園美術館、
株式会社キュレイターズ

表紙デザイン(原案)

カタリーナ・ズセック、
イェンス・ミュラー(ビスタ)

表紙デザイン レイアウト

上田英司(シルシ)

デザイン 上田英司

発行 株式会社キュレイターズ

発行日 2024年10月

販売価格 3,300円(税込)



撮影:黒目写真館

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見 Back to Modern: Graphic Design from West Germany

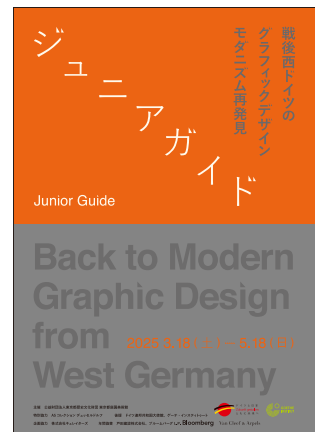
その他印刷物等

作品リスト／会場案内図

判型・ページ数 両面A3二つ折り／
仕上がりサイズA4(8ページ)
編集 西美弥子、鶴三慧
デザイン・制作 クリ・ラボ 栗原幸治

ジュニアガイド

判型・ページ数 仕上りサイズA5(8ページ)
企画・編集 西美弥子、鶴三慧
デザイン・制作 HIDAMARI Ltd. 関本明子



ショート動画

タイトル 「戦後西ドイツのグラフィックデザイン
モダニズム再発見 会場ムービー」
企画 東京都庭園美術館
編集・制作 黒目写真館
動画の公開期間 2025年3月31日(月)～5月18日(日)
(SNS有料広告にて発信)



主要関連記事

「時代を映すデザイン」(担当学芸員寄稿記事)『新美術新聞』2025年3月1日号
美術手帖(Web)2025年3月8日 <https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/30402>
Tokyo Art Beat (Web)2025年3月10日 <https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/30402>

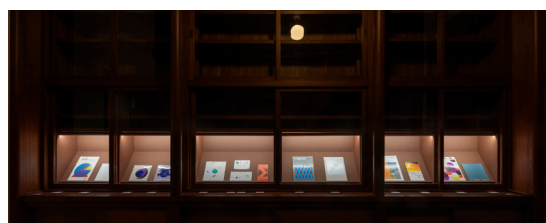
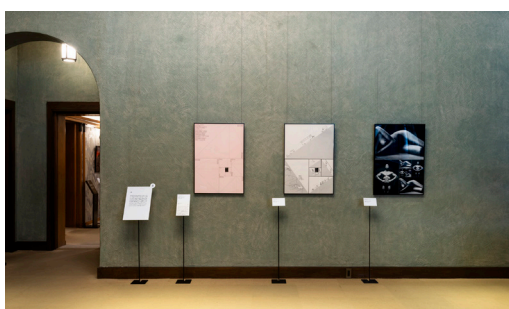
割引

しおり・コースター割引

展覧会観覧料が通常価格より100円引き
利用者 2024年度62名

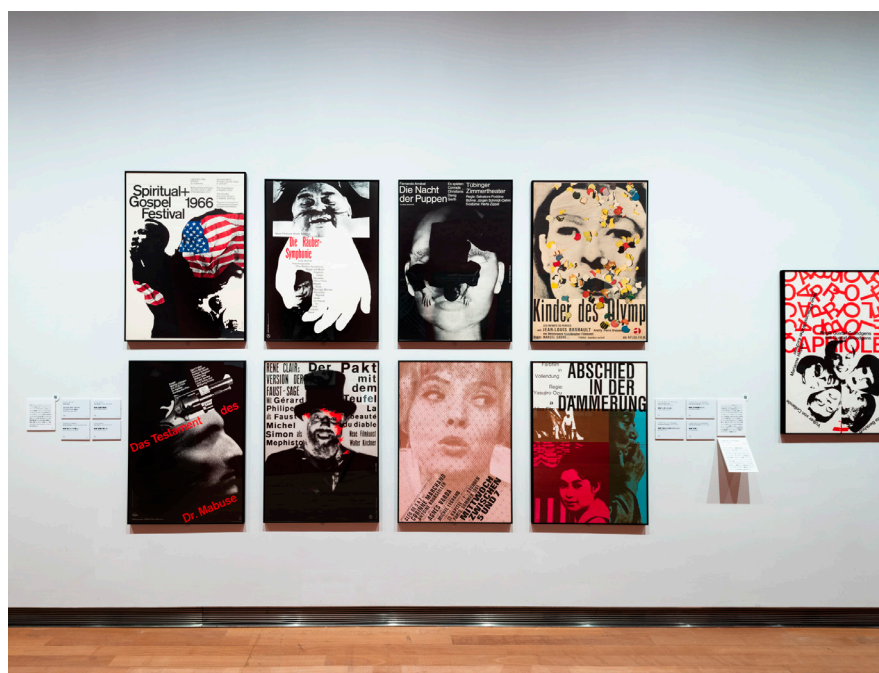
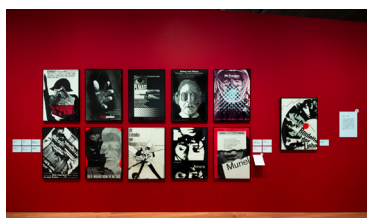
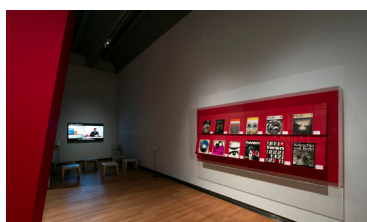
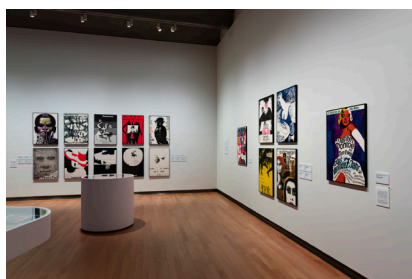
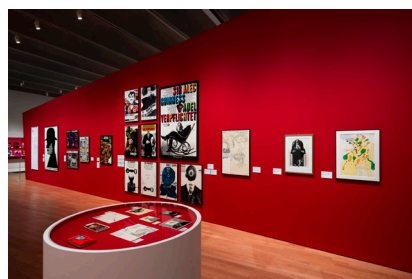
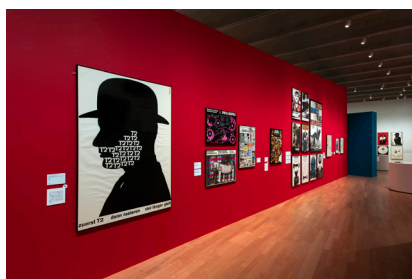
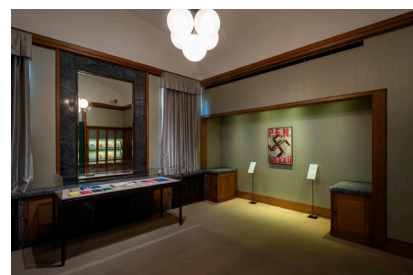
戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見 Back to Modern: Graphic Design from West Germany

会場風景



戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見

Back to Modern: Graphic Design from West Germany



戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見 Back to Modern: Graphic Design from West Germany

関連事業

コンサート「ドイツの夜明け」

テレマン、ヘンデル、J. S. バッハといったドイツを代表する作曲家によるクラシック音楽から、シュニトケによる現代音楽まで、幅広いドイツ音楽のコンサートを行った。また、実際に西ドイツ時代に同地でヴァイオリニストとして活動していた水島愛子氏による当時を振り返るトークや、平沢匡明氏によるチェンバロという楽器の成り立ちや特徴についての解説も行われた。

日時 2025年3月30日(日) 14:00~15:30
会場 新館ギャラリー2
演奏 ヴァイオリン 水島愛子
(元バイエルン放送交響楽団ヴァイオリン奏者)
チェンバロ 平沢匡明
(洗足学園音楽大学、愛知県立芸術大学講師)
参加者数 93人
参加費 無料(入館料別途)
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制



作品リスト

■序章 西ドイツデザインへようこそ Prologue Welcome to West German Design

P_0-01
ルフトハンザ - 日本
Lufthansa - Japan
ルフトハンザ宣伝部
Lufthansa Advertising Dept.
1964-65
P_0-02
ルフトハンザ - エクアドル
Lufthansa - Ecuador
ルフトハンザ宣伝部
Lufthansa Advertising Dept.
1964-65
P_0-03
ルフトハンザ - アフリカ
Lufthansa - Africa
ルフトハンザ宣伝部
Lufthansa Advertising Dept.
1964-65
P_0-04
ミュンヘン オリンピック 1972
Olympic Games Munich 1972
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1971
P_0-05
ミュンヘン オリンピック 1972
Olympic Games Munich 1972
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1971
P_0-06
ミュンヘン オリンピック 1972
Olympic Games Munich 1972
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1971

P_0-07
イスニー・イム・アルゴイ
Isny im Allgäu
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1977
P_0-08
イスニー・イム・アルゴイ
Isny im Allgäu
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1977
P_0-09
エルコ(ピクトグラム)
ERCO (Pictogram)
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1985
P_0-10
エルコ(ピクトグラム)
ERCO (Pictogram)
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1985
P_0-11
エルコ(ピクトグラム)
ERCO (Pictogram)
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1985
P_0-12
展覧会「ドクメンタ3 カッセル '64
工業デザインのグラフィック」
Exhibition, documenta 3 Kassel '64
Industrial Design Graphics
ユップ・エルンスト
Jupp Ernst
1964

P_0-13
展覧会「ドクメンタ4 カッセル '68」
Exhibition, documenta Kassel 4 '68
カール・オスカル・ブラーゼ、アルノルト・ボーデ
Karl Oskar Blase, Arnold Bode
1968
P_0-14
展覧会「ドクメンタ6 カッセル '77」
Exhibition, documenta Kassel 6 '77
カール・オスカル・ブラーゼ
Karl Oskar Blase
1977
P_0-15
キール ウィーク 1964
Kiel Week 1964
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1964
P_0-16
キール ウィーク 1965
Kiel Week 1965
ミヒャエル・エンゲルマン
Michael Engelmann
1965
P_0-17
キール ウィーク 1985
Kiel Week 1985
ドリス・カッセ・シュリューター
Doris Casse-Schlüter
1985
P_0-18
キール ウィーク 1986
Kiel Week 1986
メンデル&オベラー
Mendell & Oberer
1986

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見 Back to Modern: Graphic Design from West Germany

S_01_01

冊子「ルフトハンザ」
Lufthansa/Brochure
ルフトハンザ宣伝部
Lufthansa Advertising Dept.
1956

S_01_02

冊子「ルフトハンザ」
Lufthansa/Brochure
ルフトハンザ宣伝部
Lufthansa Advertising Dept.
1955-63

S_01_03

タグ「ルフトハンザ」
Lufthansa/Tag
ルフトハンザ宣伝部
Lufthansa Advertising Dept.
1955-63

S_01_04

冊子「ルフトハンザ」
Lufthansa/Brochure
ルフトハンザ宣伝部
Lufthansa Advertising Dept.
1956

S_01_05

マニュアル「ルフトハンザのコーポレートデザイン」
Lufthansa Corporate Design/Concept Brochure
ロルフ・クヴェアングザー(AD)、ルフトハンザ宣伝部
Rolf Quereingäser (AD), Lufthansa Advertising Dept.
1989

S_01_06

冊子「ルフトハンザ運行スケジュール」
Lufthansa Flight Schedule/Brochure
オトル・アイヒャー、E5 /ウルム造形大学
Otl Aicher, E5/HfG Ulm
1967

S_01_07

航空券、荷物タグ「ルフトハンザ」
Lufthansa/Passenger Ticket and Baggage Check
オトル・アイヒャー、E5 /ウルム造形大学
Otl Aicher, E5/HfG Ulm
c.1965

S_01_08

荷物ステッカー「ルフトハンザ」
Lufthansa/Luggage Stickers
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1970s

S_01_09

冊子「ルフトハンザ機内食メニュー(りんご)」
Lufthansa Menu (Apple)/Brochure
オトル・アイヒャー(コンセプト)
Otl Aicher (Concept)
1970s

S_01_10

冊子「ルフトハンザ機内食メニュー(シトラス)」
Lufthansa Menu (Citrus)/Brochure
オトル・アイヒャー(コンセプト)
Otl Aicher (Concept)
1970s

S_01_11

冊子「ルフトハンザ」
Lufthansa/Brochure
オトル・アイヒャー(コンセプト)、ルフトハンザ宣伝部
Otl Aicher (Concept), Lufthansa Advertising Dept.
1970s

S_01_12

冊子「ルフトハンザ日誌」
Lufthansa Logbook/Brochure
オトル・アイヒャー(コンセプト)、ルフトハンザ宣伝部
Otl Aicher (Concept), Lufthansa Advertising Dept.
1972

S_01_13

冊子「公式オリンピックガイド ミュンヘン 1972」
Official Munich 1972 Olympic Guide/Brochure
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
c.1972

S_01_14

冊子「カヌー(1972年ミュンヘン オリンピック)」
Canoeing (Olympic Games Munich 1972)/Brochure
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
c.1972

S_01_15

冊子「オリンピック サマー
(1972年ミュンヘン オリンピック)」
Olympic Summer (Olympic Games Munich 1972)/
Brochure
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
c.1972

S_01_16

冊子「エルコ(ピクトグラム)」
ERCO (Pictogram)/Brochure
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1976

S_01_17

冊子「エルコ オスラム(ピクトグラム)」
ERCO OSRAM (Pictogram)/Brochure
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1976

S_01_18

冊子「スポーツとデザイン」
Sport and Design/Brochure
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1981

S_01_19

冊子「自動車批評 オトル・アイヒャーによる
デザイン分析(アクシスギャラリー、東京)」
Critique of the Car Design Analytics by Otl Aicher
(Axis Gallery, Tokyo)/Brochure
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1986

S_01_20

冊子「BMW、製品」
BMW, Products/Brochure
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1983

S_01_21

冊子「BMW について」
BMW AG, A Self-Portrait/Brochure
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1983

S_01_22

冊子「BMW 成功を収めたスポーツカー」
BMW AG, Successful Sports Cars/Brochure
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1983

S_02_01

雑誌『シュトゥットガルト レビュー』1946年3月号
Stuttgart Review, 3.1946/Magazine
作者不詳
Unknown
1946

S_02_02

雑誌『シュトゥットガルト レビュー』1947年3月号
Stuttgart Review, 3.1947/Magazine
作者不詳
Unknown
1947

S_02_03

原画「輸出展示会」
Export Show/Original Image
作者不詳
Unknown
1948

S_02_04

冊子「もうひとつのドイツ、ベルリン」
The Other Germany, Berlin/Brochure
フレート・グラウヴェンホルスト
Fred Gravenhorst
1948

S_02_05

雑誌「グラフィック」1950年7月号
Graphic, 7.1950/Magazine
クルト・克蘭ツ
Kurt Kranz
1950

S_02_06

雑誌「Gebrauchsgraphik(商業美術)」1950年1月号
Commercial Art, 1.1950/Magazine
トニー・ゼップ
Toni Zepf
1950

S_02_07

冊子「ベルリン 国際会議場」
Berlin International Conference Center/Brochure
クルト・克蘭ツ
Kurt Kranz
1950

S_02_08

雑誌「ポートフォリオ」1956年5月号
The Portfolio, 5.1956/Magazine
作者不詳
Unknown
1956

S_02_09

身分証明書「英国ゾーン」
British Zone/Identity Card
作者不詳
Unknown
1947

S_02_10

冊子「デュッセルドルフ美術展」
Düsseldorf Art Exhibition/Brochure
作者不詳
Unknown
1947

S_02_11

チラシ「テンゲルマン・コーヒー」
Tengelmann Coffee/Flyer
作者不詳
Unknown
1949

S_02_12

冊子「フランクフルト国際見本市」
International Trade Fair Frankfurt am Main/
Brochure
作者不詳
Unknown
1951

S_02_13

冊子「グロリア映画配給」
Gloria Film Distribution/Brochure
ヴォルフガング・ヴィル、レーオ・ポッタス
Wolfgang Will, Leo Bothas
1953

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見

Back to Modern: Graphic Design from West Germany

S_02_14

原画「家具 エリ・ゴンゴル」
Furniture Elli Gongoll/Original Image
E. ラタイチャク
E. Ratajczak
1947

S_02_15

原画「アルゴアイア穀粉」
Allg_uer Kernel Meal/Original Image
フランツ・ヴァイス
Franz Weiss
1950s

S_02_16

原案「ドリンクス ヘルヴァ」
Drinks Hervaa/Draft
シティ・レクラメ・KG、ベルリン
City Reklame KG, Berlin
1960s

S_02_17

原案「モミの木工場」
Fir mill/Draft
フランツ・ヴァイス
Franz Weiss
1950s

S_12_01

冊子「キール ウィーク 1950」
Kiel Week 1950/Brochure
アルトゥーア・ラングレット
Arthur Langlet
1950

S_12_02

冊子「キール ウィーク 1953」
Kiel Week 1953/Brochure
エルンスト・イルムラー
Ernst Irmeler
1953

S_12_03

ポスタースタンプ「キール ウィーク 1954」
Kiel Week 1954/Poster Stamp
アヒム・バルガツキー
Achim Bargatzki
1954

S_12_04

はがき「キール ウィーク 特製ポストカード」
Kiel Week Special Postcard/Postcard
ヴァルター・ブレーカー
Walter Breker
1960

S_12_05

ポスタースタンプ「キール ウィーク 1956」
Kiel Week 1956/Poster Stamp
ヴェレーナ・マオホ
Verena Mauch
1956

S_12_06

冊子「キール ウィーク 1961」
Kiel Week 1961/Brochure
セレスティノ・ピアッティ
Celestino Piatti
1961

S_12_07

ポスタースタンプ「キール ウィーク 1961」
Kiel Week 1961/Poster Stamp
セレスティノ・ピアッティ
Celestino Piatti
1961

S_12_08

ポスタースタンプ「キール ウィーク 1962」
Kiel Week 1962/Poster Stamp
アントン・シュタンコフスキー
Anton Stankowsk
1962

S_12_09

冊子「キール ウィーク 1963」
Kiel Week 1963/Brochure
ハンス・ミヒェル
Hans Michel
1963

S_12_10

冊子「キール ウィーク 1964」
Kiel Week 1964/Brochure
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1964

S_12_11

冊子「キール ウィーク 1965」
Kiel Week 1965/Brochure
ミヒャエル・エンゲルマン
Michael Engelmann
1965

S_12_12

ポスタースタンプ「キール ウィーク 1967」
Kiel Week 1967/Poster Stamp
F.G. ボェース
F.G. Boes
1967

S_12_13

ポスタースタンプ「キール ウィーク 1968」
Kiel Week 1968/Poster Stamp
ディーター・フォン・アンドリアーン
Dieter von Andrian
1968

S_12_14

冊子「キール ウィーク 1969 プログラム」
Kiel Week 1969 Program/Brochure
イゾルデ・モンソン＝バウムガルト
Isolde Monson-Baumgart
1969

S_12_15

冊子「キール ウィーク 1970 プログラム」
Kiel Week 1970 Program/Brochure
ヴァルデマル・スヴィエルジー
Waldemar Swierzy
1970

S_12_16

コースター「キール ウィーク 1970」
Kiel Week 1970/Coaster
ヴァルデマル・スヴィエルジー
Waldemar Swierzy
1970

S_12_17

ポスタースタンプ「キール ウィーク 1971」
Kiel Week 1971/Poster Stamp
ブルーノ・K. ヴィーゼ
Bruno K. Wiese
1971

S_12_18

冊子「キール ウィーク 1972 プログラム」
Kiel Week 1972 Program/Brochure
ロルフ・ミュラー
Rolf Müller
1972

S_12_19

コースター「キール ウィーク 1974」
Kiel Week 1974/Coaster
ウォルター＝アンドレス・ヤーンケ
Walter-Andres Jahnke
1974

S_12_20

冊子「キール ウィーク 1975」
Kiel Week 1975/Brochure
オットー・トロイマン
Otto Treumann
1975

S_12_21

冊子「キール ウィーク 1976」
Kiel Week 1976/Brochure
ハンス・フォエルチュ
Hans Förtsch
1976

S_12_22

コースター「キール ウィーク 1976」
Kiel Week 1976/Coaster
ハンス・フォエルチュ
Hans Förtsch
1976

S_12_23

ポスタースタンプ「キール ウィーク 1977」
Kiel Week 1977/Poster Stamp
ハンス・シュヴァイス
Hans Schweiss
1977

S_12_24

封筒「キール ウィーク 1978」
Kiel Week 1978/Envelope
ゲオルゲス・ラクロワ
Georges Lacroix
1978

S_12_25

コースター「キール ウィーク 1979」
Kiel Week 1979/Coaster
ブルーノ・オルダニ
Bruno Oldani
1979

S_12_26

コースター「キール ウィーク 1980」
Kiel Week 1980/Coaster
ジャン・ヴィトマー
Jean Widmer
1980

S_12_27

冊子「キール ウィーク 1981 公式プログラム」
Kiel Week 1981 Official Program/Brochure
ブレント・ブロッケ
Brend Brocke
1981

S_12_28

はがき「100周年 キール ウィーク 1982」
100 Years Kiel Week 1982/Postcard
ブルーノ・K. ヴィーゼ
Bruno K. Wiese
1982

S_12_29

冊子「100周年 キール ウィーク 1982 プログラム」
100 Years Kiel Week 1982 /Brochure
ブルーノ・K. ヴィーゼ
Bruno K. Wiese
1982

S_12_30

コースター「100周年 キール ウィーク 1982」
100 Years Kiel Week 1982/Coaster
ブルーノ・K. ヴィーゼ
Bruno K. Wiese
1982

S_12_31

ポスタースタンプ「100周年 キール ウィーク 1982」
100 Years Kiel Week 1982/Poster Stamp
ブルーノ・K. ヴィーゼ
Bruno K. Wiese
1982

S_12_32

冊子「100周年 キール ウィーク1982」
100 Years Kiel Week 1982/Brochure
ブルーノ・K. ヴィーゼ
Bruno K. Wiese
1982

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見 Back to Modern: Graphic Design from West Germany

S_12_33

はがき「キール ウィーク 1984」
Kiel Week 1984/Postcard
エルンスト・ヒースタンド
Ernst Hiestand
1984

S_12_34

はがき「キール ウィーク 1983」
Kiel Week 1983/Postcard
ローリ&エルンスト・イェンガー
Lorli & Ernst Jünger
1983

S_12_35

冊子「キール ウィーク 1985 プログラム」
Kiel Week 1985 Program/Brochure
ドーリス・カッセ＝シュルユーター
Doris Casse-Schlüter
1985

S_12_36

ポスタースタンプ「キール ウィーク 1985」
Kiel Week 1985/Poster Stamp
ドーリス・カッセ＝シュルユーター
Doris Casse-Schlüter
1985

S_12_37

冊子「キール ウィーク 1985 プログラム」
Kiel Week 1985 Program/Brochure
ドーリス・カッセ＝シュルユーター
Doris Casse-Schlüter
1985

S_12_38

冊子「キール ウィーク 1986 プログラム」
Kiel Week 1986 Program/Brochure
ルューディ・バウア
Ruedi Baur
1986

S_12_39

冊子「キール ウィーク 1987 プログラム」
Kiel Week 1987 Program/Brochure
ルーディ・マイヤー
Rudi Meyer
1987

S_12_40

はがき「キール ウィーク 1988」
Kiel Week 1988/Postcard
アフマド・ムアラ
Ahmad Moualla
1988

S_12_41

はがき「キール ウィーク 1989」
Kiel Week 1989/Postcard
ニコラ・ジラルド&アグネス・コロンビエ
Nicolas Girard & Agnes Colombier
1989

■幾何学的抽象

Geometric Abstraction

P_1-01

DIN A フォーマット
The DIN A Formats
ロルフ・ミュラー
Rolf Müller
1974

P_1-02

DIN A フォーマット
The DIN A Formats
ロルフ・ミュラー
Rolf Müller
1974

P_1-03

DIN A フォーマット
The DIN A Formats
ロルフ・ミュラー
Rolf Müller
1974

P_1-04

展覧会「測定と検査」
Exhibition, Measuring and Testing
ヘルベルト・W. カピツキ
Herbert W. Kapitzki
1962

P_1-05

展覧会「ドイツでの建築」
Exhibition, To Build in Germany
ヴェルナー・グルーネヴァルト
Werner Grunewald
1963

P_1-06

展覧会「バウハウス 50年」
Exhibition, 50 Years bauhaus
ヘルベルト・バイアー
Herbert Bayer
1968

P_1-07

展覧会「GDLマスター写真」
Exhibition, GDL Master Photos
ヴァルター・ブレーカー
Walter Breker
1960

P_1-08

展覧会「H.W.カピツキ グラフィックデザイン」
Exhibition, H.W.Kapitzki Graphic Design
ヘルベルト・W. カピツキ
Herbert W. Kapitzki
1964

P_1-09

溶接・切断見本市、エッセン
Welding and Cutting Trade Fair, Essen
グラフィックチーム
Graphic Team
1965

P_1-10

「公開コンサート 1964-65 ヘッセン放送局」
Public Concerts 1964-65 Hessian Broadcasting
ハンス・ミヒエル、グンター・キーザー
Hans Michel, Günther Kieser
1964

P_1-11

「公開コンサート 1965-66 ヘッセン放送局」
Public Concerts 1965-66 Hessian Broadcasting
ハンス・ミヒエル、グンター・キーザー
Hans Michel, Günther Kieser
1965

P_1-12

「公開コンサート 1969-70 ヘッセン放送局」
Public Concerts 1969-70 Hessian Broadcasting
ハンス・ミヒエル
Hans Michel
1969

P_1-13

ブルーノート
Blue Note
イェルゲン・シュポーン
Jürgen Spohn
1965

P_1-14

ベルリン自由民衆劇場
Theater of the Freie Volksbühne Berlin
イェルゲン・シュポーン
Jürgen Spohn
1969

P_1-15

舞踊「ドイツ風景の踊り」
Dances, German Landscapes
イェルゲン・シュポーン
Jürgen Spohn
1964

P_1-16

コンサート「待降節の神聖な音楽」
Concert, Spiritual Music in Advent
ラインハルト・ブラウン
Reinhart Braun
1967

P_1-17

演劇「インタードラマ 68」 国際青少年アマチュア演劇祭
Stage, Interdrama 68
International Amateur Theater of the Youth
イェルゲン・シュポーン
Jürgen Spohn
1968

P_1-18

コンサート「現代の音楽」
Concert, Contemporary Music
ハンス・フオエルチュ、ズィーグリート・フォン・バウムガル
テン
Hans Förtsch, Sigrid von Baumgarten
1970

S_03_01

冊子「AG(アクチデンツ・グロテスク)」
AG (Akzidenz Grotesk)/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1960-70s

S_03_02

冊子「アントーン・シュタンコフスキー、
ドローイングと写真」
Anton Stankowski, Drawings and Pictures/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1979

S_03_03

冊子「フィースマン ビジュアル」
VIESSMANN Visual/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1960-70s

S_03_04

冊子「フィースマン ビジュアル」
VIESSMANN Visual/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1960-70s

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見 Back to Modern: Graphic Design from West Germany

S_03_05

冊子「フィースマン 50周年」
50 Years of VIESSMANN/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1967

S_03_06

冊子「バーデン・バーデン」
1981年第11回オリンピック総会」
Baden Baden 1981 11th Olympic Congress/
Brochure
ロルフ・ミュラー、アントーン・シュタンコフスキー (ロゴ)
Rolf Müller, Anton Stankowski (Logo)
1981

S_03_07A

封筒「バーデン・バーデン」
1981年第11回オリンピック総会」
Baden Baden 1981 11th Olympic Congress/
Envelope
ロルフ・ミュラー、アントーン・シュタンコフスキー (ロゴ)
Rolf Müller, Anton Stankowski (Logo)
1981

S_03_07B

封筒「バーデン・バーデン」
1981年第11回オリンピック総会」
Baden Baden 1981 11th Olympic Congress/
Envelope
ロルフ・ミュラー、アントーン・シュタンコフスキー (ロゴ)
Rolf Müller, Anton Stankowski (Logo)
1981

S_03_08

雑誌「フォルム 39」1967年9月号
Form 39, 9.1967/Magazine
カール・オスカル・ブラーゼ
Karl Oskar Blase
1967

S_03_09

冊子「カッセル州立劇場 1968-69」
Kassel State Theater 1968-69/Brochure
カール・オスカル・ブラーゼ
Karl Oskar Blase
1967

S_03_10

冊子「良いかたち」
Good Form/Brochure
ヘルベルト・W. カピツキ
Herbert W. Kapitzki
1965

S_03_11

冊子「公開コンサート1968-69 ヘッセン放送局」
Public Concerts 1968-69 Hessian Broadcasting/
Brochure
ハンス・ミヒェル
Hans Michel
1968

S_03_12

冊子「公開コンサート1967-68 ヘッセン放送局」
Public Concerts 1967-68 Hessian Broadcasting/
Brochure
ハンス・ミヒェル
Hans Michel
1967

S_03_13

冊子「Expo '70 ドイツパビリオン」
Expo '70 German Pavilion/Brochure
ハンス・ミヒェル
Hans Michel
1970

■タイポグラフィ

Typography

P_4-01

コンサート「第4回ドイツ・ジャズ連盟アマチュア・
フェスティバル デュッセルドルフ '58」
Concert, 4th Amateur Festival of the German Jazz
Federation Düsseldorf '58
ヴォルフ・D. ツィマーマン
Wolf D. Zimmermann
1958

P_4-02

コンサート「第6回ドイツ・アマチュア・ジャズ・
フェスティバル デュッセルドルフ '60」
Concert, 6th German Amateur Jazz Festival
Düsseldorf '60
ヴォルフ・D. ツィマーマン
Wolf D. Zimmermann
1960

P_4-03

コンサート「第9回ドイツ・アマチュア・ジャズ・
フェスティバル '63」
Concert, 9th German Amateur Jazz Festival '63
ヴォルフ・D. ツィマーマン
Wolf D. Zimmermann
1963

P_4-04

コンサート「第10回ドイツ・アマチュア・ジャズ・
フェスティバル デュッセルドルフ '64」
Concert, 10th German Amateur Jazz Festival
Düsseldorf '64
ヴォルフ・D. ツィマーマン
Wolf D. Zimmermann
1964

P_4-05

展覧会「ヨハネス・グーテンベルク 1400-1468
印刷術が世界を変える」
Exhibition, Johannes Gutenberg 1400-1468: The Art
of Printing is Changing the World
ハンス・ペーター・ホーホ
Hans Peter Hoch
1968

P_4-06

展覧会「タキスとソト」
Exhibition, Takis and Soto
ヴォルフガング・シュミット
Wolfgang Schmidt
1961

P_4-07

展覧会「書体と画像」
Exhibition, Type and Image
ヴォルフガング・シュミット
Wolfgang Schmidt
1963

P_4-08

展覧会「バウハウス 思想/形/目的/時間」
Exhibition, bauhaus idea form purpose time
ヴォルフガング・シュミット
Wolfgang Schmidt
1964

P_4-09

映画「現金に体を張れ」
Film, The Killing
ヴォルフガング・シュミット
Wolfgang Schmidt
1966

P_4-10

展覧会「カラー写真エッセイ」
Exhibition, Color Photographic Essays
ヘルベルト・W. カピツキ
Herbert W. Kapitzki
1962

P_4-11

映画「切腹」
Film, Harakiri
ドロテア&フリッツ・フィッシャー=ノスピッシュ
Dorothea&Fritz Fischer-Nosbisch
1964

P_4-12

映画「ウィークエンド」
Film, Weekend
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1969

P_4-13

映画「会議は踊る」
Film, Congress Dances
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1964

P_4-14

展覧会「ブリジット・ライリー」
Exhibition, Bridget Riley
ヴァルター・ブレーカー
Walter Breker
1971

P_4-15

ボン(ボン市章)
Bonn
ドリス・カッセ=シュルユーター、
ハーラルト・シュルユーター
Doris Casse-Schlüter, Harald Schlüter
1971

P_4-16

展覧会「亡命P.E.N.」
Exhibition, P.E.N. in Exile
グンター・ランボー
(ランボー、リーネマイヤー、ファン・デ・ザント)
Gunter Rambow
(Rambow, Lienemeyer, van de Sand)
1983

P_4-17

Videon(映画レンタルクラブ)
Videon (Film Rental Club)
メンデル&オベラー
Mendell & Oberer
1985

P_4-18

アート・マーケット・ケルン 1969
Art Market Cologne 1969
ヘルムート・シュミット=レン
Helmut Schmidt-Rhen
1969

P_4-19

ラジオ番組「パノプティクム(西ドイツ放送)」
Panoptikum, WDR Radio
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1971

P_4-20

テレビ番組「リノツァラス(西ドイツ放送)」
Rhinozeros, WDR Television
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1973

S_09_01

冊子「ベルリンでの演説 19」
Berlin Speeches 19/Brochure
ラインハルト・ブラウン
Reinhart Braun
1969

S_09_02

冊子「ベルリンでの演説 20」
Berlin Speeches 20/Brochure
ラインハルト・ブラウン
Reinhart Braun
1969

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見

Back to Modern: Graphic Design from West Germany

S_09_03

冊子「旅行記 アメリカの建築におけるアルミニウム」
Travelogue Aluminum in the architecture of the
U.S.A/Brochure
ヴァルター・ブレーカー
Walter Breker
1960

S_09_04

冊子「 Kult・シュヴィッターズ」
Kurt Schwitters /Brochure
ヴァルター・ブレーカー
Walter Breker
1971

S_09_05

冊子「ロバート・マザーウェル」
Robert Motherwell/Brochure
ヴァルター・ブレーカー
Walter Breker
1978

S_09_06

冊子「エドゥアルド・パオロッツィ」
Eduardo Paolozzi /Brochure
ヴァルター・ブレーカー
Walter Breker
1969

S_09_07

冊子「民間防衛入門」
Civil Defense Primer/Brochure
作者不詳
Unknown
1964

S_09_08

冊子「文学フェア フランクフルト」
Literary Pentecost Fair Frankfurt am Main/
Brochure
グンター・キーザー
Günther Kieser
1963

S_09_09

冊子 ヴォルフガング・ダイクセル「ブライヴェ・ロス」
Wolfgang Deichsel, Bleiwe Losse/Brochure
作者不詳
Unknown
1971

S_09_10

冊子「カントン」
Canton/Brochure
クリストフ・ガスナー
Christof Gassner
1987

S_09_11

雑誌「ahA」1978年4月号
ahA, 4.1978/Magazine
ルードルフ・J. シュミット
Rudolf J. Schmitt
1978

S_09_12

冊子「第2回ドイツ・ジャズ連盟アマチュア・フェスティバル
デュッセルドルフ '56」
2nd Amateur Festival of the German Jazz
Federation Düsseldorf '56/Brochure
ヴォルフ・D. ツィマーマン
Wolf D. Zimmermann
1956

S_09_13

冊子「第5回ドイツ・アマチュア・ジャズ・フェスティバル
デュッセルドルフ '59」
5th German Amateur Jazz Festival Düsseldorf '59/
Brochure
ヴォルフ・D. ツィマーマン
Wolf D. Zimmermann
1959

S_09_14

レコードジャケット
『ドイツ・アマチュア・ジャズ・フェスティバル デュッセル
ドルフ '58』
German Amateur Jazz Festival Düsseldorf '58/
Record Cover
ヴォルフ・D. ツィマーマン
Wolf D. Zimmermann
1958

S_09_15

冊子「第6回ドイツ・アマチュア・ジャズ・フェスティバル
デュッセルドルフ '60」
6th German Amateur Jazz Festival Düsseldorf '60/
Brochure
ヴォルフ・D. ツィマーマン
Wolf D. Zimmermann
1960

S_09_16

冊子「第10回ドイツ・アマチュア・ジャズ・フェスティバル
デュッセルドルフ '64」
10th German Amateur Jazz Festival Düsseldorf '64/
Brochure
ヴォルフ・D. ツィマーマン
Wolf D. Zimmermann
1964

S_09_17

冊子「第2回国際アマチュア・ジャズ・フェスティバル
デュッセルドルフ '66」
2nd International Amateur Jazz Festival Düsseldorf
'66/Brochure
ヴォルフ・D. ツィマーマン
Wolf D. Zimmermann
1966

S_09_18

冊子「スールカンブ・インゼル ペーパーバック」
1979年1月号
Suhrkamp Insel Paperbacks, 1.1979/Brochure
ヴィリー・フレクハウス
Willy Fleckhaus
1979

S_09_19_01

書籍 ベルトルト・ブレヒト『第三帝国の恐怖と悲惨さ』
Bertolt Brecht, Fear and Misery of the Third Reich/
Book
ヴィリー・フレクハウス
Willy Fleckhaus
1970

S_09_19_02

書籍 ベーター・ハントケ『カスパー』
Peter Handke, Kaspar/Book
ヴィリー・フレクハウス
Willy Fleckhaus
1968

S_09_19_03

書籍 マヌエラ・デュ・ボワ＝レイモンド
『代償教育の戦略 アメリカの例』
Manuela du Bois-Reymond,
Strategies of Compensatory Education
the Example of the USA/Book
ヴィリー・フレクハウス
Willy Fleckhaus
1971-73

S_09_19_04

書籍 ギュンター・グラス『洪水』
Günter Grass, Flood/Book
ヴィリー・フレクハウス
Willy Fleckhaus
1965

S_09_19_05

書籍 ベルトルト・ブレヒト『ガリレオの生涯』
Bertolt Brecht, Life of Galileo/Book
ヴィリー・フレクハウス
Willy Fleckhaus
1979

S_09_19_06

書籍 マックス・フリッシュ『スティラー』
Max Frisch, Stiller/Book
ヴィリー・フレクハウス
Willy Fleckhaus
1974-81

S_09_19_07

書籍 ヒルトルト・グニュグ『文学的ユートピアの草稿』
Hiltrud Gnüg, Literary Utopia Designs/Book
ヴィリー・フレクハウス
Willy Fleckhaus
1982

S_10_01

コースター「シュヴァーベン・ブロイ シュトゥットガルト」
Schwaben Bräu Stuttgart/Coaster
ネリー・ルーディン
Nelly Rudin
1960

S_10_02

コースター「シュヴァーベン・ブロイ シュトゥットガルト」
Schwaben Bräu Stuttgart/Coaster
ネリー・ルーディン
Nelly Rudin
1960

S_10_03

冊子「メンデル・オベラー展」
Mendell-Oberer Exhibition/Brochure
ピエール・メンデル、クラウス・オベラー
(メンデル&オベラー)
Pierre Mendell,Klaus Oberer (Mendell & Oberer)
1971

S_10_04

書籍 レフ・トロツキー『文学と革命』
Leon Trotsky, Literature and Revolution/Book
ヴォルフガング・シュミット
Wolfgang Schmidt
1968

S_10_05

雑誌「クンスト(芸術)」2号
Art 2/Magazine
ヴォルフガング・シュミット
Wolfgang Schmidt
1964

S_10_06

雑誌「クンスト(芸術)」3号
Art 3/Magazine
ヴォルフガング・シュミット
Wolfgang Schmidt
1964

S_10_07

冊子「ピラン 1965-1966」
Piran 1965-1966/Brochure
作者不詳
Unknown
1965

S_10_08

冊子「第2ドイツテレビ(ZDF)の長編映画 72年夏」
The Feature Film on ZDF Summer Semester 72/
Brochure
クリストフ・ガスナー
Christof Gassner
1972

S_10_09

冊子「素晴らしい映画」
The Fantastic Film/Brochure
クリストフ・ガスナー
Christof Gassner
1972

S_10_10

映画冊子「現金に体を張れ」
The Killing/Film Brochure
ヴォルフガング・シュミット
Wolfgang Schmidt
1972

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見

Back to Modern: Graphic Design from West Germany

S_10_11

冊子「第2ドイツテレビ(ZDF)マチネ」
ZDF Matinee/Brochure
クリストフ・ガッスナー
Christof Gassner
1976

S_10_12

冊子「ドイツ工業デザイナー協会(VDID)」
Association of German Industrial Designers/
Brochure
ヴァルター・ミュラー
Walter Müller
1979

S_10_13

ボックスカバー「ニグラ」
Nigura/Box Cover
ヘルフリート・ハーゲンベルク
Helfried Hagenberg
1970s

S_10_14

冊子「視覚的構造」
Visual Tractat/Brochure
ヘルベルト・W. カピツキ
Herbert W. Kapitzki
1962

S_10_15

雑誌「キャピタル」2-1号
Capital 2-1/Magazine
カール・ゲルストナー
Karl Gerstner
1963

S_10_16

雑誌「キャピタル」1-2号
Capital 1-2/Magazine
カール・ゲルストナー
Karl Gerstner
1962

S_10_17

雑誌「Gebrauchsgraphik(商業美術)」1969年3月号
Commercial Graphics, 3.1969/Magazine
フィリップ・ルイdl
Philipp Luidl
1969

S_10_18

冊子「キッド・オリーとクレオール・ジャズ・バンド」
Kid Ory and His Creole Jazz Band/Brochure
ハンス・ミヒェル・グンター・キーザー
(ミヒェル+キーザー)
Hans Michel, Günther Kieser (Michel+Kieser)
1959

S_11_01

冊子「フィースマン ビジュアル・アイデンティティ」
VIESSMANN Visual Identity/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1970s

S_11_02

冊子「フィースマン ビジュアル・アイデンティティ」
VIESSMANN Visual Identity/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1970s

S_11_03

冊子「フィースマン Gasola」
VIESSMANN Gasola/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1970s

S_11_04

冊子「フィースマン Kinetotherm」
VIESSMANN Kinetotherm/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1970s

S_11_05

冊子「フィースマン 複合二次空気装置-KNL」
VIESSMANN Kombinierte Nebenluftvorrichtung-
KNL/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1970s

S_11_06

冊子「フィースマン Vitola」
VIESSMANN Vitola/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1970s

S_11_07

冊子「クニルプス(Knirps)」
Knirps/Brochure
作者不詳
Unknown
1961

S_11_08

冊子「私達の郵便 2」
Our Post 2/Brochure
パウル・フロイツハイム
Paul Froitzheim
1975

S_11_09

冊子「私達の郵便 3」
Our Post 3/Brochure
パウル・フロイツハイム
Paul Froitzheim
1975

S_11_10

冊子「私達の郵便 4」
Our Post 4/Brochure
パウル・フロイツハイム
Paul Froitzheim
1975

S_11_11

冊子「FDP(自由民主党)」
FDP (Free Democratic Party)/Brochure
アントーン・シュタンコフスキー
Anton Stankowski
1968

S_11_12_A

コースター「CDU(ドイツキリスト教民主同盟)」
CDU (Christian Democratic Union of Germany)/
Coaster
コート・フォン・マンシュタイン
Coordt von Mannstein
1976

S_11_12_B

ステッカー「CDU(ドイツキリスト教民主同盟)」
CDU (Christian Democratic Union of Germany)/
Sticker
コート・フォン・マンシュタイン
Coordt von Mannstein
1976

S_11_13

冊子「SPD(ドイツ社会民主党)」
SPD (Social Democratic Party of Germany)/
Brochure
ロルフ・ミュラー
Rolf Müller
1969

S_11_14

冊子「DGB(ドイツ労働総同盟)」
DGB (The German Trade Union Confederation)/
Brochure
作者不詳
Unknown
1978

S_11_15

冊子「SPD(ドイツ社会民主党)理論とコアバリュー」
SPD (Social Democratic Party of Germany) Theory
and basic values/Brochure
ヘルムート・シュミット
Helmut Schmid
1976-78

S_11_16

冊子「SPD(ドイツ社会民主党)理論とコアバリュー」
SPD (Social Democratic Party of Germany) Theory
and basic values/Brochure
ヘルムート・シュミット
Helmut Schmid
1976-78

S_11_17

冊子「SPD(ドイツ社会民主党)理論とコアバリュー」
SPD (Social Democratic Party of Germany) Theory
and basic values/Brochure
ヘルムート・シュミット
Helmut Schmid
1976-78

S_11_18

冊子「SPD(ドイツ社会民主党)理論とコアバリュー」
SPD (Social Democratic Party of Germany) Theory
and basic values/Brochure
ヘルムート・シュミット
Helmut Schmid
1976-78

S_11_19

冊子「欧州政策に関する文書 (SPD)」
Documents on European Policy (SPD)/Brochure
オトル・アイヒャー
Otl Aicher
1979

■イラストレーション

Illustration

P_2-01

展覧会「建築と生活」
Exhibition, Architecture and Life
クルト・克蘭ツ
Kurt Kranz
1952

P_2-02

国際壁紙見本市 ダルムシュタット
International Wallpaper Exhibition Darmstadt
トニー・ゼップ
Toni Zepf
1953

P_2-03

展覧会「ドイツ交通展 ミュンヘン 1953」
Exhibition, German Traffic Fair Munich 1953
ディーター・フォン・アンドリアーン
Dieter von Andrian
1953

P_2-04

第39回 国際モーターショー
39th International Motor Show
リヒャルト・ロート
Richard Roth
1959

P_2-05

T2
T2
ミヒャエル・エンゲルマン
Michael Engelmann
1963

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見 Back to Modern: Graphic Design from West Germany

P_2-06

展覧会「自動車のデザインプロセス」
Exhibition, Design Process Auto
メンデル&オペラー
Mendell & Oberer
1986

P_2-07

映画「チャップリン短編喜劇集」
Film, Chaplin Short Comedies
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1957

P_2-08

映画「西部戦線一九一八年」
Film, Western Front 1918
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1957

P_2-09

映画「道化師の夜」
Film, Sawdust and Tinsel
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1958

P_2-10

映画「羅生門」
Film, Rashomon
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1959

P_2-11

映画「アルキバルド・デ・ラクルスの犯罪的人生」
Film, The Criminal Life of Archibaldo de la Cruz
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1961

P_2-12

映画「アジアの嵐」
Film, Storm over Asia
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1961

P_2-13

映画「七人の侍」
Film, Seven Samurai
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1962

P_2-14

映画「長距離ランナーの孤独」
Film, The Loneliness of the Long Distance Runner
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1966

P_2-15

映画「三文オペラ」
Film, The Threepenny Opera
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1973

P_2-16

映画「七つの頭を持つライオン」
Film, The Lion Has Seven Heads
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1972

P_2-17

映画「ピエールとポール」
Film, Pierre and Paul
ハンス・ヒルマン
Hans Hillmann
1973

P_2-18

映画「黄金の5時間」
Film, Five Golden Hours
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1963

P_2-19

映画「黄金の5時間」
Film, Five Golden Hours
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1963

P_2-20

映画「カインド・ハート」
Film, Kind Hearts and Coronets
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1964

P_2-21

映画「カインド・ハート」
Film, Kind Hearts and Coronets
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1964

P_2-22

演劇「配管工シッペル」
Stage, Schippel, the Plumber
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1964

P_2-23

演劇「ネクラソフ」
Stage, Nekrasov
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1964

P_2-24

演劇「支配人」
Stage, The Manager
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1964

P_2-25

演劇「支配人」
Stage, The Manager
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1964

P_2-26

映画「マダムと泥棒」
Film, The Ladykillers
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1966

P_2-27

映画「偉大なるアンバーソン家の人々」
Film, The Magnificent Ambersons
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1966

P_2-28

映画「イエロー・サブマリン(ザ・ビートルズ)」
Film, Yellow Submarine (The Beatles)
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelmann
1968

P_2-29

舞踊「アメリカのパレエ+ダンス」
Dance, Ballet + Dance in America
カール・オスカル・ブラーゼ
Karl Oskar Blase
1959

P_2-30

映画「ドクトル・マブゼ」
Film, Dr. Mabuse the Gambler
カール・オスカル・ブラーゼ
Karl Oskar Blase
1963

P_2-31

映画「野火」
Film, Nobi (Fires on the Plain)
ドロテア&フリッツ・フィシャー=ノスビッシュ
Dorothea & Fritz Fischer-Nosbisch
1962

P_2-32

映画「嘆きの天使」
Film, The Blue Angel
ドロテア&フリッツ・フィシャー=ノスビッシュ
Dorothea & Fritz Fischer-Nosbisch
1964

P_2-33

映画「沈黙」
Film, The Silence
ドロテア&フリッツ・フィシャー=ノスビッシュ
Dorothea & Fritz Fischer-Nosbisch
1964

P_2-34

映画「定職」
Film, The Job
ドロテア&フリッツ・フィシャー=ノスビッシュ
Dorothea & Fritz Fischer-Nosbisch
1964

P_2-35

映画「七年目の浮気」
Film, The Seven Year Itch
ドロテア&フリッツ・フィシャー=ノスビッシュ
Dorothea & Fritz Fischer-Nosbisch
1966

P_2-36

映画「青少年向けドイツ映画」
Film, The Young German Film
ドロテア・フィシャー=ノスビッシュ
Dorothea Fischer-Nosbisch
1967

P_2-37

展覧会「ドイツのグラフィックデザイン」
Exhibition, Graphic Design Germany
ヴァルター・ブレーカー
Walter Breker
1967

P_2-38

展覧会「ヴァルター・ブレーカー」
Exhibition, Walter Breker
ヴァルター・ブレーカー
Walter Breker
1967

P_2-39

展覧会「クルト・シュヴィッターズ」
Exhibition, Kurt Schwitters
ヴァルター・ブレーカー
Walter Breker
1971

P_2-40

第16回西ドイツ短編映画祭
XVI West German Short Film Festival
イェルゲン・シュポーン
Jürgen Spohn
1970

P_2-41

演劇「ゲームとその例」
Stage, Games & Examples
イェルゲン・シュポーン
Jürgen Spohn
1970

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見 Back to Modern: Graphic Design from West Germany

P_2-42

ベルリンのためのB

B for Berlin

イェルゲン・シュポーン

Jürgen Spohn

1972

P_2-43

dtv

dtv

セレスティーノ・ピアッティ

Celestino Piatti

1965

P_2-44

展覧会「シュトゥットガルト書籍展 1966」

Exhibition, Stuttgart Book Exhibition 1966

セレスティーノ・ピアッティ

Celestino Piatti

1966

P_2-45

dtv

dtv

セレスティーノ・ピアッティ

Celestino Piatti

1970s

P_2-46

dtv 大きな効果をもたらす小さな贈り物

dtv The Small Gift with the Big Effect

セレスティーノ・ピアッティ

Celestino Piatti

1970s

P_2-47

dtv 水上 陸上 空中

dtv by Water by Land by Air

セレスティーノ・ピアッティ

Celestino Piatti

1970s

P_2-48

dtv 20周年

20 Years dtv

セレスティーノ・ピアッティ

Celestino Piatti

1981

S_04_01

映画冊子「三文オペラ」

The Threepenny Opera/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1955

S_04_02

映画冊子「ノイエ・フィルムクンスト・ヴァルター・キルヒ**ナー プログラム 1956」**

Neue Filmkunst Walter Kirchner Program 1956/

Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1956

S_04_03

映画冊子「デスパレート・ディシジョン」

Desperate Decision/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1956

S_04_04

映画冊子「シカゴ・コーリング」

Chicago Calling/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1957

S_04_05

映画冊子「カインド・ハート」

Kind Hearts and Coronets/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1957

S_04_06

映画冊子「ハンニバル教授」

Professor Hannibal/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1960

S_04_07

映画冊子「ブンティラの旦那と下男のマッティ」

Herr Puntila and His Servant Matti/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1960

S_04_08

映画冊子「キートンの大列車追跡」

The General/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1962

S_04_09

映画冊子「恐るべき親達」

The Terrible Parents/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1965

S_04_10

映画冊子「若い娘」

The Young One/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1966

S_04_11

映画冊子「男性・女性」

Masculin-Feminin/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1967

S_04_12

映画冊子「生きるべきか死ぬべきか」

To Be or Not to Be/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

c.1965

S_04_13

書籍 ハンス・ヒルマン『ABC の物語』

Hans Hillmann, ABC stories/Book

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1975

S_04_14

冊子「ハンス・ヒルマン展」

Exhibition Hans Hillmann/Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1977

S_04_15

雑誌『シンプリシムス』1980 年4 月号

Simplicissimus, 4.1980/Magazine

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1980

S_04_16

雑誌『大西洋横断』1980年10月号

Trans Atlantic, 10.1980/Magazine

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1980

S_05_01

冊子「毒薬と老嬢」

Arsenic and Old Lace/Brochure

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1960s

S_05_02

冊子「トーレンのどこがセクシーなのか」

What's so Sexy about Tolen?/Brochure

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1960s

S_05_03

レコードジャケット『イヴ・モンタン シャンソン』

Yves Montand, Chansons/Record Cover

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1963

S_05_04

冊子「デュッセルドルフ美術学校の作業報告書 1963」

Work Report of the Werkkunstschule Düsseldorf

1963/Brochure

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1963

S_05_05

雑誌『Gebrauchsgraphik(商業美術)』1965年7月号

Commercial Art, 7.1965/Magazine

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1965

S_05_06

冊子「初めてのデュッセルドルフ」

Düsseldorf for Beginners/Brochure

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1966

S_05_07

映画冊子「マダムと泥棒」

Ladykillers/Film Brochure

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1966

S_05_08

書籍 ハインリヒ・ベル『黒い羊』

Heinrich Böll, The black Sheep/Book

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1972

S_05_09

書籍 コルネリウス・フォン・ヴァカーノ『月の祭典小説』

Kornelius von Vacano, The Moon Festival Novel/

Book

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1968

S_05_10

書籍 アーミン・アイヒホルツ『串刺しの本』

Armin Eichholz, Book on a Spit/Book

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1964

S_05_11

演劇冊子「グリップスホルム城」

Gripsholm Castle /Drama Brochure

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1960s

S_05_12

原画「無題(雑誌『twen』のためのドローイング)」

Untitled (Drawing for twen)/Original artwork

ハインツ・エーデルマン

Heinz Edelmann

1960s

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見

Back to Modern: Graphic Design from West Germany

S_05_13

無題(シルクスクリーン印刷)
Untitled (Silkscreen Print)
ハインツ・エーデルマン
Heinz Edelman
1960s

S_06_01

書籍 ハイブリッヒ・ベル『アイルランド日記』
Heinrich Böll, Irish Diary/Book
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1961

S_06_02

書籍 イェジー・カヴァレロヴィチ『尼僧ヨアンナ』
Jerzy Kawalerowicz, Mother Joan of the Angels/
Book
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1963

S_06_03

書籍 ルドルフ・キューン『天文学の大衆性』
Rudolf Kühn, Astronomy Popular/Book
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1964

S_06_04

書籍 アレクサンダー・シュポアール
『凡庸な弟子の回想録』
Alexander Spoerl, Memoirs of a Mediocre Student/
Book
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960s

S_06_05

書籍 ハイブリッヒ・ベル
『この国では時間に関するエッセイが多い』
Heinrich Böll, Essays in This Country
at the Moment/Book
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960s

S_06_06

書籍 ウラジミール・W. マヤコフスキー『リリアへの恋文』
Wladimir W. Majakowskij, Love Letters to Lilja/
Book
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960s

S_06_07

封筒「dtv」
dtv/Envelope
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1970s

S_06_08

封筒「dtv」
dtv/Envelope
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
c.1974

S_06_09

チラシ「特別シリーズ dtv 独占プログラム」
Special Series dtv the Exclusive Program/Flyer
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1962

S_06_10

はがき「dtv (ライオン)」
dtv (Lion)/Postcard
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960s

S_06_11

はがき「dtv (きつね)」
dtv (Fox)/Postcard
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960s

S_06_12

カード「dtv」
dtv/Card
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1970s

S_06_13

カード「dtv」
dtv/Card
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1970s

S_06_14

原案「タイトルなし(広告ポスターのデザイン)」
Untitled (Designs for Advertising Posters)/Draft
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960s

S_06_15

冊子「dtv 名前 記号 用語」
dtv a Name a Sign a Term/Brochure
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960s

S_06_16

冊子「dtv プログラム」
dtv Program/Brochure
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1976

S_06_17

チラシ「画期的な試み 特別シリーズdtv」
A Groundbreaking Experiment, Special Series dtv/
Flyer
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960-70s

S_06_18

冊子「目の肥えた読者のためのdtvペーパーバック」
dtv the Paperback for the Discerning/Brochure
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960-70s

S_06_19

チラシ「dtv」
dtv/Flyer
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960-70s

S_06_20

チラシ「dtv」
dtv/Flyer
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960-70s

S_06_21

チラシ「dtv」
dtv/Flyer
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1960-70

S_06_22

冊子「1967年9月までの dtv総覧」
dtv Complete Directory up to September 1967/
Brochure
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1967

S_06_23

冊子「1967年3月までの dtv総覧」
dtv Complete Directory up to March 1967/Brochure
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1967

S_06_24

冊子「1966年3月までの dtv総覧」
dtv Complete Directory up to March 1966/Brochure
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1966

S_06_25

原案「dtv 20 周年 1961-1981 年」
20 Years of dtv 1961-1981/Draft
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1981

S_06_26

書籍「dtv 20 周年 1961-1981 年」
20 Years of dtv 1961-1981/Book
セレスティーン・ピアッティ
Celestino Piatti
1981

S_07_01a

リーフレット「ベルリン 田園地帯にある国際都市」
Berlin Cosmopolitan City in the Countryside/Leaflet
ルート&ハンス・アルビッツ
Ruth & Hans Albitz
1950

S_07_01b

リーフレット「ベルリン 田園地帯にある国際都市」(リブリ
ント)
Berlin Cosmopolitan City in the Countryside
(Reprint)/Leaflet
ルート&ハンス・アルビッツ
Ruth & Hans Albitz
制作年不詳 Unknown

S_07_02

原画「ジュノをお願いします」
Juno Please/Original Image
ヴァルター・ミュラー
Walter Müller
1950s

S_07_03

原画「ジュノをお願いします」
Juno Please/Original Image
ヴァルター・ミュラー
Walter Müller
1950s

S_07_04

雑誌「Gebrauchsgraphik(商業美術)」1953年11月号
Commercial Graphics, 11.1953/Magazine
ハインツ・シュヴァーベ
Heinz Schwabe
1953

S_07_05

映画冊子「顔のない女」
The Woman without a Face/Film Brochure
ドロテア&フリッツ・フィシャー=ノスピッシュ
Dorothea & Fritz Fischer-Nosbisch
1958

S_07_06

冊子「フランクフルトのすべて」
Almost Everything about Frankfurt am Main/
Brochure
ハンス・ミヒェル、グンター・キーザー
(ミヒェル+キーザー)
Hans Michel, Günther Kieser (Michel+Kieser)
1959

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見

Back to Modern: Graphic Design from West Germany

S_07_07

冊子「デュッセルドルフのカーニヴァル」

Carnival in Düsseldorf/Brochure

ハンス・ルードルフ・ラベ

Hans Rudolf Labbe

1959

S_07_08

雑誌「Gebrauchsgraphik(商業美術)」1960年1月号

Commercial Graphics, 1.1960/Magazine

ハンス・ミヒェル、グンター・キーザー

(ミヒェル+キーザー)

Hans Michel, Günther Kieser (Michel+Kieser)

1960

S_07_09

冊子「1963年夏 トゥローパの空の旅」

Touropa Air Travel Summer 1963/Brochure

アルトゥア・ツェルガー

Arthur Zelger

1963

S_07_10

冊子「カール・オルフ・トリオンフィ」

Carl Orff Trionfi/Brochure

ハンス・フォエルチュ&ズィーグリート・フォン・バウムガル

テン

Hans Förtsch & Sigrid von Baumgarten

1964

S_07_11

書籍「スワヴォーミル・ムロージェク「象」

Slawomir Mrozek, The Elephant/Book

ハンス・フォエルチュ&ズィーグリート・フォン・バウムガル

テン

Hans Förtsch & Sigrid von Baumgarten

1972

S_07_12

冊子「ボーフム市 ボーフムの教育指針」

City of Bochum Educational Paths in Bochum/

Brochure

ディーター・H. ヒルビヒ,Dieter H. Hilbig

1973

S_07_13

冊子「青少年向けドイツ映画」

The Young German Film/Brochure

ドロテア・フィシャー=ノスビッシュ

Dorothea Fischer-Nosbisch

1967

S_07_14

冊子「飛行」

Flying/Brochure

オトル・アイヒャー

Otl Aicher

1990

S_07_15

封筒「常時警備」

Security at All Times/Envelope

ハンス・フォエルチュ&

ズィーグリート・フォン・バウムガルテン

Hans Förtsch & Sigrid von Baumgarten

1972

S_07_16

切手シート「常時警備」

Security at All Times/Postage-Stamp Sheet

ハンス・フォエルチュ&

ズィーグリート・フォン・バウムガルテン

Hans Förtsch & Sigrid von Baumgarten

1972

S_07_17

切手シート「科学顕微鏡の100年」

100 years of Scientific Microscope Construction/

Postage-Stamp Sheet

カール・オスカル・ブラーゼ

Karl Oskar Blase

1968

S_07_18

切手シート「ドイツ ラジオ展 シュトゥットガルト 1965」

German Radio Exhibition Stuttgart 1965/

Postage-Stamp Sheet

ハインツ&ヘラ・シリングー

Heinz & Hella Schillinger

1965

S_07_19

切手シート

「連邦園芸博覧会25周年 1977年シュトゥットガルト」

25 Years Federal Garden Show 1977 in Stuttgart/

Postage-Stamp Sheet

オットー・リーガー

Otto Rieger

1977

■写真

Photography

P_3-01

ドイツ赤十字

German Red Cross

ハンス・ローラー

Hanns Lohrer

1954

P_3-02

展覧会「工業デザイン教育アメリカ」

Exhibition, Industrial Design Education USA

カール・オスカル・ブラーゼ

Karl Oskar Blase

1958

P_3-03

コンサート「ひと味違うもの」

Concert, Thing with a difference

イェルゲン・シュポーン

Jürgen Spohn

1964

P_3-04

演劇「インタードラマ 65 - 国際青少年アマチュア演劇祭」

Stage, Interdrama 65 -

International Amateur Theater of Youth

イェルゲン・シュポーン

Jürgen Spohn

1965

P_3-05

ベルリン工科大学新食堂でのイベント

Event in New Canteen TU Berlin

イェルゲン・シュポーン

Jürgen Spohn

1967

P_3-06

スピリチュアル ゴスペル フェスティバル 1966

Spiritual Gospel Festival 1966

ミヒェル+キーザー

Michel+Kieser

1966

P_3-07

ギャラリー ルネ ブロック

Gallery René Block

グンター・ランボー(ランボー+リーネマイヤー)

Gunter Rambow (Rambow+Lienemeyer)

1967

P_3-08

展覧会

「バーデン=ヴェルテンベルク州貿易局所蔵のポスター」

Exhibition, Posters from the Collections

of the Baden-Württemberg State Trade Office

ロータル・レツラフ

Lothar Retzlaff

1967

P_3-09

演劇「人形たちの夜」

Stage, The Night of the Dolls

フリーダー&レナーテ・グリンダー

Frieder & Renate Grindler

1967

P_3-10

映画「アモーレ」

Film, Love

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1962

P_3-11

映画「炎の接吻」

Film, The Lovers of Verona

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

c.1962

P_3-12

映画「ミュリエル」

Film, Muriel

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1963

P_3-13

映画「エロイカ」

Film, Eroica

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1964

P_3-14

映画「オセロー ヴェニスのもう一人」

Film, Othello The Moor of Venice

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1964

P_3-15

映画「盗賊交響楽」

Film, The Robber Symphony

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1964

P_3-16

映画「悪魔の美しさ」

Film, The Beauty of the Devil

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1964

P_3-17

映画「スリ」

Film, Pick Pocket

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1965

P_3-18

映画「罠にかかった手」

Film, The Hand in the Trap

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1966

P_3-19

映画「ミスター・フリーダム」

Film, Mr.Freedom

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1969

P_3-20

映画「怪人マブゼ博士」

Film, The Testament of Dr. Mabuse

ミヒェル・エンゲルマン

Michael Engelmann

1962

戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見 Back to Modern: Graphic Design from West Germany

P_3-21

映画「Love 65」

Film, Love 65

ドロテーア&フリッツ・フィシャー＝ノスビッシュ

Dorothea & Fritz Fischer-Nosbisch

1965

P_3-22

映画「フリーデマン・パッハ」

Film, Friedemann Bach

ヴォルフガング・シュミット

Wolfgang Schmidt

c.1963

P_3-23

映画「悪ふざけ」

Film, Capers

ヴォルフガング・シュミット

Wolfgang Schmidt

1963

P_3-24

映画「M」

Film, M

ヴォルフガング・シュミット

Wolfgang Schmidt

1967

P_3-25

映画「浮草」

Film, Floating Weeds

イゾルデ・モンソン＝バウムガルト

Isolde Monson-Baumgart

1962

P_3-26

映画「天井桟敷の人々」

Film, Children of Paradise

イゾルデ・モンソン＝バウムガルト

Isolde Monson-Baumgart

1964

P_3-27

映画「5時から7時までのクレオ」

Film, Cléo from 5 to 7

イゾルデ・モンソン＝バウムガルト

Isolde Monson-Baumgart

1967

P_3-28

展覧会「見ること、聞くこと デザインとコミュニケーション」

Exhibition, Seeing and Hearing

Design+Communication

クラウス・ヴィンターハーガー

Klaus Winterhager

1974

S_08_01

雑誌「**twen**」1960年2月号

twen, 2.1960/Magazine

ヴィリー・フレクハウス

Willy Fleckhaus

1960

S_08_02

雑誌「**twen**」1959年10月号

twen, 10.1959/Magazine

ヴィリー・フレクハウス

Willy Fleckhaus

1959

S_08_03

レコードジャケット エスター・オフアリム

『ソングス・オブ・ザ・ワールド』

Esther Ofarim, Songs of the World/Record Cover

ヴォルフガング・シュミット、ヴィリー・フレクハウス (AD)

Wolfgang Schmidt, Willy Fleckhaus (AD)

1960s

S_08_04

レコードジャケット

『チャイコフスキー エリントン くるみ割り人形組曲』

Tchaikovsky Ellington Nutcracker Suite/

Record Cover

ヴィリー・フレクハウス

Willy Fleckhaus

1961

S_08_05

冊子「**ココシュカ ベルリンを描く**」

Kokoschka Paints Berlin/Brochure

ヴィリー・フレクハウス (AD)

Willy Fleckhaus (AD)

1966

S_08_06

雑誌『**フランクフルター・アルゲマイネ**』1980年6月号

Frankfurter Allgemeine, 6.1980/Magazine

ヴィリー・フレクハウス (AD)

Willy Fleckhaus (AD)

1980

S_08_07

雑誌『**Gebrauchsgraphik** (商業美術)』1964年3月号

Commercial Graphics, 3.1964/Magazine

ピエール・メンデル、クラウス・オベラー

(メンデル&オベラー)

Pierre Mendell, Klaus Oberer (Mendell & Oberer)

1964

S_08_08

雑誌『**Gebrauchsgraphik** (商業美術)』1965年5月号

Commercial Graphics, 5.1965/Magazine

ミヒャエル・エンゲルマン

Michael Engelmann

1965

S_08_09

映画冊子「彼女について私が知っている二、三の事柄」

Two or Three Things I Know about Her/

Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1968

S_08_10

映画冊子「**中国女**」

The Chinese/Film Brochure

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1968

S_08_11

雑誌『**フィルム**』第1号 (1963 年 4月_5月)

Film, No.1 (4-5.1963)/Magazine

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1963

S_08_12

雑誌『**フィルム**』第6号 (1964 年 2月_3月)

Film, No.6 (2-3.1964)/Magazine

ハンス・ヒルマン

Hans Hillmann

1964

ラーニングプログラム

1 普及事業

美術館講座 2024

2024年度は、「旧朝香宮邸をさく、みる、さわる」という通年テーマを設定し、当館の建築や歴史に関連する内容ははじめ、保存修復活動や視覚に障害のある方との触れる鑑賞体験など、学芸員や職員の研究・取り組みを反映したテーマを中心に全4回のプログラムを構成した。当館を初めて訪れる方からリピーターの方まで、さまざまな関心を持つ方が楽しめる内容とするとともに、すべての回に情報保障(手話通訳、文字表示、ヒアリンググループ)を提供することで、より多くの方に参加の機会を広げることができた。

第1回「朝香宮邸を知る 一とくに歴史を中心に」

初回は、当館の歴史的背景や建物の特徴について知りたい方を主なターゲットに、当館学芸員が旧朝香宮邸の歴史を紹介した。「建物公開2024 あかり、ともるとき」の開催時期に合わせて実施することで、展示の鑑賞とあわせて参加できるようにした。基礎的な情報を知りたい方だけでなく、より深く当館の歴史について理解を深めたい方のニーズにも応えることができた。

日時	2024年9月14日(土)14:00～15:30
会場	新館ギャラリー2
講師	板谷敏弘(東京都庭園美術館学芸員)
参加者数	90人
参加費	無料(入館料別途)
申込方法	館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制
情報保障	手話通訳、文字表示、ヒアリンググループ



第2回「日本の名作住宅からの学び」

第2回目は、当館正門横スペースで開催された特別展示「ランドスケープをつくる 模型でみる日本の名作住宅」に関連した企画として実施した。前半は、住宅建築の歴史や日本大学理工学部建築学科の授業実践についての概説が行われた。後半は、講師全員による座談会形式で、名作住宅に向き合うことによって生まれる「学び」についてディスカッションが展開され、普段知る機会のない建築学科における学びの過程や、建築のプロセスがどのように育まれるのかを理解する貴重な機会となった。

日時	2024年11月8日(金)18:00～19:30
会場	新館ギャラリー2
登壇者	佐藤光彦(建築家 日本大学理工学部建築学科教授) 古澤大輔(建築家 日本大学理工学部建築学科准教授) 妹島和世(建築家 東京都庭園美術館館長)
進行	種田元晴(建築史家 文化学園大学造形学部准教授)
参加者数	90人
参加費	無料(入館料別途)
申込方法	館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制
情報保障	手話通訳、文字表示、ヒアリンググループ



第3回「建物を使いながら守ることー保存・修復の仕事から」

第3回目は、建物の保存・修復を担当する学芸員が登場し、旧朝香宮邸である本館の修復の歴史や研究成果を共有した。美術館として活用しつつ、良い状態を保つための工夫や、修復活動に伴う難しさについても触れられ、当館の保存活用の使命やその具体的な内容を参加者と共有する貴重な機会となった。

日時 2024年12月14日(土)14:00～15:30
会場 新館ギャラリー2
講師 高橋さおり(東京都庭園美術館学芸員)
参加者数 81人
参加費 無料(入館料別途)
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制
情報保障 手話通訳、文字表示、ヒアリンググループ



第4回「さわって楽しむ東京都庭園美術館」

最終回は触察をテーマに講演を行った。視覚に障害がある方も体験・参加できる取り組みとして、主に2024年度より開始した「さわ会ーさわって楽しむおしゃべり鑑賞会」や「さわる絵本」の制作プロセスや背景を企画・制作者とともに紹介した。終了後には実際にツールに触れることができる時間を設け、多くの参加者に体験していただくことができた。

日時 2025年3月20日(木・祝)14:00～15:30
会場 新館ギャラリー2
講師 半田こづえ(明治学院大学非常勤講師)
駒形あい(ONE STROKE代表・デザイナー)
増田万里奈
(東京都庭園美術館社会共生・教育普及担当)
参加者数 40人
参加費 無料(入館料別途)
申込方法 館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制
情報保障 手話通訳、文字表示、ヒアリンググループ



2 学校連携事業（スクールプログラム）

児童・生徒の芸術文化に親しむ機会を充実させることを目指して行うスクールプログラムでは、学校教育の多様な目的に応えるため、児童・生徒のためのプログラムと、教員を対象にしたプログラムを設けている。2024年度は「先生のための特別研修会」の実施や教員向け鑑賞シートを作成するなど、新たな試みを開始し、今後の連携を充実させるための機会を作ることができた。

児童・生徒のためのプログラム

通常の開館日（平日のみ実施）に学校団体での来館を受け入れた。要望により学校に出向いてレクチャーを行うなど、教員と相談しながら授業の目的に合わせた内容を計画している。2024年度は新たに盲学校と連携し、鑑賞時に視覚支援機器や触れるツールを使用するなど、生徒に合わせたプログラムを実施した。

2024年5月1日（水）	明治学院高等学校	20人（+教員1人）
2024年6月26日（水）	女子美術大学	15人（+教員2人）
2024年7月18日（木）	東京都立文京盲学校（出張授業）	5人（+教員3人）
2024年7月25日（木）	東京都立文京盲学校	6人（+教員4人）
2024年8月6日（火）	日本大学通信教育部	33人（+教員1人）
2024年8月7日（水）	普連土学園中学校・高等学校	12人（+教員1人）
2024年8月22日（木）	日本女子大学	17人（+教員1人）
2024年9月25日（水）	代々木高校	3人（+教員2人）
2024年9月27日（金）	学習院高等科	6人（+教員2人）
2024年10月30日（水）	学習院大学	11人（+教員1人）
2024年12月9日（月）	港区立筈小学校（出張授業）	80人（+教員5人）
2024年12月17日（火）	港区立筈小学校	21人（+教員5人）
2024年12月18日（水）	港区立筈小学校	24人（+教員5人）
2024年12月20日（金）	港区立筈小学校	26人（+教員5人）
2025年1月21日（火）	港区立東町小学校	23人（+教員4人）
2025年1月24日（金）	港区立東町小学校	23人（+教員4人）
2025年1月28日（火）	港区立東町小学校	22人（+教員4人）



スクールデー

展示室を休館日に特別に開放し、貸し切りの環境で建物や、開催中の展覧会を鑑賞する特別プログラム。2024年度は申し込みが無く、実施無しとなった。

先生のためのプログラム

ティーチャーズウィーク

都内の小中高等特別支援学校の先生を対象に展覧会ごとに無料で観覧できる機会を設けた。美術館での鑑賞授業に向けた研修の一環として活用できるようにした。

期間 ①2024年6月4日(火)～13日(木)
②2024年9月18日(水)～27日(金)
③2024年12月3日(火)～12日(木)
④2025年3月11日(火)～20日(木)

参加者数 89人

研修・勉強会の受け入れ

教員による研修会・勉強会の開催を受け入れた。学校での授業に活かしてもらうことを目的に、当館やスクールプログラムの紹介などを行った。

2024年7月26日(金) 練馬区図画工作研究部 23人

2024年9月20日(金) 杉並区公立小学校図工部 10人

2024年12月26日(木) 港区立筭小学校 8人

先生のための特別研修会

教員を対象に実施した研修プログラム。学校との連携をさらに深めることを目的に、企画者に図工講師を迎え、教員目線でのプログラム作りを試みた。当日は当館の特性や展覧会を楽しむポイントを共有した後に「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」展を鑑賞。その後振り返りの時間をとり、授業づくりに役立つ情報を紹介する場も設けた。参加した教員からは、授業づくりや美術館との連携に関する質問や意見が寄せられ、今後の連携を深める機会となった。

日時 2024年12月6日(金) 18:00～20:00
会場 新館ギャラリー2、展示室
対象 都内の小・中・高等・特別支援学校の先生方
定員 20名
参加者数 21人
参加費 無料
企画 江原貴美子(港区立筭小学校 図工講師)
申込方法 メールにて事前申込



東京都庭園美術館ジュニアガイド

主にスクールプログラムで活用することを目的に、当館の建物や環境を題材にジュニアガイドを制作した。内容は全てイラストで構成し、学年や言語を問わず使用することができる。本館の特徴や庭園など当館のユニークな環境を楽しむための視点を感覚的に伝えることを目指した。

ディレクション・イラスト

齋藤名穂(UNI DESIGN)

デザイン 守屋史世(ea)

企画・発行 東京都庭園美術館

発行日 2025年3月31日発行



教員のための展覧会シート作成

「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」展の開催に合わせ、教員を対象に展覧会鑑賞のヒントをまとめたシートを制作。ティーチャーズウィークや研修会に参加した教員に配布した。

企画・監修 江原貴美子

(港区立筭小学校図工講師)

デザイン・イラストレーション

岩田仁美



3 旧朝香宮邸資料公開室(ウェルカムルーム)の運営

来館者一人ひとりが能動的に美術館体験を楽しむためのラーニング・プログラムの拠点。カンバセーション・テーブル「さわる小さな庭園美術館」、建築紹介の音声ガイドとしても使えるアプリのためのタブレット端末、本棚、ワークシートなどが設置されており、展覧会鑑賞前後にのんびり過ごす空間として親しまれている。展覧会開催時には子供から大人まで幅広い世代を対象に関連書籍も用意した。また、2023年度に引き続き、弱視者(ロービジョン者)など、見えづらさを感じている方の視覚を支援する機器「RETISSA ON HAND(レティッサ オン ハンド)」の貸し出しをウェルカムルーム内で行い、資料閲覧時の活用の他、2024年11月30日からは展示室での利用にも対応した。

開室日数 241日

利用者数 26,383人



4 アクセスプログラム

フラットデー

—障害のある方も赤ちゃんがいる方も、だれもが気兼ねなく来館できるプログラム

あらゆる方が気兼ねなく来館できる美術館となることを目指し、2023年度に開始したプログラム。障害のある方が来館しやすい「ゆったり鑑賞日」と、赤ちゃんを連れの方も鑑賞しやすい「ベビーアワー」の2種類の日を設けている。ゆとりのある環境で鑑賞できるよう、いずれの日も事前予約制で来場数を制限した。またベビーアワーでは開催時間中に限り、通常はベビーカーのまま入館できない本館内でもベビーカーを特別に利用できるようにした。

当日はNPO団体との連携により、アート・コミュニケーターによる鑑賞ツアーも2023年度より継続して実施。会話をしながら鑑賞を楽しみたい方へのニーズにも応えることができた。また、来場者へのアンケートを実施したことで毎回の運営に反映することができた。

ゆったり鑑賞日

- 実施日： ①2024年7月10日(水)
「生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界」
②2024年10月9日(水)
「建物公開2024 あかり、とるとき」
③2025年1月22日(水)
「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」
- 時間 10:00～18:00
- 対象 すべての方
- 申込方法 オンラインにてチケットを事前予約・購入(※)
- 参加者数 ①383人 ②384人 ③469人



ゆったりツアー

ゆったり鑑賞日に実施するアート・コミュニケーターと一緒に展覧会をめぐるツアー。参加者一組ごとにアート・コミュニケーターが付き添い、参加者それぞれのペースや状況に合わせて移動や鑑賞をサポートする。2023年度は各回定員4組としていたものを5組とし、より多くの方が参加できるようにした。NPO団体との連携のもと3日(計9回)開催し、48組80名が参加した。参加者のニーズに応じて、情報保障(手話通訳)の手配や、車椅子に乗る方の目線から見づらい作品がある場合にはタブレット端末で写真を撮影して提示するなどの対応を個別に行った。

- 実施日 ①2024年7月10日(水) ②2024年10月9日(水)
③2025年1月22日(水)*ゆったり鑑賞日の開催日
- 時間 11:00～、13:00～、15:00～の3回 各回最長90分
- 会場 展示室
- 対象 すべての方
- 定員 各回5組・計15組(定員を超過した場合は抽選。
空きがある場合は当日受付)
- 参加者数 ①15組19人 ②16組29人 ③17組32人
- 参加費 無料(入館料別途)
- 申込方法 館ウェブサイトより事前申込
- 運営委託 特定非営利活動法人アート・コミュニケーション
推進機構
- 運営協力 アート・コミュニケーター東京



ベビーアワー

実施日	①2024年7月24日(水) 「生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界」 ②2024年10月23日(水) 「建物公開2024 あかり、ともるとき」 ③2025年1月29日(水) 「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」
時間	10:00～15:00 (本館内でベビーカーを利用できる時間)
対象	すべての方
申込方法	オンラインにてチケットを事前予約・購入(※)
参加者数	①389人 ②436人 ③497人

※各種割引が適用される方、無料対象者〔小学生以下、都内在住・在学の中学生及び障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)、招待券・年間パスポート・ぐるっとパスをお持ちの方など〕は事前予約不要。

ベビーといっしょにミュージアムツアー

ベビーアワーの開催に併せて実施するアート・コミュニケーターと一緒に展覧会をめぐるツアー。「ゆったりツアー」と同様に、参加者一組ごとにアート・コミュニケーターが付き添い、赤ちゃんや家族のペースや状況に合わせて鑑賞をサポートする。2023年度は当日受付・先着順で実施していたものを、ニーズの高さに応えるために2024年度より事前申込制とした。3日(計9回)で38組92名の家族が参加した。

実施日	①2024年7月24日(水) ②2024年10月23日(水) ③2025年1月29日(水)*ベビーアワーの開催日
時間	10:30～、11:30～、12:30～の3回 各回最長60分
会場	展示室
対象	ベビーカーに乗る年齢・月齢の赤ちゃんとその保護者
定員	各回5組・計15組(保護者は2名まで)
参加者数	①14組32人 ②12組29人 ③12組31人
参加費	無料(入館料別途)
申込方法	館ウェブサイトより事前申込
運営委託	特定非営利活動法人アート・コミュニケーション推進機構
運営協力	アート・コミュニケーター東京 ベビーといっしょにミュージアム



ベビーデー 赤ちゃんと暮らす家族のための特別開館日

2023年度に引き続き、休館日の美術館を特別に開室して行う「ベビーデー」を開催した。「戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見」展を貸し切りの環境でゆっくり鑑賞することができる。館内でアート・コミュニケータが来館者の滞在をサポートしたほか、ミニ鑑賞ツアーも同時に実施し、フラットデー同様に鑑賞方法の選択肢を広げることができた。また、新館のカフェを食事・休憩スペースとして開放し、離乳食などの持ち込みにも対応した。

日時	2025年3月24日(月)10:00～15:00
会場	展示室
対象	ベビーカーに乗る年齢・月齢の赤ちゃんとその保護者
定員	60組 (保護者は2名まで。定員を超過した場合は抽選)
参加者数	79組199人
参加費	無料(入館料別途)
申込方法	館ウェブサイトのフォームより事前申込
運営委託	特定非営利活動法人アート・コミュニケーション推進機構
運営協力	アート・コミュニケータ東京 ベビーといっしょにミュージアム



やさしい日本語で美術館を楽しむプログラム 「庭で見つける小さな星」

さまざまな文化背景の人々が美術館に集まり、互いの文化や言葉を超えて理解を深めることを目的に行うプログラム。アーティストを講師に迎え、庭園での自然観察をテーマに、造形活動を交えたワークショップを行った。前半は、庭園の様々な植物や地面の色や模様を観察し、丸い穴の開いたカードを使って、「星」に見える部分を探し出すという活動に取り組んだ。後半は、持ち帰った自然物の色や模様を描き、オリジナルの星の標本を制作した。講師は、趣旨や手順をわかりやすく伝えるため、できるだけやさしい言葉を使い、難しい内容は実物を示しながら説明した。また、今回は小学生の保護者も参加できるようにし、大人にもやさしい日本語への理解を促すことができた。

日時	①2025年3月15日(土) 13:30～15:30 ②2025年3月16日(日) 13:30～15:30
会場	本館スタジオ、庭園
講師	岩田とも子(アーティスト)
対象	小学3年生～中学生(外国にルーツがある子供、日本の子供)※小学生は保護者も参加可
定員	各回12名
参加者数	①12人 ②7人
参加費	無料(入館料別途)
申込方法	メールにて事前申込



撮影：井手大

さわ会—さわっておしゃべり鑑賞会「触れて、感じて、対話する」

作品や建物に触れながら対話を楽しむプログラム。さわる鑑賞の研究者を監修者として迎え、障害の有無にかかわらず、誰もが楽しめる場を目指して実施した。

展覧会「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」に関連し、本館の建築にも使用されている「鉄」と「ガラス」をテーマに取り上げた。まず、作品の一部に触れながら自己紹介を行い、その後、青木野枝の作品、三嶋りつ恵の作品、本館の運転手室の丸窓に触れて鑑賞した。最後に、それぞれの体験を共有し、対話を深めた。

ウェブサイトの申し込みフォームに加え、電話でも受け付けることで、視覚障害のある方にも申し込みしやすい環境を整えた。また、アンケートについては紙のみに限定せず、後日ウェブからも回答できるようにし、回答方法の選択肢を広げた。

日時	2025年2月1日(土)14:00～16:00
会場	新館ギャラリー2、本館
企画	半田こづえ(明治学院大学非常勤講師)
対象	中学生以上 (視覚に障害がある方もない方も参加可能)
参加者数	11人
参加費	無料(入館料別途)
申込方法	館ウェブサイトの申し込みフォームにて事前申込制 電話での申し込みも可能



撮影：黒目写真館

アクセシビリティ向上の取り組み

当館では、すべての来館者が安心して美術館を楽しめるよう、アクセシビリティ向上に取り組んでいる。情報保障付きプログラムの実施、鑑賞サポートツールの制作・導入、アクセシビリティに関する館内研修の実施など、多様なニーズに対応した環境整備を進め、来館者の誰もが鑑賞機会を得られるよう努めている。

情報保障

2024年度からすべての講演会に手話通訳、文字表示、ヒアリングループを導入し、移動を伴うギャラリートークやツアー、茶会でも、手話通訳または文字表示を取り入れた。その他のイベントについても、利用者の希望に応じて情報保障を提供した。2025年3月からは、本館の受付にて遠隔手話通訳も導入している。

情報保障付きプログラム一覧

日時	プログラム名	情報保障の種類
2024年6月1日(土) 14:00～15:30	講演会「夢二郷土美術館コレクションの魅力ー夢二の原点 ふるさと岡山ー」	手話通訳、文字表示、 ヒアリングループ
2024年7月6日(土) 14:00～15:30	講演会「現代に夢二が問いかけるもの ー美と生活、「芸術家」と人生、西洋と日本、夢とロマン」	手話通訳、文字表示、 ヒアリングループ
2024年7月10日(水)	フラットデー ゆったり鑑賞日「ゆったりツアー」	手話通訳 (利用者の希望により実施)
2024年9月14日(土) 14:00～15:30	美術館講座2024 第1回「朝香宮邸を知るーとくに歴史を中心に」	手話通訳、文字表示、 ヒアリングループ
2024年10月17日(木) 16:00～16:30	ギャラリートーク「建物公開2024 あかり、とるとき」	文字表示
2024年10月31日(木) 16:00～16:30	ギャラリートーク「建物公開2024 あかり、とるとき」	文字表示
2024年11月8日(金) 18:00～19:30	美術館講座2024 第2回「日本の名作住宅からの学び」	手話通訳、文字表示、 ヒアリングループ
2024年12月5日(木) 午後の回:14:00～15:00	庭園の四季シリーズ「ガーデンツアー2024」	手話通訳
2024年12月14日(土) 14:00～15:30	美術館講座2024 第3回「建物を使いながら守ることー保存・修復の仕事から」	手話通訳、文字表示、 ヒアリングループ
2025年1月9日(木) 15:00～15:40	建物トーク「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」展	文字表示
2025年2月1日(土) 14:00～16:00	さわ会ーさわっておしゃべり鑑賞会「触れて、感じて、対話する」	要約筆記 (利用者の希望により実施)
2025年2月8日(土) 第2席:12:30～13:40	冬の特別茶会「陽だまりのひととき」	手話通訳
2025年2月15日(土) 14:00～15:30	青木野枝・三嶋りつ恵によるアーティストトーク	手話通訳、文字表示、 ヒアリングループ
2025年3月20日(木・祝) 14:00～15:30	美術館講座2024 第4回「さわって楽しむ東京都庭園美術館」	手話通訳、文字表示、 ヒアリングループ



鑑賞サポートツール

視覚支援機器

2024年3月より、ウェルカムルームで図書資料閲覧用として視覚支援機器の貸し出しを開始。作品鑑賞への活用を求める要望を受け、「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」展（2024年11月30日～）より、展示室での貸し出しも開始した。

タブレット

車椅子利用者が見づらい作品や展示ケース内の展示物を鑑賞しやすいよう、展示室内にタブレットを導入。監視スタッフが展示物の画像を見せるなどの案内を行っている。



車椅子利用者向け案内パネル

ウインターガーデンなど、車椅子では入ることができない展示室の様子が見えるパネルと画像を必要に応じて監視スタッフが案内時に提示している。

印刷物

さわる絵本

本館（旧朝香宮邸）の装飾と空間の特徴を表現した、触って楽しめる絵本を制作。視覚に障害がある方も楽しめるようテキストは墨字と点字を併記した。

監修 半田こづえ（明治学院大学非常勤講師）
デザイン・制作 駒形あい（ONE STROKE）



触知案内図

冊子型の触知案内図を制作。拡大文字の墨字と点字を併記し、視覚に障害がある方が美術館の全体や庭園の位置、各建物の構造をみたり触れたりすることで把握できるようにした。

制作 欧文印刷株式会社



やさしい日本語ガイドブック

外国にルーツのある方など、多くの人にわかりやすい「やさしい日本語」によるガイドブックを作成。美術館の見どころや利用案内をまとめた。

監修 高尾戸美
デザイン 松尾由佳(Nica)



防災訓練

障害のある方や日本語を母国語としない方など、災害弱者になりやすい方への対応を取り入れた防災訓練を実施。ミュージアムのアクセシビリティに関するアドバイザーを迎え、避難時のアナウンスをやさしい日本語にし、ピクトグラムを用いたフリップボードやコミュニケーションカードを作成した。また、消防署の協力のもと、車椅子の取り扱い講習を行い、避難時の支援対応の強化を図った。



館内研修

高齢者や障害のある方への対応について学ぶ「クリエイティブ・ウェルビーイング研修」を実施。あわせて、車椅子に乗って館内を巡り、通路の幅や展示品の高さを確認する「車椅子研修」も行い、施設のバリアフリー対応について検証した。



ウェブアクセシビリティ

2023年度に改修したウェブサイトの障害当事者診断をもとに、スクリーンリーダーの読み上げ対応の改善を行った。また、公式ウェブサイトおよびSNSの画像には、代替テキストを追加し、スクリーンリーダーユーザーにも配慮している。

地域連携

1 ホテル雅叙園東京との提携割引

各施設の会場内に設置する割引パネルを撮影し、各施設チケットカウンターでチケット購入の際に画像を提示すると展覧会観覧料の割引が適用される。

対象展覧会

①ホテル雅叙園東京の「昭和モダン×百段階段－東京モダンガールライフ－」

当館の「開館40周年記念 旧朝香宮邸を読み解くA to Z」

割引対象期間 2024年3月23日(土)～5月12日(日)

割引金額 ホテル雅叙園東京 一般 1,600円→1,400円 大学生・高校生 1,000円→900円 中学生・小学生 800円→700円
当館 展覧会観覧料が通常価格より2割引

ホテル雅叙園東京から当館への来館者数 253人

当館からホテル雅叙園東京への来場者数 151人

※オンラインチケットは割引対象外

②ホテル雅叙園東京の「和のあかり×百段階段2024～妖美なおとぎばなし～」

当館の「生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界」

割引対象期間 2024年7月5日(金)～8月25日(日)

割引金額 ホテル雅叙園東京 一般 1,600円→1,400円 大学生・高校生 1,000円→900円 中学生・小学生 800円→700円
当館 展覧会観覧料が通常価格より2割引

ホテル雅叙園東京から当館への来館者数 197人

当館からホテル雅叙園東京への来場者数 250人

※オンラインチケットは割引対象外

③ホテル雅叙園東京の「百段百景～あこがれの竜宮城～」

当館の「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」

割引対象期間 2024年12月7日(土)～2025年1月12日(日)

割引金額 ホテル雅叙園東京 一般 1,600円→1,400円 大学生・高校生 1,000円→900円 中学生・小学生 800円→700円
当館 展覧会観覧料が通常価格より2割引

ホテル雅叙園東京から当館への来館者数 61人

当館からホテル雅叙園東京への来場者数 92人

※オンラインチケットは割引対象外

④ホテル雅叙園東京の「時を旅する福ねこ at 百段階段 ～平安、江戸、大正、昭和、そして現代へ～」

当館の「戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見」

割引対象期間 2025年3月20日(木)～2025年5月18日(日)

割引金額 ホテル雅叙園東京 一般 1,600円→1,400円 大学生・高校生 1,000円→900円 中学生・小学生 800円→700円
当館 展覧会観覧料が通常価格より2割引

ホテル雅叙園東京から当館への来館者数 2024年度19人

当館からホテル雅叙園東京への来場者数 2024年度28人

※オンラインチケットは割引対象外

2 国立科学博物館附属自然教育園との相互割引

各施設の券売所付近に設置する割引パネルを撮影し、各施設のチケットカウンターでチケット購入の際に画像を提示すると相互割引が適用される。

割引対象期間 2024年4月2日(火)～2025年3月30日(日)
 割引金額 国立科学博物館附属自然教育園入園料 一般・大学生 320円→270円
 当館 展覧会観覧料が通常価格より2割引
 国立科学博物館附属自然教育園から当館への来館者数 553人
 当館から国立科学博物館附属自然教育園への来園者数 513人
 ※当館では展示替期間中のため、展覧会の開催がない期間は庭園入場料のみ割引。オンラインチケットは割引対象外

3 ミナコレ2024 (港区、港区ミュージアムネットワーク)

港区内の美術館・博物館等を対象のスタンプラリー「ミナコレ2024」に参加した。
 当館のチケットカウンターに設置した参加用紙へのスタンプ押印またはデジタルスタンプ台へのタッチによりデジタルスタンプを集めると、参加者は大使館訪問または景品に応募できる。

期間 2024年10月15日(火)～12月20日(金)
 当館からの港区へ提供 5組10名分の展覧会招待はがき
 当館でのデジタルスタンプラリーの参加者数 124人

4 ガーデンコンサート 音楽のさんぽ道 ～桐朋学園大学学生によるコンサート～(Kissポート財団)

昨年に引き続き公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団〔Kissポート財団〕と共催し、Kissポート財団の運営するコンサート「音楽のさんぽ道」を当館の芝庭で開催した。

日時 2024年10月1日(火)
 第1回 13:30～14:00
 第2回 15:00～15:30
 会場 芝庭
 演奏 金子 凜(トランペット)、黒田希美(トランペット)
 エンスレン ショーン 陸(トロンボーン)
 小出佑太(ホルン)、佐藤涼華(チューバ)
 主催 公益財団法人東京都歴史文化財団
 東京都庭園美術館
 公益財団法人港区スポーツふれあい
 文化健康財団〔Kissポート財団〕
 料金 無料(入場料別途)
 実施回数 2回
 参加者数 1,225人
 第1回 543人
 第2回 682人



5 東京メガイルミ（大井競馬場）

大井競馬場で開催された「東京メガイルミ2024-2025」での『みなと区民ウィーク』に参加した。
下記の日程でブースを出展し、当館のパンフレットやチラシを用意して新たな客層へアプローチした。

日時	2024年11月23日(土・祝)15:30～20:00
	2024年11月24日(日)16:30～20:00
	2024年11月25日(月)～29日(金)無人ブース、チラシ配架のみ
会場	大井競馬場 L-WING1階
当館のブースへは11月23日は約90名以上、11月24日は約60名以上の来場があった。	

6 お散歩MAP「おとなり美術館散歩」(東京都写真美術館)

近隣の東京都写真美術館と連携し、お散歩MAP「おとなり美術館散歩」を制作し、両館で配布した。
まちの歴史や物語に思いをはせながら、両館を巡っていただく事で美術館を身近に感じてもらった。

7 庭園マルシェ

2023年10月に開館40周年の特別イベントで開催したマルシェをきっかけに、開かれた美術館の実現に向け、庭園を活かした地域連携として開催した。出店者は主に近隣から募集、運営は地域活動に力を入れている近隣の組織に依頼し、共催者として関わってもらい地域を巻き込んだ取り組みを行った。

- ・近隣のレストランやショップを含め合計約10店舗出店
- ・JR東日本 東京建設プロジェクトマネジメントオフィスによる鉄道林を利用したワークショップを開催
- ・庭園美術館オリジナルコーヒーの開発に携わった、近隣のコーヒーショップ店長によるガーデントークを開催

日時	2024年12月4日(水) 11:00～16:00
会場	東京都庭園美術館 西洋庭園
参加店舗	雑穀甘酒カフェ「美環」(甘酒) lizuna Herbal Breeze(ハーブ) レズンデートル目黒店(スイーツ) おさつ本舗(スイーツ) Sugar message(スイーツ) Quilão(シリアル) pedibus jambus(飲食) Sunfarm M+(飲食) HUIT(飲食) hibino(雑貨)
利用者数	1,000人以上(ワークショップ参加者:35人、 ガーデントーク参加者:30～50人)
入場料	無料(入場料別途)
共催	hibino



8 オリジナルコーヒーの企画と監修(Kuromimi Lapin)

近隣のコーヒーショップ「Kuromimi Lapin」店長の伊藤喜章氏に依頼し、アール・デコ様式の旧朝香宮邸をイメージしたオリジナルコーヒーを開発、監修した。

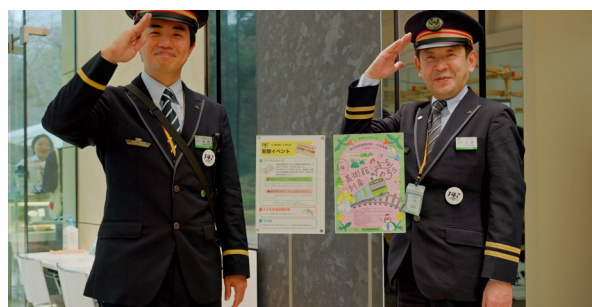
パッケージはミュージアムショップ「リュミエール」から提案されたデザイン候補から、12月4日の庭園マルシェで開催した伊藤氏のガーデントークの参加者の投票により決定し、「みんなで作る庭園美術館のオリジナルコーヒー」として完成させた。



9 駅開業140周年記念 東京都庭園美術館×JR目黒駅 ミニ山手線イベント～美術館を走る列車にのろう～

JR目黒駅の開業140周年を記念し、庭園美術館本館前でミニ山手線を走行し乗車できるイベントを開催した。当日は雨天のためミニ山手線の走行は中止となったが、新館にてこども駅長制服体験や鉄道林の端材を利用したワークショップなどを実施。小学生や未就学児をはじめ通常来館の少ない層を誘い、地域の拠点となり人が集う開かれた美術館に向けた試みとした。

日時	2025年3月16日(日) 10:30～17:00
会場	新館ギャラリー2
内容	こども駅長制服体験 ワークショップ(各地の鉄道を守ってきた 鉄道林の端材を使ったスタンプ作り) 模擬列車停止ボタン体験、信号機操作体験 実物大信号機展示、山手線模型展示、 ミニ新幹線(E6系)展示、顔出しパネル、 目黒駅舎・車両関連資料投影
参加者数	約300人(内ワークショップ参加者:70人)
参加費	無料(入館料別途)
共催	JR東日本 目黒駅
協力	東急電鉄株式会社、東邦電機工業株式会社、 JR東日本 東京総合車両センター、JR東日本 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス



東京都庭園美術館コンサート

クラシックのサロンコンサートの実施により、広いジャンルのお客様に朝香宮邸の魅力を实感いただく場として開催している。開始して21回目となる2024年度については4公演を実施した。

日時 2024年9月1日(日)、2025年1月27日(月)
 主催 公益財団法人東京都歴史文化財団
 東京都庭園美術館、株式会社ジャパン・アーツ
 料金 5,500円(全席自由)
 広報印刷物 チラシ(A4)デザイン:株式会社光栄社
 企画 朝香誠彦
 協賛 株式会社ニッピコラーゲン化粧品
 協力 株式会社ショコラティエ・エリカ
 実施回数 4回
 参加者数 計315人

第1回 松本蘭 ヴァイオリン・リサイタル

日時 2024年9月1日(日)14:00開演
 会場 本館大広間
 参加者数 82人

第2回 辻本玲 チェロ・リサイタル

日時 2024年9月1日(日)18:00開演
 会場 本館大広間
 参加者数 89人

第3回 及川浩治 ピアノ・リサイタル

日時 2025年1月27日(月)14:00開演
 会場 新館ギャラリー2
 参加者数 68人

第4回 山根一仁 ヴァイオリン・リサイタル

日時 2025年1月27日(月)18:00開演
 会場 新館ギャラリー2
 参加者数 76人



庭園能

目黒駅近くの喜多能楽堂を拠点とする公益財団法人十四世六平太記念財団と共催し、当館の芝庭で能の公演を行った。また、今年は鑑賞者の利便性向上の為、一部指定席を導入した。

日時	①2024年11月22日(金) 能「枕慈童」開場15:30／開演16:00 ②2024年11月23日(土) 能「巴」開場11:30／開演12:00 ③2024年11月23日(土) 能「融」開場15:00／開演15:30
会場	芝庭(雨天時会場 セルリアンタワー能楽堂)
料金	各回 自由席5,000円 指定席7,000円
定員	各回201名
参加者	①139人 ②165人 ③143人
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館 公益財団法人十四世六平太記念財団
協賛	積水化学工業株式会社
舞台制作	株式会社能楽プロ



能	「枕慈童」
仕舞	「八島」香川靖嗣
解説	佐藤寛泰
シテ	友枝雄人
ワキ	大日方寛
ワキツレ	野口琢弘
笛	一噌隆之
小鼓	成田達志
大鼓	大倉慶乃助
太鼓	林雄一郎



能	「巴」
仕舞	「玉葛」友枝昭世
解説	佐藤陽
シテ	香川靖嗣
ワキ	大日方寛
アイ	野村裕基
笛	一噌隆之
小鼓	成田達志
大鼓	大倉慶乃助



能	「融」
仕舞	「天鼓」友枝昭世
解説	佐藤寛泰
シテ	友枝雄人
ワキ	大日方寛
アイ	野村裕基
笛	一噌隆之
小鼓	成田達志
大鼓	大倉慶乃助
太鼓	林雄一郎

美術資料の活用

1 美術資料の収集

「東京都庭園美術館美術資料収集方針」における「収集の基本的な考え方」に基づき収集を行う。

収集の基本的な考え方

館は、歴史的な価値を有する建造物である旧朝香宮邸を保存、公開するとともに、その建物及び庭園を活かして美術作品等を展示することにより、もって都民の教養ならびに学術及び文化の発展に寄与するため設置されている。

この設置目的を果たすため必要な美術作品等を収集する。

2024年度までの収集件数

	収集分野	2024年度 新規収集数	総件数
ア	絵画	0	6
イ	彫刻	0	16
ウ	工芸	2	35
エ	デザイン	0	4
オ	家具	0	14
カ	服飾・装身具	0	4
キ	映像写真等による造形表現	0	1
ク	資料(旧朝香宮邸又はアール・デコに関する書籍・資料、 装飾物・建材等)	10	130
ケ	その他	0	0
合計		12	210

2 新規収集

東京都庭園美術館の収集の基本方針に沿う質の高い作品及び資料12件48点を、購入・寄贈により幅広い分野から収集することができた。いずれも今後の展覧会での積極的な活用が期待される。

※画像撮影 上野則宏

購入

1

作者名 ルネ・ラリック
 作品・資料名 テーブル・ランプ《ノルマンディー》
 制作年 1935年
 素材・技法 透明ガラス、プレス成形、ブロンズに金メッキ
 寸法 H27.8×W12.0×D12.0cm



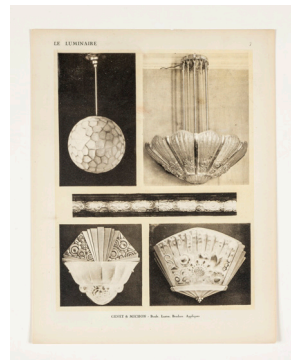
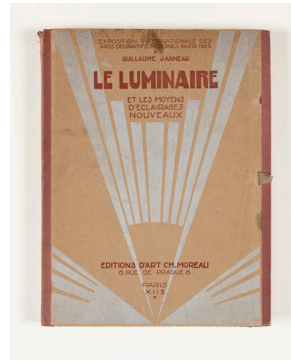
2

作者名 ルネ・ラリック
 作品・資料名 グラス
 制作年 1930年代
 素材・技法 透明ガラス、型吹き成形、脚台はプレス成形
 寸法 H13.2×W7.2×D7.2cm
 数量 2点



3

作者名 ギヨーム・ジャンー／編、
 エディション・ダール・シャルル・モロー／出版
 作品・資料名 ルミネール 照明器具と新しい照明手法
 制作年 1920-30年代
 素材・技法 紙、印刷
 寸法 H32.3×W25.0cm



4

作者名 マレ・フレール(マレ兄弟社)
 作品・資料名 指輪
 制作年 1910年頃
 素材・技法 ダイヤモンド、金
 寸法 直径2.0cm



5

作品・資料名 朝香宮家アルバム(国内)
 制作年 昭和初期
 素材・技法 アルバム、写真
 寸法 H31.0×W42.4cm



6

作品・資料名 北白川宮家関連アルバム
 制作年 1922年頃
 素材・技法 アルバム、写真
 寸法 H24.0×W18.0cm



7

作品・資料名 朝香宮家関連写真(皇族等写真)
 制作年 昭和初期
 素材・技法 写真
 数量 8点



8

作品・資料名 朝香宮家関連写真(視察・献上写真)
 制作年 昭和初期
 素材・技法 写真
 数量 11点



9

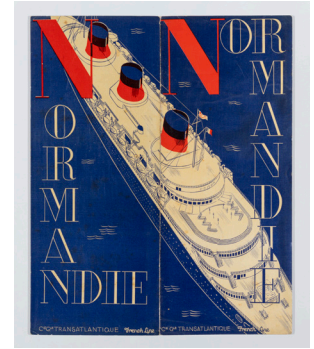
作品・資料名 朝香宮家関連写真等
 制作年 昭和初期
 素材・技法 写真
 数量 7点



寄贈

1

作者名 フレンチ・ライン／発行
 作品・資料名 ノルマンディー パンフレット
 制作年 1935年頃
 素材・技法 紙、印刷
 寸法 H60.5×W119.5cm



2

作品・資料名 朝香宮鳩彦王肖像等
 制作年 1890-1920年代
 素材・技法 紙、写真
 数量 3点



3

作品・資料名 絵葉書
 制作年 1890-1920年代
 素材・技法 紙、印刷
 寸法 H13.8×W8.7cm
 数量 11点



3 美術資料の保存・修復

当館が所蔵する以下の作品4点の状態調査および修復・補修作業を実施した。劣化・腐朽部分の修復、欠損部分の製作、クリーニング、塗装、細かな調整等、慎重に調査を行った上で、オリジナル部分を最大限に残して活かしながら耐久性を担保するような方向性で作業を実施した。

修復を行ったシャンデリアは、2024年度に開催した「建物公開2024 あかり、ともるとき」にて展示された。今後も建物公開展をはじめ各展覧会にて活用予定である。

No.	作者名	作品・資料名	制作年	素材・技法	寸法
1	レイモン・シュブ	シャンデリア	1920-30年代	鍛鉄、縞瑪瑙(オニキス)	82cm
2	グイード・モリナーリ	明治天皇肖像	1897年	カンヴァス、油彩	95.7×74.5cm
3	グイード・モリナーリ	昭憲皇太后肖像	1897年	カンヴァス、油彩	95.9×74.5cm
4	ボアズ・ヴァーディア	ビタイとバシュール	1992年	石(ブルーストーン、離れ石)	81×279×147cm

4 貸出

No.	作家	作品	会場	展覧会名	展覧会会期
1	グイード・モリナーリ	《明治天皇肖像》 《昭憲皇太后肖像》	明治神宮ミュージアム	皇后のまなざし	2025年3月29日～6月22日

5 美術資料の情報公開

「東京都庭園美術館 コレクションサイト」

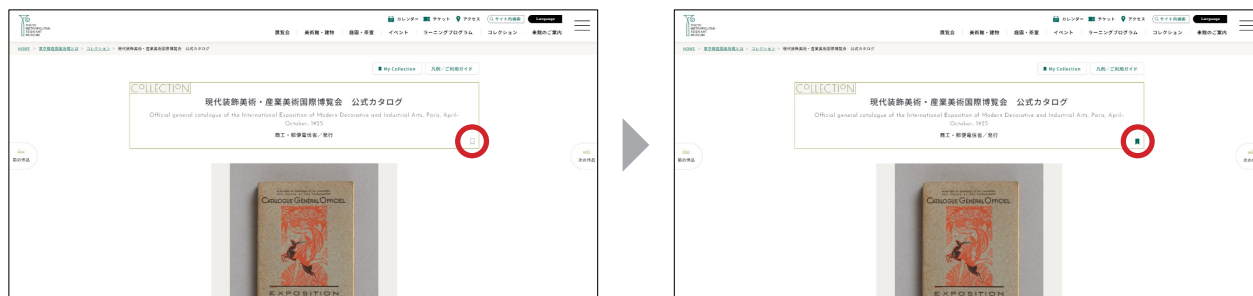
当館コレクションサイトURL:<https://www.teien-art-museum.ne.jp/museum/collection/>

Tokyo Museum Collection (ToMuCo) URL:<https://museumcollection.tokyo/>

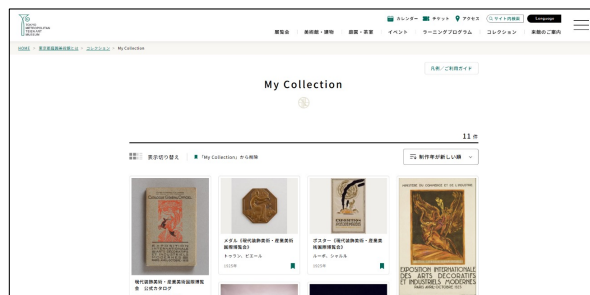
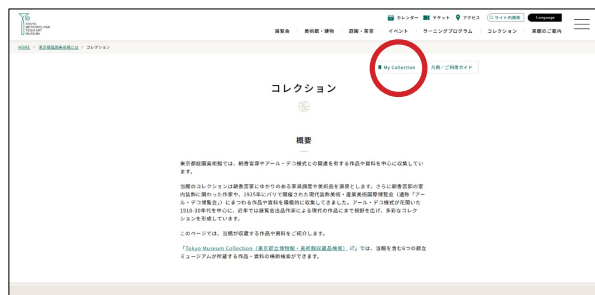
お気に入り機能「My Collection」の実装

利用者一人一人がコレクション情報を保存し蓄積できるお気に入り機能「My Collection」を新たに実装した。Cookie機能を活用することで会員登録やログインを不要とし、気軽にアクセスできる仕様を実現した。

ブックマークアイコンをクリックし、作品・資料情報を「My Collection」に登録

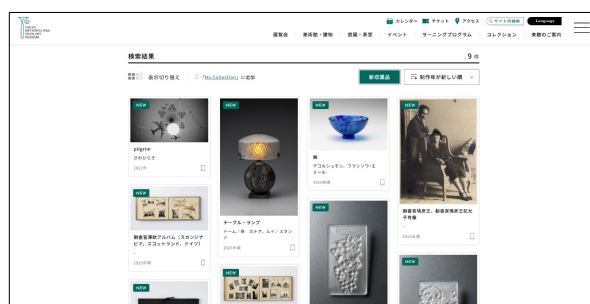
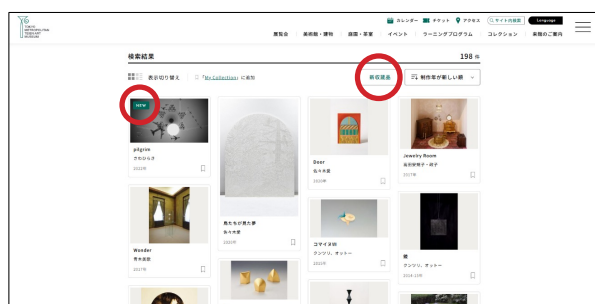


画面右上の「My Collection」タブをクリックし、一覧を表示



新収蔵品を示す「NEW」アイコン及び新収蔵品一覧ページの実装

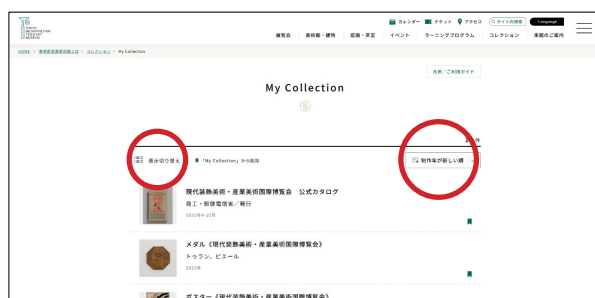
新たに収集した作品・資料について情報登録後一年間「NEW」アイコンを表示する機能、また、検索結果上部に収蔵品一覧ページへアクセスできるタブを新たに実装した。



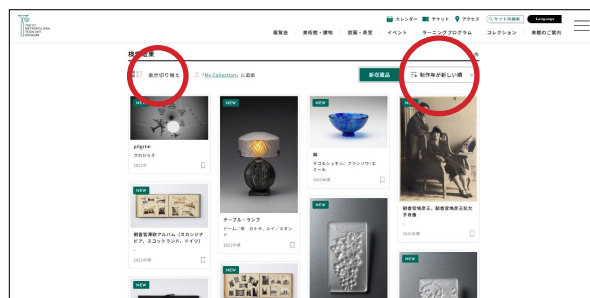
「My Collection」及び「新収蔵品」一覧の表示設定の充実

- 「表示切り替え」(グリッド表示、リスト表示)
- 「並べ替え条件」(制作年が新しい順、制作年が古い順、作者名A-Z、資料名A-Z)

「My Collection」一覧ページ



「新収蔵品」一覧ページ



作品画像

著作権の保護期間が満了した作品、および「美術の著作物等の展示に伴う複製等に関する著作権法第47条ガイドライン」(一般社団法人日本美術家連盟、一般社団法人日本美術著作権連合、一般社団法人日本写真著作権協会、公益財団法人日本博物館協会、全国美術館会議及び一般社団法人日本書籍出版協会)にもとづき、コレクションのサムネイル画像(32,400画素以下)を掲載。

文化財の保護・活用

重要文化財の保護・活用を行うため、引き続き様々な維持修理やメンテナンスを行い、また来館者の一層の理解を深めることを目的として旧朝香宮邸の歴史・修理、文化財保護等に関わる講座やギャラリートークを実施した。都が実施している旧朝香宮邸の保存と活用を定める大方針である保存活用計画策定に際しては、館の立場から情報を提供するなどし、作成支援を行った。

1 工事・修理・メンテナンス

- ・茶室外壁部分補修 経年により剥落した茶室外壁の部分補修を行った。
- ・正門タッチアップ補修 経年により部分的に塗膜が剥がれた正門の洗浄とタッチアップ補修を行った。
- ・本館絨毯留め金具の復旧 経年により破損が散見される絨毯留め金具をオリジナルを基に型を作り復旧した。
- ・香水塔の電球交換 本館次室に設置されている香水塔電球を年4回専門業者による交換を実施した。
- ・蝶番調整 本館内及び正門各種扉の丁番を専門業者により調整を実施した。



香水塔電球の交換作業



復旧した絨毯留め金具

2 講座等の実施

旧朝香宮邸の建物や歴史、文化財保護等を多くの来館者に知っていただくことを目的に各種講座等を実施した。

「築90年・旧朝香宮邸のA to Z パーゴラの保存修理について」2024年4月11日(木)

「築90年・旧朝香宮邸のA to Z 姫宮バルコニーの復元工事について」2024年4月25日(木)

「建物公開展2024 ギャラリートーク 本館の照明について」2024年10月17日(木)

「美術館講座第3回 建物を守りながら使うこと」2024年12月14日(土)

「そこに光が降りてくる青木野枝／三嶋りつ恵 建物トーク 旧朝香宮邸内の鉄とガラスについて」2025年1月9日(木)

「そこに光が降りてくる青木野枝／三嶋りつ恵 建物ツアー 旧朝香宮邸内の鉄とガラスについて」2025年2月6日(木)

3 東京都が実施する 旧朝香宮邸保存活用計画策定の連携・協力

2023年度に引き続き、旧朝香宮邸保存活用計画策定に関して、検討委員会・事前打合せ等へ参加し館の立場から情報提供し、保存活用計画の策定に連携・協力した。

広報事業

2024年度は、2023年度に実施した広報戦略を継続し広報の主力としてSNSを活用、ビジュアルにこだわりコンテンツを工夫した発信を強化した結果、2023年度を大きく上回る公式ウェブサイトPV数557万、Xフォロワー数約18万人、Instagramフォロワー数10万人、フェイスブックフォロワー数2.9万人を達成した。これまでの展覧会、講演会、コンサートや茶会などの定期的な開催によって着実にコアなファンが増えたことに加え、昨年実施した開館40周年の各種イベントによって認知度が向上したことも大きく影響していると思われる。

地域連携(P.78)に記載のとおり昨年度より強化を図ったため、庭園マルシェにおいては地元の団体や店舗による運営および出店を実現することにより、近隣施設や店舗など地域におけるチラシ配架の回数が増え、近隣での広報活動が活発となった。さらに、JR目黒駅との地域連携で実施したミニ山手線イベントにおいては、目黒駅をはじめ一部の駅でのポスターの掲出が可能となり、庭園美術館を知らない多くの人の目に触れる機会となり新たな来館者層の獲得の一助となった。

また、次年度以降の庭園イベントのプロモーションとして活用するため、2024年度に開催した庭園イベントをまとめた紹介動画を制作した。

1 取材対応(抜粋)

・『中央公論』 本郷和人氏による特集で旧朝香宮邸について紹介

発行 2024年11月9日
媒体 雑誌

・共同通信社「魅惑のアールデコ」企画で紹介、20紙近くに掲載

発行 2025年1月
媒体 新聞

・『ことりっぶマガジン秋号』で都内のクラシックな趣が残る施設として紹介

発行 2024年9月
媒体 インターネット、雑誌

2 掲載実績

テレビ・ラジオ 16件
新聞 65件
インターネット 245件
雑誌・書籍・パンフレット等 202件

公式ウェブサイト 2024年4月1日～2025年3月31日
アクセス数 5,572,458PV (前年比+1,815,727)
新規ユーザー数 1,401,153(前年比+452,440)

3 公式SNSの運用

X(旧Twitter)	投稿数264回	フォロワー数	179,779人(前年比+14,166人)
Facebook	投稿数257回	フォロワー数	29,324人(前年比+951人)
Instagram	投稿数328回	フォロワー数	102,933人(前年比+17,226人)
YouTube	投稿数14回	フォロワー数	2,008人(前年比+505人)

4 展覧会プレス内覧会

「生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界」(2024年5月31日開催)100人出席

「建物公開2024 あかり、とるとき」(2024年9月13日開催)40人出席

「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」(2024年11月29日開催)80人出席

「戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見」(2025年3月7日開催)60人出席

5 周辺近隣広報対応

バナーの設置(美術館前1箇所、目黒通り沿い15箇所)…展覧会ごと4回の更新

JR目黒駅及び東京メトロ・都営線白金台駅周辺への地図掲示(各駅1箇所)

6 庭園イベントのプロモーション動画制作

庭園の活性化を目的として、2024年度に実施した事業などイベントの様子を撮影し、プロモーション動画として制作した。次年度以降、庭園美術館ウェブサイトやSNSに公開することで広報活動におけるツールのひとつとする。

収録イベント

- ・庭園マルシェ
- ・庭園の四季シリーズ「ガーデンツアー2024」
- ・駅開業140周年記念 東京都庭園美術館×JR目黒駅
ミニ山手線イベント～美術館を走る列車にのろう～
※雨天のため、列車走行は中止。新館イベントのみ開催



JR目黒駅の開業140周年をお祝いし、様々な体験イベントを開催しました

撮影：黒目写真館

紀要の発行

東京都庭園美術館 紀要2024

執筆

高橋さおり(東京都庭園美術館学芸員)
「旧朝香宮邸 書斎絨毯の保存処置について」

大谷郁(東京都庭園美術館学芸員)
「「だれもが気兼ねなく来館できる美術館」を目指して ―アート・コミュニケータとつくる東京都庭園美術館のアクセスプログラムの実践報告」



美術館維持管理

安全な鑑賞環境を提供し、美術品や重要文化財である建造物等を守るため、引き続き施設・設備の補修及び整備点検や清掃を実施するとともに、警備や監視業者の協力のもと、美術館としての施設の安全性・快適性の確保に努めた。グランドデザインに基づく取り組みとして、美術館のさらなる魅力向上に向けた施設整備等の検討を進めている。

1 設備点検・清掃

収蔵庫や本館・新館展示室等の適切な空調管理を目的とした日常点検を実施するとともに、快適な展示スペースを確保するための清掃を行った。

2 アメニティーの向上にむけた取り組み

来館者や協力業者の声を反映した対応を行った。

- ・来館者用ロッカーの増設
- ・レストランの椅子の張地張替
- ・救護用備蓄品の充実化
- ・照明設計変更による誰でもトイレ視認性向上

3 館内連絡会等の定期開催

館内の委託業者と館内連絡会を定期的に行い、各業者間の情報共有を図り、連携・協力体制を確立し、課題の検討や来館者サービスの向上に努めた。

4 工事・修繕・改修等

- ・チラー4号機ポンプ類交換修理
- ・庭園灯改修工事
- ・中央監視装置コアサーバー等交換作業委託

その他、前回の大規模修繕から10年以上が経過し、経年劣化に伴う故障の頻発を受けた修理・部品交換工事を実施。

5 防災訓練の実施

第1回：2024年9月30日（月）実施／第2回：2025年3月24日（月）実施

インクルーシブ防災（障害者や高齢者を含むあらゆる人を取り残さない防災対策）を実現するため、社会共生担当と連携して企画・実施した。

6 グランドデザイン

2024年3月に策定した「東京都庭園美術館グランドデザイン」に基づく取組として、施設の回遊性向上や庭園利用の活性化に向けた施設整備の検討を行った。

- ・東京都庭園美術館ウェルカムゾーン及び東屋等整備に係る検討委員会の開催 6回

<委員>

藤生 智之 東京都歴史文化財団 総務部長（座長）

妹島 和世 東京都庭園美術館 館長

牟田 行秀 東京都庭園美術館 副館長

西沢 立衛 西沢立衛建築設計事務所 代表（建築家）

金田 充弘 オーク・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド

田村 順 東京都生活文化スポーツ局 文化振興部 文化施設整備担当課長

光永 功嗣 東京都教育庁 地域教育支援部 管理課長

<臨時委員>

山崎 誠子 有限会社GAヤマザキ取締役 日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科准教授

収益事業

1 ミュージアムショップの運営

展覧会場内に位置する新館1階ロビーのミュージアムショップ「リュミエール(Lumière)」において、来館者等に庭園美術館オリジナルグッズや展覧会グッズのほか、図録や芸術関連書籍などを販売した。

また、正門横ではナチュラルチーズ専門店「フェルミエ白金台店」において、フランス産ナチュラルチーズをメインにそれに合う食品などを販売するとともに、カフェスペースでワインやコーヒー、フードメニューなども提供した。なお、この正門横ショップでは、本館・新館の展覧会とは一味違った幅広い展示活動を、美術館とのコラボレーションにより実施している。

実績

新館ロビーショップ 「リュミエール(Lumière)」

購入客数	51,485人
営業日数	245日
営業時間	10:00～18:00
定休日	毎週月曜日(祝日の場合は営業、翌日休み)、 年末年始、展覧会準備期間 ※美術館休館日に準ずる
事業者	株式会社オークコーポレーション



東京都庭園美術館オリジナルコーヒー
[アール・デコ ブレンド]

「生誕140年 YUMEJI展」グッズ
アデリアレトロ ゾンビーグラス

正門横ショップ 「フェルミエ白金台店」

購入客数	12,046人
営業日数	305日
営業時間	10:00～18:00
定休日	毎週月曜日(祝日の場合は営業、翌日休み)、 年末年始 ※美術館休館日に準ずる
事業者	株式会社フェルミエ ※展示活動の実績は、「正門横スペース(旧門衛所) コラボレーション展示」(P.12)を参照



「建物公開2024 あかり、とるとき」
コラボメニュー「"TOMORU" プレート」
(イートイン限定)

2 カフェ・レストランの運営

新館のカフェと正門横のレストランがあり、同一の事業者が営業を行っている。

展覧会場内に位置する新館のカフェは、自然光が全面に差し込む開放的なガラス張り空間で、展覧会鑑賞後などに癒やしのひとときを過ごすことができる。

正門横のレストランは西洋庭園と本館側がサッシレス全面ガラスの開放感ある建物で、イタリアンとフレンチが融合した料理を、窓外に広がる四季折々の景色を眺めながら楽しめる。目黒通りに面しており、美術館のチケットがなくても利用できることが特長である。

実績

カフェ

「café TEIEN」(カフェ庭園)

利用者数	37,758人
営業日数	242日
営業時間	10:00～18:00
定休日	毎週月曜日(祝日の場合は営業、翌日休み)、 年末年始、展覧会準備期間
席数	34席(屋内22席／テラス12席)
事業者	株式会社フードワークス



「生誕140年 YUMEJI展」
コラボメニュー
「クリームソーダ」



「建物公開2024 あかり、とるとき」
コラボケーキ「マロンキャラメルサレ
秋の味覚を添えて」

レストラン

「comodo(コモド)」

利用者数	29,222人
営業日数	306日
営業時間	ランチ 11:00～15:00(ラストオーダー14:00) カフェ 15:00～16:30(フードラストオーダー16:00) ディナー 17:30～21:00(ラストオーダー20:00)
定休日	毎週月曜日(祝日の場合は営業、翌日休み)、 年末年始 ※美術館休館日に準ずる
席数	52席(テーブル44席／カウンター8席)
事業者	株式会社フードワークス



「生誕140年 YUMEJI展」
特別コース



「そこに光が降りてくる」展
特別コース

3 ユニークベニユー事業

歴史的建造物や文化施設等で、会議やイベント、レセプション等を開催することで、特別感を演出できるユニークベニユー事業を2017年より実施している。2024年度は、非公開イベントを含む5件の事業を実施した。

2024年3月に策定した「庭園美術館グランドデザイン」の取組として、ユニークベニユー事業の制度の見直しを行い、同年4月より以下の内容を実行した。

- ①館のブランディング効果を踏まえた新制度(※美術館事業に合致する利用)の創設による、
使用可能時間帯・使用方法・エリアの拡大
- ②料金設定の細分化と優先予約日の設定
- ③広報PRの強化
- ④制約事項の明確化

「PERPETUAL MOMENT -自然の中の時間-」 ※美術館事業に合致する利用

Perpetual (永続性)を哲学とするROLEXから、自然の中で時を超える価値に想いを馳せる時間の贈り物として、館長・妹島和世のキュレーションによるアート作品の展示、生演奏によるライブパフォーマンスおよびシンポジウムを実施し(いずれも一般来場者も参加可)、招待客に向けてはディナーを提供した。

日時 2024年4月19日(金)10:00～22:00
主催 日本ロレックス株式会社
企画運営担当事業者 株式会社WTFC
場所 西洋庭園、ガーデンテラス、
正門横ミュージアムショップ、レストラン、
敷地西側バックヤード
来場者数 300人以上



©長尾真志

レセプション(非公開)

招待客に向けて、ディナーを開催した。

日時 2024年5月16日(木)、17日(金)、18日(土)、
20日(月)、21日(火)19:00～22:00
主催 非公開
場所 レストラン、ガーデンテラス

レセプション(非公開)

招待客に向けて、展覧会の特別鑑賞会を実施した後、レストランにて商品展示をし、ディナーを提供した。

日時 2024年6月24日(月)17:00～21:00
主催 非公開
場所 本館、新館、芝庭、西洋庭園、日本庭園、
レストラン、ガーデンテラス

「LE PHIL 5TH ANNIVERSARY RUNWAY SHOW」

LE PHILブランド5周年のアニバーサリーランウェイショーを、弦楽五重奏の生演奏を入れ、顧客、取引先、プレス関係者、インフルエンサーに向けて実施した。

日時 2024年9月9日(月)16:00～19:30
主催 株式会社TSI
場所 レストラン、ガーデンテラス
参加者数 193名



4 その他の収益事業

施設商用撮影貸出(ロケーションボックス)450,000円(7件)
施設写真商用貸出(イメージライセンス)36,300円(4件)
自動販売機運営管理手数料 332,275円
駐車場6,124,000円(普通車:3,792 台 バス:109台)

2024年度の実績

入館者数

事 項		事前 予約	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	基準値	基準値 対比	前年同期 累計
企画展	旧朝香宮邸を読み解く A to Z	○	18,897	14,969											33,866	33,000	102.6%	
	生誕140年 YUMEJI	○			19,389	19,892	20,167								59,448	60,000	99.1%	
	建物公開2024	○						13,948	28,444	12,910					55,302	40,000	138.3%	
	鉄とガラス 青木野枝/三嶋りつ恵	○								1,485	14,924	16,412	21,365		54,186	37,000	146.4%	
	戦後西ドイツの グラフィックデザイン	○												16,379	16,379	15,000	109.2%	
観覧者 合計			18,897	14,969	19,389	19,892	20,167	13,948	28,444	14,395	14,924	16,412	21,365	16,379	219,181	185,000	118.5%	166,194
庭園のみ入場者			7,658	10,108	5,061	2,011	2,758	4,937	6,161	11,045	7,404	2,989	5,635	7,852	73,619	61,000	120.7%	70,542
その他入館者	展覧会に伴う講演会				86	88							81		255			333
	展覧会ギャラリーツアー等		46	137				286	58			28	52		607			443
	ワークショップ等				18		50		54		14			19	155			82
	美術館講座							90		90	81			40	301	160	188.1%	302
	ミュージアム・コンサート				300			171	1,225			144			1,840			1,677
	その他イベント		46	54	49	2,041	101	3,076	166	7,949	1,288	2,328	2,275	1,952	21,325			5,380
その他入館者合計			92	191	453	2,129	151	3,623	1,503	8,039	1,383	2,500	2,408	2,011	24,483			8,217
入館者 総合計			26,647	25,268	24,903	24,032	23,076	22,508	36,108	33,479	23,711	21,901	29,408	26,242	317,283			244,953

外国人入館者		企画展	855	420	1,051	1,011	721	651	1,363	446	1,304	1,108	756	996	10,682	前年同期 累計		
		庭のみ	250	739	292	148	273	415	303	758	409	268	504	583	4,942			
茶室公開			9,331	9,247	6,780	5,277	4,631	6,950	10,847	9,839	8,097	6,798	7,632	6,857	92,286			

広報・宣伝

事 項	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年同期 累計
マスコミ	TV・ラジオ 放送件数			5	3		1		1	2	3	1		16	114.3%
	新聞掲出件数	2	5	14	3	2	8	5	2	7	8	6	3	65	127.5%
	雑誌等掲出 件数	17	34	57	34	31	41	27	44	49	29	32	52	447	171.3%
ホームページ	アクセス件数 (PV)	452,918	493,792	457,969	478,328	435,461	539,142	509,910	413,585	349,321	453,304	505,442	483,286	5,572,458	108.7%
X (旧ツイッター)	フォロワー数	167,096	169,051	171,068	172,785	170,661	172,054	173,181	174,129	174,756	176,467	177,974	179,779	179,779	107.6%

収益事業収入

管理手数料 及び 売上高	事 項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年同期 累計
	MS管理 手数料	954,371	770,552	1,701,530	1,946,796	1,846,532	715,913	1,198,628	724,384	851,459	830,815	865,267	1,501,498	13,907,745	193.4%
	飲食施設管理 手数料	2,455,811	2,347,398	2,676,297	2,452,531	2,377,084	1,908,646	2,584,117	2,156,051	2,340,787	1,587,242	1,735,332	2,193,726	26,815,022	118.1%
	駐車場売上高	463,000	481,000	467,500	588,500	645,000	393,000	692,500	488,000	407,000	437,500	574,000	487,000	6,124,000	129.8%
	自販機管理 手数料	38,327	33,574	24,706	26,141	26,667	29,448	29,545	26,809	22,036	20,882	26,697	27,443	332,275	102.9%
	計	3,911,509	3,632,524	4,870,033	5,013,968	4,895,283	3,047,007	4,504,790	3,395,244	3,621,282	2,876,439	3,201,296	4,209,667	47,179,042	135.0%
年間開館日数		25	27	26	26	27	25	27	26	23	23	24	26	305	99.3

資料／組織図

館長	妹島 和世
副館長(学芸)	牟田 行秀
調整担当課長(学芸)	岡本 純子

管理係

管理係長〔派〕	奈良部 浩武
ユニークベニュー担当係長	中島 三保子
調整担当係長(技術)	長谷川 修
プロモーション担当係長	平木 絵里
主任	衣斐 和美
主事	原口 寛子
主事	清水 麻子
主事	丸山 文江

事業係

事業係長(学芸)	森 千花
事業担当係長(学芸)	吉田 奈緒子
事業担当係長(学芸)	板谷 敏弘
主任(学芸)	神保 京子
主任	藤野 英樹
主任(学芸)	高橋 さおり
主任	増田 万里奈
主任(学芸)	西 美弥子
主事(学芸)	大谷 郁
主事(学芸)	鶴 三慧
主事(学芸)	斉藤 音夢
主事(学芸)	方波見 瑠璃子

展覧会実績一覧

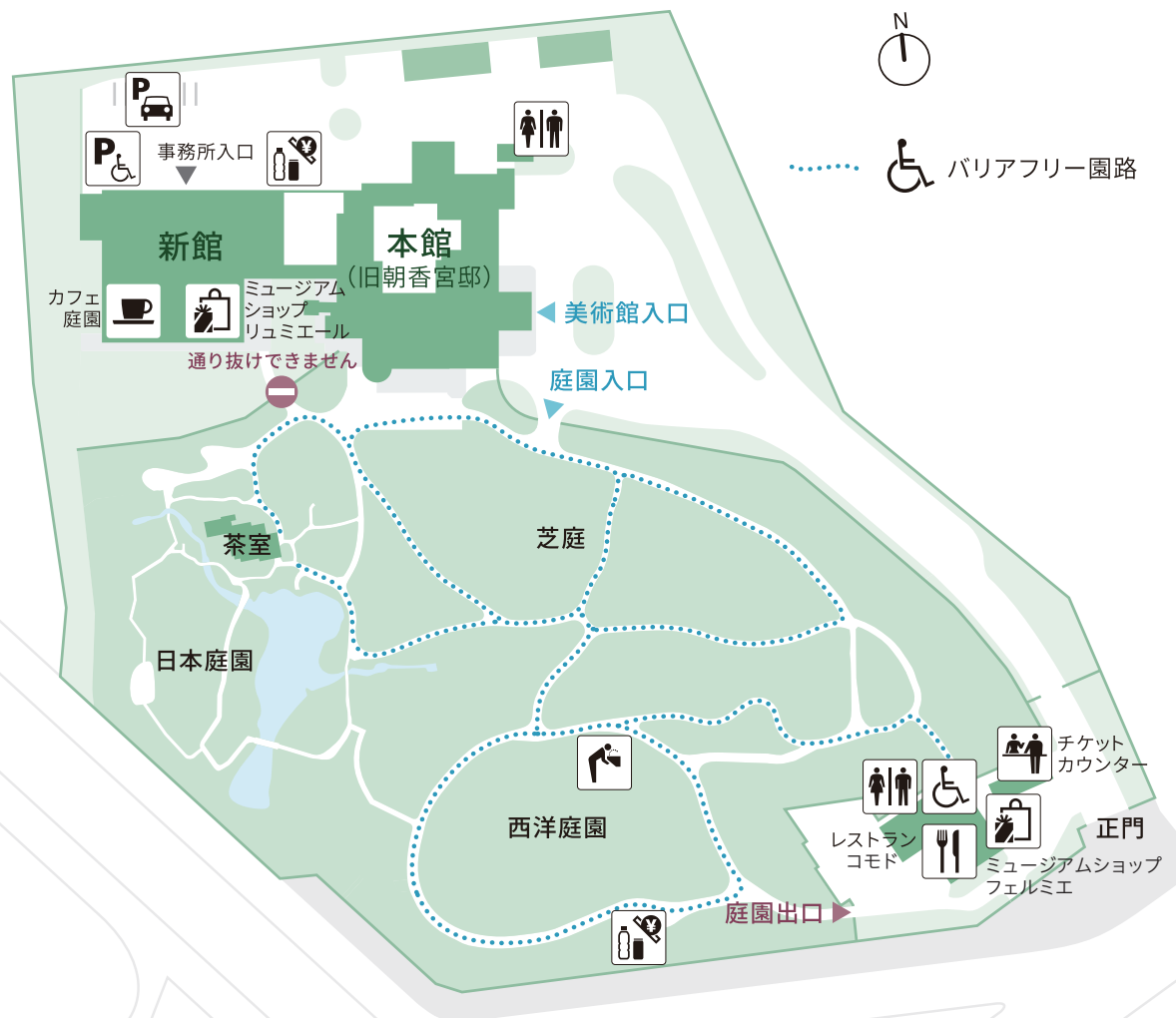
展覧会名	会期	入館者数	1日平均
1983 昭和58年			
ピカソからジャスパー・ジョーンズまで グッゲンハイム美術館展	1983年10月1日～12月25日(81日)	122,072人	1,507人
1984 昭和59年			
早春展	1984年2月23日～4月9日(45日)	9,925人	220人
陽春展	1984年4月14日～4月23日(10日)	2,968人	296人
コプト美術展 ナイル河畔の文明遺産	1984年4月28日～6月3日(35日)	12,400人	354人
'84 初夏―美とのであい	1984年6月16日～7月8日(22日)	3,987人	181人
東京・バリ友好都市提携記念 ルオー展	1984年9月14日～11月4日(48日)	38,647人	805人
晩秋展 東京都美術館所蔵作品より	1984年11月17日～12月23日(35日)	10,433人	298人
1985 昭和60年			
日本画による初春展	1985年1月12日～2月11日(30日)	7,413人	247人
アレックス・コルヴィル展 カナダの自然と美術	1985年2月20日～3月21日(28日)	13,662人	487人
フランス・コルベール展	1985年4月1日～5月12日(39日)	53,945人	1,383人
日本の美 ジャポネズリーのルーツ	1985年5月19日～6月23日(31日)	21,880人	705人
ナンダラー・ボース生誕100年記念 アジア近代絵画の夜明け展 天心・タゴール以後の日本とインド	1985年7月20日～9月1日(44日)	18,782人	426人
庭園美術館への誘い 東京都美術館収蔵作品より	1985年9月12日～24日(13日)	4,166人	320人
"20世紀オーストラリア美術名作展 ニューサウスウェールズ州立美術館収蔵品とフレッド・ウィリアムズ“ビルバラ”シリーズ"	1985年10月4日～11月6日(32日)	13,086人	408人
東京・ニューヨーク姉妹都市提携25周年記念 写真展 NEW YORK・ニューヨーク	1985年11月17日～12月22日(34日)	19,713人	579人
1986 昭和61年			
回想の江戸・東京展	1986年1月11日～2月23日(42日)	17,150人	408人
庭園美術館へのいざない 12人の現代彫刻家	1986年3月2日～4月16日(43日)	14,321人	333人
ピカソに捧げる詩―スペイン現代美術の巨匠 アントニー・クラーベ展	1986年4月27日～6月30日(61日)	30,374人	497人
生誕120年記念 黒田清輝展	1986年7月11日～8月10日(30日)	58,130人	1,938人
日本の子どもの本歴史展 17世紀より19世紀までの絵入り本を中心に	1986年8月17日～9月23日(36日)	21,963人	610人
太田道灌記念美術展 室町美術と戦国画壇	1986年10月5日～11月9日(34日)	20,319人	597人
東京都美術館収蔵品を中心に 庭園美術館へのいざない パートⅢ アール・デコと1920・30年代のART	1986年11月20日～12月21日(30日)	12,970人	432人
1987 昭和62年			
日本のガラス造形―昭和	1987年1月10日～3月22日(67日)	34,910人	521人
アンデスの染織と工芸 チャビン文化期からインカ帝国まで	1987年4月4日～5月12日(37日)	31,535人	852人
東京・バリ友好都市提携記念写真展 美しき日本	1987年5月23日～6月30日(36日)	23,921人	664人
小磯良平展	1987年7月11日～8月30日(48日)	54,555人	1,136人
ブールデル/デュフェ 二人の先駆者:彫刻とアール・デコ家具	1987年9月12日～11月23日(69日)	42,508人	616人
「新東京百景」展	1987年11月29日～12月22日(23日)	10,573人	459人
1988 昭和63年			
回想の江戸・東京Ⅱ	1988年1月10日～2月14日(33日)	20,614人	624人
文人精神に生きた油絵画家 牧野虎雄・宮宮一念展	1988年2月25日～3月27日(30日)	13,302人	443人
アール・デコ ガラスの巨匠 ルネ・ラリック展	1988年4月5日～5月29日(51日)	105,901人	2,076人
東京・バリ友好都市提携記念 写真展 パリ・街・人 アジェとカルティエ＝ブレスソン	1988年6月4日～7月24日(48日)	52,791人	1,099人
親子で楽しむ 西洋美術の名作展	1988年7月31日～9月4日(34日)	41,101人	1,208人
世紀末に異彩を放つオランダの画家 ヤン・トロープ展	1988年9月20日～11月6日(45日)	36,407人	809人
東京・バリ友好都市提携記念 レオナルド・フジタ展	1988年11月12日～1989年2月21日(90日)	86,549人	961人
1989 昭和64年 平成元年			
平成4年度開館予定 東京都江戸東京博物館所蔵品展	1989年3月1日～3月28日(26日)	18,679人	718人
写真展 ヘルムート・ニュートン ポートレート	1989年4月5日～5月14日(37日)	43,902人	1,186人
楽園からのメッセージ フンデルトワッサー展	1989年5月21日～7月11日(49日)	34,299人	699人
日本近代洋画の巨匠 藤島武二展	1989年7月19日～9月3日(47日)	29,623人	630人
江戸東京400年記念展覧会 江戸美術の祝祭	1989年9月14日～10月24日(39日)	31,338人	803人
生誕100年記念 国吉康雄展 ニューヨークの憂愁	1989年11月1日～12月24日(51日)	45,985人	901人
1990 平成2年			
旧朝香宮邸のアール・デコ	1990年1月11日～2月4日(24日)	32,843人	1,368人
ドイツ・ロマン派の時代展 ナザレ派・フリードリヒ・ベックリン	1990年2月18日～3月25日(34日)	27,612人	812人
銅版画の巨匠 浜口陽三展	1990年4月3日～6月3日(58日)	40,048人	690人
光と香りの芸術 ルネ・ラリックの香水瓶展	1990年6月16日～8月5日(48日)	54,006人	1,125人
古代ギリシャ美術展	1990年8月18日～9月23日(35日)	39,368人	1,124人
東京・ニューヨーク姉妹都市提携30周年記念 エドワード・ホッパー展 ホイットニー美術館所蔵作品より	1990年10月6日～12月16日(67日)	56,579人	844人
1991 平成3年			
アール・ヌーヴォー ガラス芸術の華 ルイス・C・ティファニー展	1991年1月12日～3月17日(61日)	108,803人	1,784人

旧朝香宮邸のアル・デコ 東京都庭園美術館建物公開	1991年3月24日～3月31日(7日)	4,895人	699人
子どもの本・1920年代展	1991年4月6日～5月26日(47日)	43,152人	918人
ポスター―英雄時代の巨匠 カッサンドル展 松本瑠樹:ART DECOコレクションより	1991年6月2日～7月14日(40日)	25,620人	640人
小磯良平遺作展	1991年7月20日～8月27日(37日)	54,069人	1,461人
贈答の美 秋紗展	1991年9月14日～10月13日(28日)	20,969人	748人
企業コレクションによる 世界の名作展	1991年11月2日～12月20日(46日)	45,134人	981人
1992 平成4年			
ベルリン東洋美術館名品展	1992年1月12日～2月17日(35日)	29,424人	840人
旧朝香宮邸のアル・デコ 東京都庭園美術館建物公開	1992年2月29日～3月24日(24日)	23,971人	998人
巴里・モダン1910-30年代 ポスター・挿絵・絵画・写真・映像にみる視覚メディアの新時代	1992年4月4日～5月24日(48日)	39,494人	822人
ロバート・メイブルソープ展	1992年6月2日～7月2日(29日)	48,537人	1,673人
現代日本洋画家と日本画家との対話 日本洋画再考展	1992年7月10日～8月5日(26日)	16,334人	628人
洋画の動乱 昭和10年 帝展改組と洋画壇―日本・韓国・台湾	1992年8月14日～10月6日(51日)	23,949人	469人
"東京・パリ友好都市提携10周年記念 卓上の芸術 フランスのテーブル・アート200年 ボンパドゥール夫人のテーブルからピカソの絵皿まで"	1992年10月17日～12月10日(51日)	58,226人	1,141人
旧朝香宮邸のアル・デコ 東京都庭園美術館建物公開	1992年12月18日～1993年1月21日(25日)	9,689人	387人
1993 平成5年			
自然の抒情詩 ドーム・ガラス展 フランス ナンシー市立美術館所蔵品を中心に	1993年1月31日～3月15日(41日)	51,505人	1,256人
旧朝香宮邸のアル・デコ展 東京都庭園美術館建物公開	1993年4月3日～4月13日(11日)	10,550人	959人
パリに生きた銅版画の巨匠 長谷川潔展 版画・油彩・デッサンを中心に	1993年4月29日～7月7日(66日)	39,790人	602人
デ・キリコ展 1920-1950	1993年7月16日～8月15日(29日)	40,297人	1,389人
大正日本画の若き俊英たち 今村紫紅と赤曜会	1993年8月21日～9月23日(31日)	21,348人	688人
東京都庭園美術館開館10周年記念 20世紀のエレガンス アル・デコ様式のセーブル磁器展	1993年10月2日～12月19日(74日)	51,140人	691人
1994 平成6年			
旧朝香宮邸の建築と歴史 東京都庭園美術館建物公開	1994年1月15日～2月13日(38日)	15,529人	408人
近代絵画にみる西洋と日本 全国美術館コレクション名品展	1994年3月3日～3月31日(27日)	39,565人	1,465人
旧朝香宮邸のアル・デコ展 東京都庭園美術館建物公開	1994年4月5日～4月17日(12日)	13,026人	1,085人
スウェーデンの国民画家 カール・ラーション展	1994年4月23日～5月31日(36日)	72,228人	2,006人
ヨーロッパ工芸新世紀展	1994年6月11日～7月31日(48日)	47,946人	998人
1995 平成7年			
旧朝香宮邸のアル・デコ 東京都庭園美術館建物公開	1995年3月10日～3月19日(10日)	7,960人	796人
カルティエ・コレクション 鉤欄のジュエリー フランス宝飾芸術の世界展	1995年4月8日～5月28日(47日)	107,556人	2,288人
エリザベス二世女王陛下コレクション ウィンザー城王立図書館所蔵 レオナルド・ダ・ヴィンチ 人体解剖図	1995年6月10日～7月30日(47日)	55,239人	1,175人
アメリカに生きた日系人画家たち 希望と苦悩の半世紀 1896-1945	1995年8月12日～10月1日(48日)	26,223人	546人
ジャズを愛し、ニューヨークを生きた スチュアート・デイヴィス展	1995年10月10日～11月26日(44日)	22,015人	500人
動物たちのシンフォニー エドゥアール・サンド彫刻展	1995年12月7日～1996年2月13日(57日)	20,091人	352人
1996 平成8年			
旧朝香宮邸のアル・デコ 東京都庭園美術館建物公開	1996年2月24日～3月24日(28日)	33,567人	1,198人
旧朝香宮邸のアル・デコ 東京都庭園美術館建物公開	1996年4月1日～5月26日(52日)	42,205人	811人
生誕100年記念 林武展	1996年6月15日～7月28日(41日)	33,584人	819人
日本工芸の青春期1920s-1945	1996年8月10日～9月17日(36日)	19,833人	550人
美食もてなしの芸術 北大路魯山人展	1996年10月5日～11月24日(48日)	83,449人	1,739人
遙かなる東洋紀行 ジョージ・チネリーと知られざる19世紀広東・マカオ・香港の美術展	1996年12月7日～1997年2月11日(55日)	16,056人	291人
1997 平成9年			
ブーシキン美術館所蔵 イタリア・バロック絵画展	1997年2月20日～3月30日(36日)	25,790人	716人
アルザスとフランス近代美術の歩み ストラスブル近代美術館展	1997年4月5日～5月25日(48日)	29,266人	609人
パリ国立オペラ座衣裳展	1997年6月14日～8月17日(61日)	55,938人	917人
東南アジア―近代美術の誕生	1997年9月6日～10月12日(34日)	14,281人	420人
フォンタネージと日本の近代美術 志士の美術家たち	1997年10月23日～12月14日(50日)	21,756人	435人
旧朝香宮邸のアル・デコ 東京都庭園美術館建物公開	1997年12月21日～1998年1月27日(28日)	8,879人	317人
1998 平成10年			
工芸のジャポニスム展	1998年2月7日～3月24日(43日)	34,584人	804人
華麗なる馬たち 馬と人間の美術史・バロックから近代まで	1998年4月4日～5月26日(50日)	33,304人	666人
イタリアのガラス1930-1970	1998年6月6日～7月26日(47日)	38,446人	818人
パリ市立ザッキン美術館蔵 ザッキン―彫刻と素描展	1998年8月8日～9月27日(47日)	16,880人	359人
静かなる時の流れのなかで ジョルジョ・モランディ 花と風景	1998年10月10日～11月29日(47日)	35,660人	758人
旧朝香宮邸のアル・デコ 東京都庭園美術館建物公開 旧第一応接室、旧小食堂 新規公開	1998年12月12日～1999年3月21日(86日)	34,054人	395人
1999 平成11年			
東京都庭園美術館建物公開 イセ・コレクションによる 名画の花束 フランス近代絵画を中心に	1999年4月3日～5月30日(54日)	33,897人	628人
20世紀の創造 アル・ヌーヴォーとモダン・デザインの源流 リバティ・スタイル展	1999年6月12日～7月25日(42日)	29,380人	700人
没後25年 写実と幻想の巨匠 宮本三郎展	1999年8月7日～9月19日(41日)	17,846人	435人
パリ・モード1870-1960 華麗なる夜の時代	1999年10月2日～12月19日(74日)	64,029人	865人

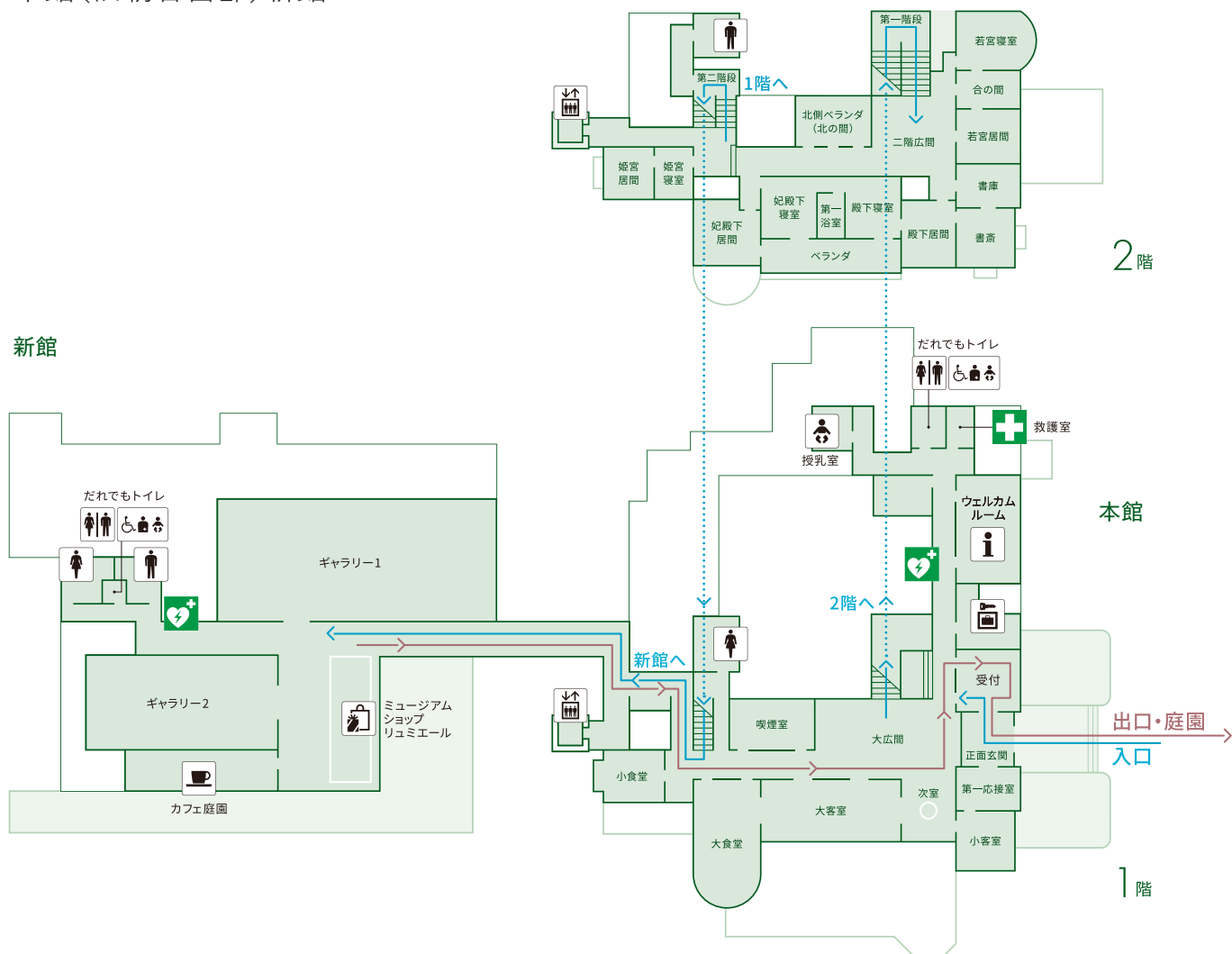
2000 平成12年			
アール・デコと東洋 1920-30年代・パリを夢みた時代	2000年1月8日～3月21日(69日)	28,283人	410人
デペロの未来派芸術展 20世紀イタリア・デザインの源流	2000年4月4日～5月23日(47日)	29,053人	618人
指輪 ちいさな記念碑の物語	2000年6月7日～8月6日(57日)	37,336人	655人
旧朝香宮邸のアール・デコ展 東京都庭園美術館建物公開	2000年8月19日～10月29日(67日)	28,725人	429人
ルネ・ラリック1860-1945展	2000年11月11日～2001年1月31日(69日)	68,149人	988人
2001 平成13年			
ポスター・芸術の革命 ロシア・アヴァンギャルド展 ステンベルグ兄弟を中心に	2001年2月10日～4月1日(47日)	28,030人	596人
ジョルジュ・ルース展 幾何学的形態の中の緊張	2001年4月7日～6月3日(54日)	34,124人	632人
イタリア陶磁器の伝統と革新 ジノリ展	2001年6月16日～8月19日(61日)	54,747人	896人
安田侃一彫刻展 東京都庭園美術館建物公開	2001年8月25日～9月16日(22日)	8,107人	369人
安田侃一野外彫刻展	2001年4月12日～2002年3月17日併催		
カラヴァッジョ 光と影の巨匠―バロック絵画の先駆者たち	2001年9月29日～12月16日(76日)	185,597人	2,442人
2002 平成14年			
旧朝香宮邸のアール・デコ展 東京都庭園美術館建物公開	2002年1月5日～3月17日(67日)	31,171人	465人
イタリア・ファエンツァ国際陶芸博物館所蔵 マジョリカ陶展	2002年4月4日～6月23日(76日)	47,458人	624人
ソニア・ドローネ	2002年7月6日～9月8日(61日)	28,562人	468人
フランス銀器の系譜 ビュイフォルカ展	2002年9月21日～12月1日(68日)	41,930人	616人
2003 平成15年			
旧朝香宮邸のアール・デコ 東京都庭園美術館建物公開	2003年1月4日～4月6日(81日)	31,593人	390人
東京都庭園美術館開館20周年記念 ヨーロッパ・ジュエリーの400年 ルネサンスからアール・デコまで	2003年4月24日～7月1日(65日)	79,812人	1,228人
東京都庭園美術館開館20周年記念 生誕120年 マリー・ローランサン回顧展	2003年7月19日～9月15日(55日)	44,656人	812人
東京都庭園美術館開館20周年記念 アール・デコ様式 朝香宮がみたパリ	2003年10月1日～2004年2月1日(105日)	66,320人	631人
2004 平成16年			
パリ市立ブティ・パレ美術館所蔵 バリ1900 ペル・エボックの輝き	2004年2月21日～4月11日(48日)	55,076人	1,147人
シルクロードの装い バリ・コレに花開いた遊牧の民の美	2004年4月24日～6月20日(54日)	35,585人	658人
幻のロシア絵本 1920-30年代展	2004年7月3日～9月5日(61日)	43,247人	708人
色彩と幻想の画家 エミール・ノルデ	2004年9月18日～11月7日(48日)	30,174人	628人
田原桂一 光の彫刻	2004年11月20日～2005年1月23日(54日)	25,044人	463人
2005 平成17年			
日本のジュエリー100年 私たちの装身具:1850-1950	2005年2月5日～4月10日(61日)	33,131人	543人
ベルギーが生んだ異端の画家 ジェームズ・アンソール展	2005年4月23日～6月12日(47日)	26,116人	555人
没後二十五年 八木一夫展 陶芸の冒険―オブジェと茶わん	2005年7月2日～8月21日(48日)	17,067人	356人
庭園植物記	2005年9月3日～11月6日(61日)	31,381人	514人
華麗なるマイセン磁器 シノワズリー、ロココからアール・ヌーヴォーまで	2005年11月19日～2006年1月22日(55日)	40,750人	741人
2006 平成18年			
宇治山哲平展 絵に遊び、絵に憩う	2006年2月4日～4月9日(61日)	21,262人	348人
北欧のスタイリッシュ・デザイン フィンランドのアラビア窯	2006年4月22日～6月18日(54日)	52,312人	968人
旧朝香宮邸のアール・デコ 小客室新規公開	2006年7月8日～10月1日(80日)	56,604人	707人
アール・デコ・ジュエリー 宝飾デザインの鬼才シャルル・ジャコーと輝ける時代	2006年10月14日～2007年1月14日(80日)	57,423人	717人
2007 平成19年			
だれも知らなかった アルフレッド・ウォリス ある絵描きの物語	2007年2月3日～3月31日(53日)	25,168人	474人
大正シック モダン日本の里帰り ホノルル美術館所蔵品より	2007年4月14日～7月1日(74日)	42,926人	580人
舞台芸術の世界 ディアギレフのロシアバレエと舞台デザイン	2007年7月26日～9月17日(51日)	27,254人	534人
世界を魅了したティファニー 1837-2007	2007年10月6日～12月16日(67日)	93,403人	1,394人
アール・デコの館 アール・デコ&コンサート じっくり見よう!アール・デコ	2007年12月23・24日/ 2008年1月12日～14日(5日)	5,999人	1,199人
2008 平成20年			
建築の記憶 写真と建築の近現代	2008年1月26日～3月31日(63日)	30,819人	489人
世界に誇る和製テーブルウェア オールドノリタケと懐かしの洋食器	2008年4月17日～6月15日(56日)	37,528人	670人
舟越桂 夏の邸宅 アール・デコ空間と彫刻、ドローイング、版画	2008年7月19日～9月23日(64日)	49,316人	770人
庭園美術館建物公開 アール・デコの館	2008年10月1日～10月13日(13日)	12,079人	929人
開館25周年記念 1930年代・東京 アール・デコの館(朝香宮邸)が生まれた時代	2008年10月25日～2009年1月12日(69日)	28,917人	419人
2009 平成21年			
開館25周年記念 ボワレとフォルチュニ 20世紀モードを変えた男たち	2009年1月31日～3月31日(58日)	31,699人	546人
国立エルミタージュ美術館所蔵 エカテリーナ2世の四大ディナーセット ヨーロッパ磁器に見る宮廷晩餐会	2009年4月16日～7月5日(76日)	52,027人	684人
ステッチ・バイ・ステッチ 針と糸で描くわたし	2009年7月18日～9月27日(68日)	44,441人	653人
日本磁器ヨーロッパ輸出350周年記念 バリに咲いた古伊万里の華	2009年10月10日～12月23日(70日)	65,489人	936人
2010 平成22年			
イタリアの印象派 マッキアイオーリ 光が描いた近代画家たち	2010年1月16日～3月14日(54日)	43,172人	799人
庭園美術館建物公開 アール・デコの館	2010年3月25日～4月11日(18日)	21,151人	1,175人
ロトチェンコ+ステパーノワ ロシア構成主義のまなざし	2010年4月24日～6月20日(54日)	36,939人	684人
没後25年 有元利夫展―天空の音楽	2010年7月3日～9月5日(61日)	44,713人	733人
きらめく装いの美 香水瓶の世界	2010年9月18日～11月28日(67日)	60,831人	907人
東京都庭園美術館建物公開 朝香宮のグランドツアー	2010年12月11日～2011年1月16日(28日)	12,208人	436人

2011 平成23年				
20世紀のポスター[タイポグラフィ] デザインのちから、文字のちから	2011年1月29日～3月27日(50日)	30,948人	618人	
森と芸術 私たちの中にひそむ森の記憶をたどってみよう	2011年4月16日～7月3日(74日)	44,209人	597人	
国立エルミタージュ美術館所蔵 皇帝の愛したガラス	2011年7月14日～9月25日(70日)	51,422人	735人	
アール・デコの館 東京都庭園美術館建物公開	2011年10月6日～10月31日(24日)	52,366人	2,182人	
2014 平成26年				
アーキテクト/1933/Shirokane アール・デコ建築をみる	2014年11月22日～12月25日(32日)	40,511人	1,266人	
内藤礼 信の感情				
2015 平成27年				
東京都庭園美術館開館30周年記念 幻想絶佳:アール・デコと古典主義	2015年1月17日～4月7日(76日)	60,450人	795人	
フランス国立ケ・ブランリ美術館所蔵 マスク展	2015年4月25日～6月30日(63日)	55,789人	886人	
アール・デコの邸宅美術館 建築をみる2015 + ART DECO COLLECTORS	2015年7月18日～9月23日(64日)	52,321人	818人	
オットー・クンツリ展	2015年10月10日～12月27日(73日)	34,492人	472人	
2016 平成28年				
ガレの庭 花々と声なきものたちの言葉	2016年1月16日～4月10日(81日)	66,121人	816人	
日伊国交樹立150周年記念 メディチ家の至宝 ルネサンスのジュエリーと名画	2016年4月22日～7月5日(70日)	108,970人	1,556人	
こどもとファッション 小さい人々への眼差し	2016年7月16日～8月31日(44日)	22,669人	515人	
アール・デコの花井 旧朝香宮邸の室内空間	2016年9月22日～12月25日(89日)	67,646人	760人	
クリスチャン・ボルタンスキー アニミタスーさざめく亡霊たち				
2017 平成29年				
並河靖之 七宝展 明治七宝の誘惑一透明な黒の感性	2017年1月14日～4月9日(81日)	63,752人	787人	
装飾は流転する「今」と向きあう7つの方法	2017年11月18日～2月25日(86日)	38,493人	447人	
2018 平成30年				
アール・デコ・リヴァイヴァル! 建物公開 旧朝香宮邸物語	2018年3月21日～6月12日(79日)	63,346人	801人	
鹿島茂コレクション フランス絵本の世界				
ブラジル先住民の椅子 野生動物と想像力	2018年6月30日～9月17日(75日)	40,251人	536人	
エキゾティック×モダン アール・デコと異境への眼差し	2018年10月6日～2019年1月14日(86日)	44,907人	522人	
2019 平成31年				
岡上淑子 フォトコラージュ 沈黙の奇蹟	2019年1月26日～4月7日(68日)	40,771人	599人	
キスリング展 エコール・ド・パリの夢	2019年4月20日～7月7日(74日)	47,878人	647人	
1933年の室内装飾 朝香宮邸をめぐる建築素材と人びと	2019年7月20日～9月23日(62日)	41,555人	670人	
アジアのイメージ 日本美術の「東洋憧憬」	2019年10月12日～2020年1月13日(80日)	34,072人	425人	
2020 令和2年				
北澤美術館所蔵 ルネ・ラリック アール・デコのガラス モダン・エレガンスの美	"2020年2月1日～2月28日(26日) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため2月29日～4月7日は休止"	14,488人	557人	
建築をみる2020 東京モダン生活 東京都コレクションにみる1930年代	"2020年6月1日～9月27日(111日) ※4月18日～6月23日より会期変更 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月18日～5月31日は休止"	39,632人	357人	
生命の庭 8人の現代作家が見つけた小宇宙	2020年10月17日～2021年1月12日(75日)	34,877人	465人	
2021 令和3年				
20世紀のポスター[図像と文字の風景] ビジュアルコミュニケーションは可能か?	2021年1月30日～4月11日(67日)	34,614人	516人	
建物公開2021 艶めくアール・デコの色彩	"2021年4月24日、6月1日～6月13日(13日) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月25日～5月31日は休止"	6,895人	530人	
ルネ・ラリック リミックス 時代のインスピレーションをもとめて	2022年6月26日～9月5日(65日)	25,957人	399人	
キューガーデン 英国王室が愛した花々 シャーロット王妃とボタニカルアート	2021年9月18日～11月28日(62日)	48,532人	783人	
2022 令和4年				
奇想のモード 装うことへの狂気、またはシュルレアリスム	2022年1月15日～4月10日(74日)	43,763人	591人	
建物公開2022 アール・デコの貴重書	2022年4月23日～6月12日(44日)	32,297人	734人	
蟠川実花 瞬く光の庭	2022年6月25日～9月4日(62日)	49,432人	797人	
旅と想像／創造 いつかあなたの旅になる	2022年9月23日～11月27日(57日)	29,422人	516人	
交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー	2022年12月17日～2023年3月5日(61日)	30,475人	500人	
2023 令和5年				
建物公開2023 邸宅の記憶	2023年4月1日(土)～6月4日(日)(56日)	44,295人	791人	
フィンランド・グラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン	2023年6月24日(土)～9月3日(日)(62日)	47,896人	773人	
装飾の庭 朝香宮邸のアール・デコと庭園芸術	2023年9月23日(土)～12月10日(日)(68日)	49,797人	732人	
2024 令和6年				
開館40周年記念 旧朝香宮邸を読み解く A to Z	2024年2月17日(土)～5月12日(日)(74日)	58,072人	784人	
生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界	2024年6月1日(土)～8月25日(日)(74日)	59,448人	803人	
建物公開2024 あかり、とるとき	2024年9月14日(土)～11月10日(日)(50日)	55,302人	1,106人	
そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵	2024年11月30日(土)～2025年2月16日(日)(61日)	54,186人	888人	
2025 令和7年				
戦後西ドイツのグラフィックデザイン モダニズム再発見	2025年3月8日(土)～5月18日(日)(62日)			

施設配置図



本館(旧朝香宮邸)新館



茶室

